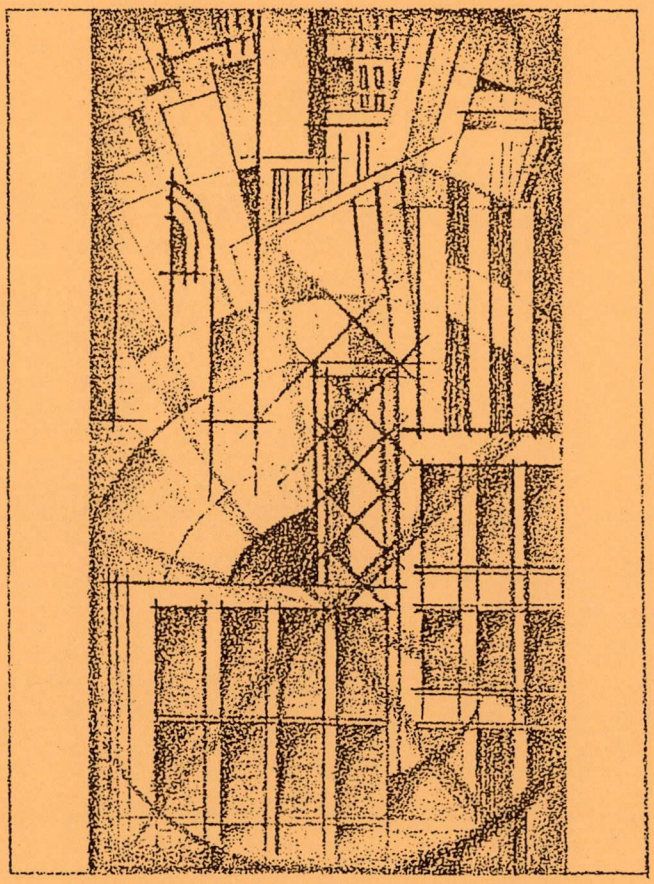
建築と社會

第八輯　第壹號



大正十四年一月一日

現出器房暖的想理

THE AUTOMATIC
Gas Steam Radiator

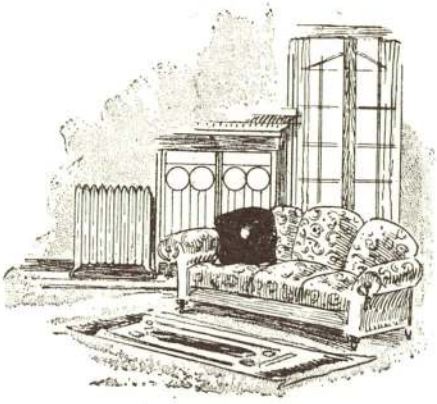
MANUFACTURED BY

Automatic Gas Steam Radiator Co.

U. S. A.

衛生第一　經費節約

體裁優美　取付簡單



詳細最寄支店ニ御問合被下度候

日本總代理店

內田商事株式會社

神戸　東京　大阪







第會社と築建

■表紙繪　懸賞募集に係る第一等當選
■本誌カット（凸版）　洋畫家……齋藤與里氏

◉「歳」と「時間」……（一）
◉解題……（二）

論策

△我建築界の進路に就いて……片岡　安…（三）
△都市美觀の生産的價値……西村　健吉…（一一）
△貯藏と建築……松井　清足…（一六）
△大正十三年の建築界……黒田　鵬心…（七）
△倫理的認識對象としての現代建築……山崎萬壽夫…（一四）
△觀たる或青年建築家の手記……伊藤　正文…（一七）
△希臘時代の彫刻論……古塚　正治…（二一）



●古建築行脚

大原三千院……池田谷久吉…(三三)

萬德寺と明通寺……宮飼克二…(四七)

△板硝子の今昔……磯田次郎…(五〇)

△樺太の事ども……中村義雄…(三七)

△太陽の村に就いて……安野二位夢…(五四)

創作

街燈と語る……別所悌一…(六二)

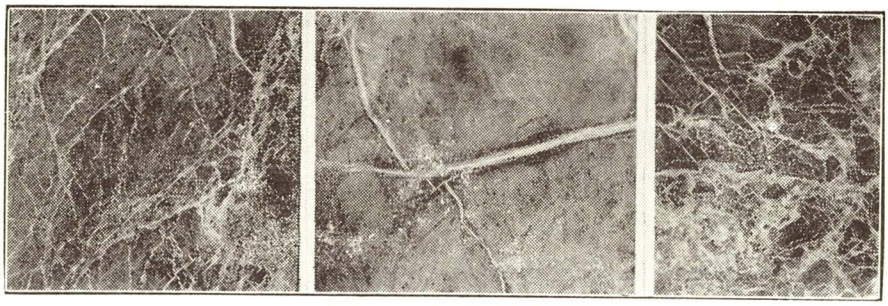
■俳壇……溪舟選…(六〇)

■俳句凡想……

■時事……

◆主要建築材料値段……

大和錦 (A)　　白瀧 (A)　　白瀧 (B)



錆色青磁色ニ白模様　　薄青磁色ニ濃青磁色並ニ白模様　　青磁色ニ白模様

本店	鳥取市立川町一ノ五九
東京販賣所	東京市日本橋區小網町三ノ二四(電大手七一一六)
大阪販賣店	大阪市北區芝田町一〇六番地電話北一六七〇
採掘地	鳥取縣八頭郡若櫻町字赤松

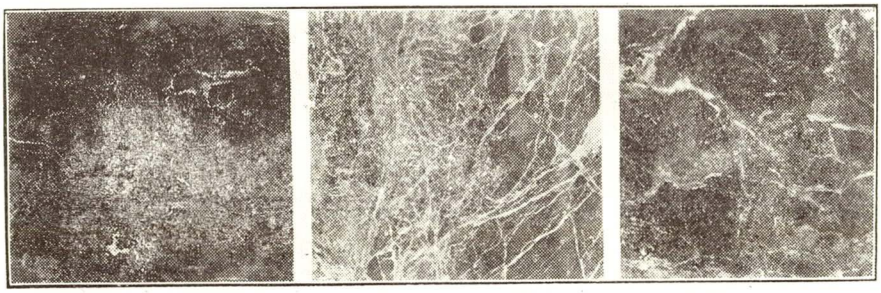
旭大理石商會

蛇紋石

礦量豐富　大材採取

耐火耐酸　價格低廉

若櫻　　大和錦 (A)　　若櫻



濃青磁色ニ朱色模様　　錆色青磁色ニ白模様　　濃青磁色ニ朱色模様



クレセントビルディングの玄關口詳細

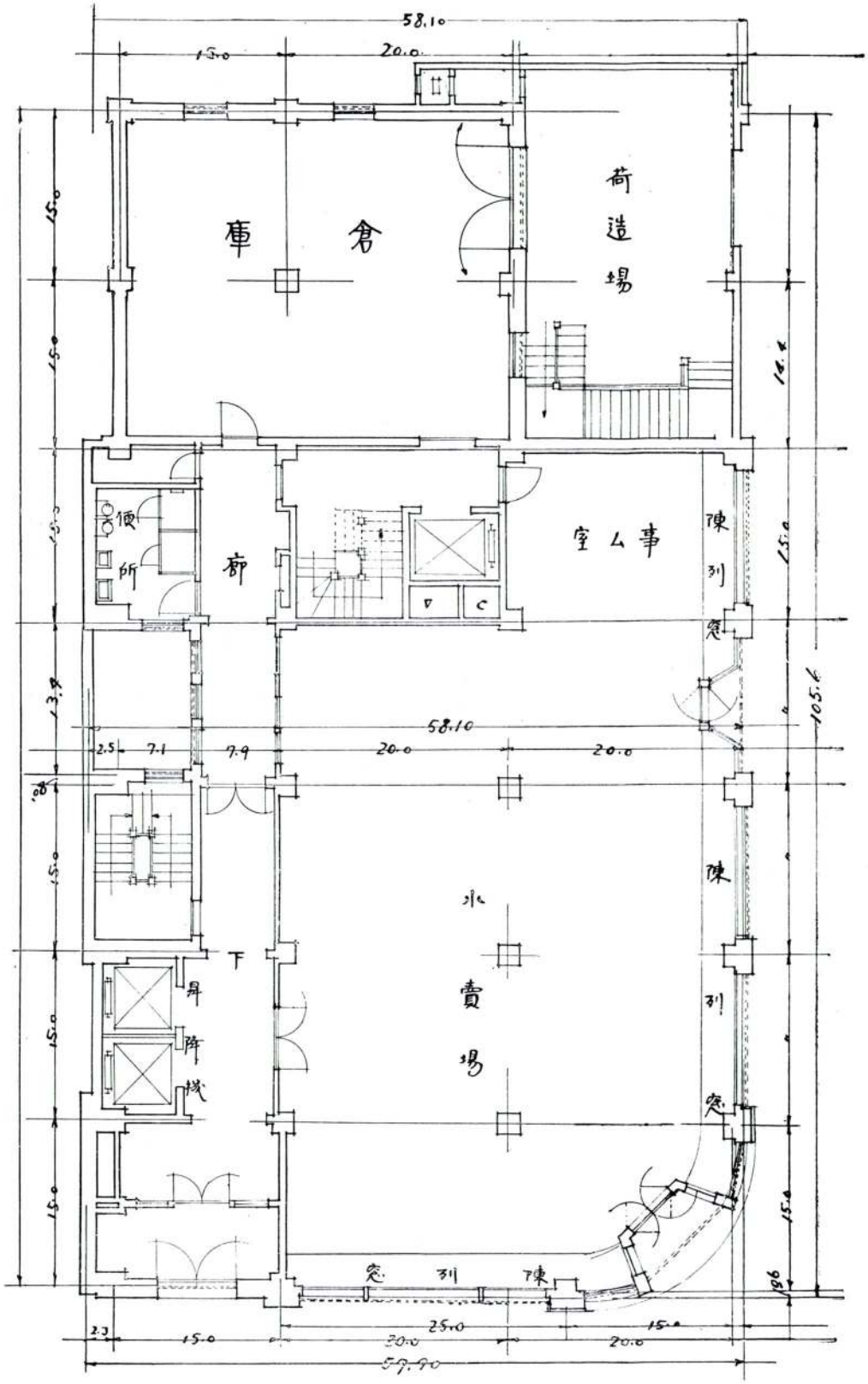
所在　神戸市京町



クレセントビルディング外観

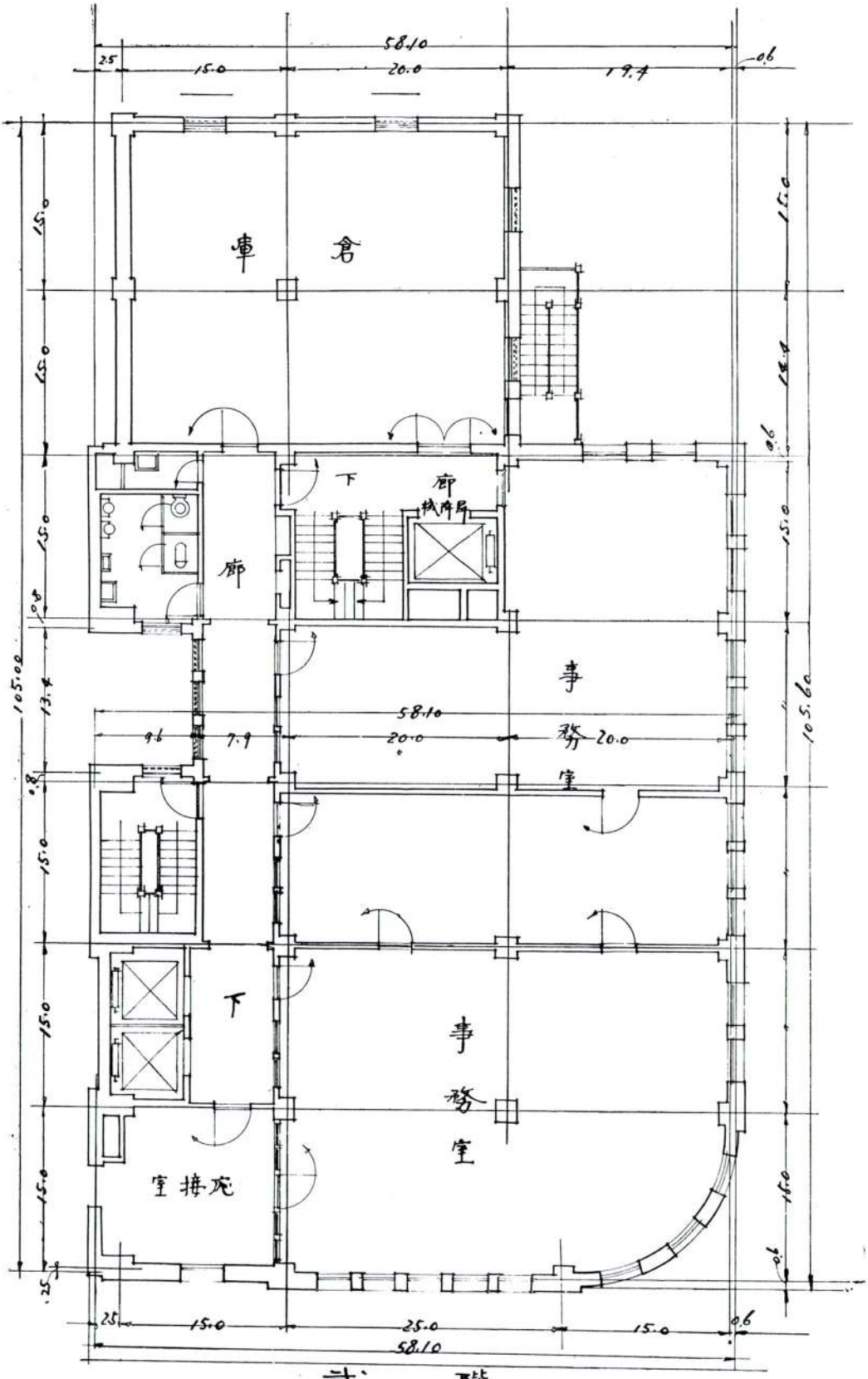


明治屋大阪支店


58.10
15.0
20.0
荷造場
倉庫
便所
廊下
事務室
陳列窓
58.10
2.5
7.1
7.9
20.0
20.0
昇降機
水
賣場
陳列窓
窓列陳
2.3
15.0
25.0
20.0
15.0
20.0
57.90
105.6

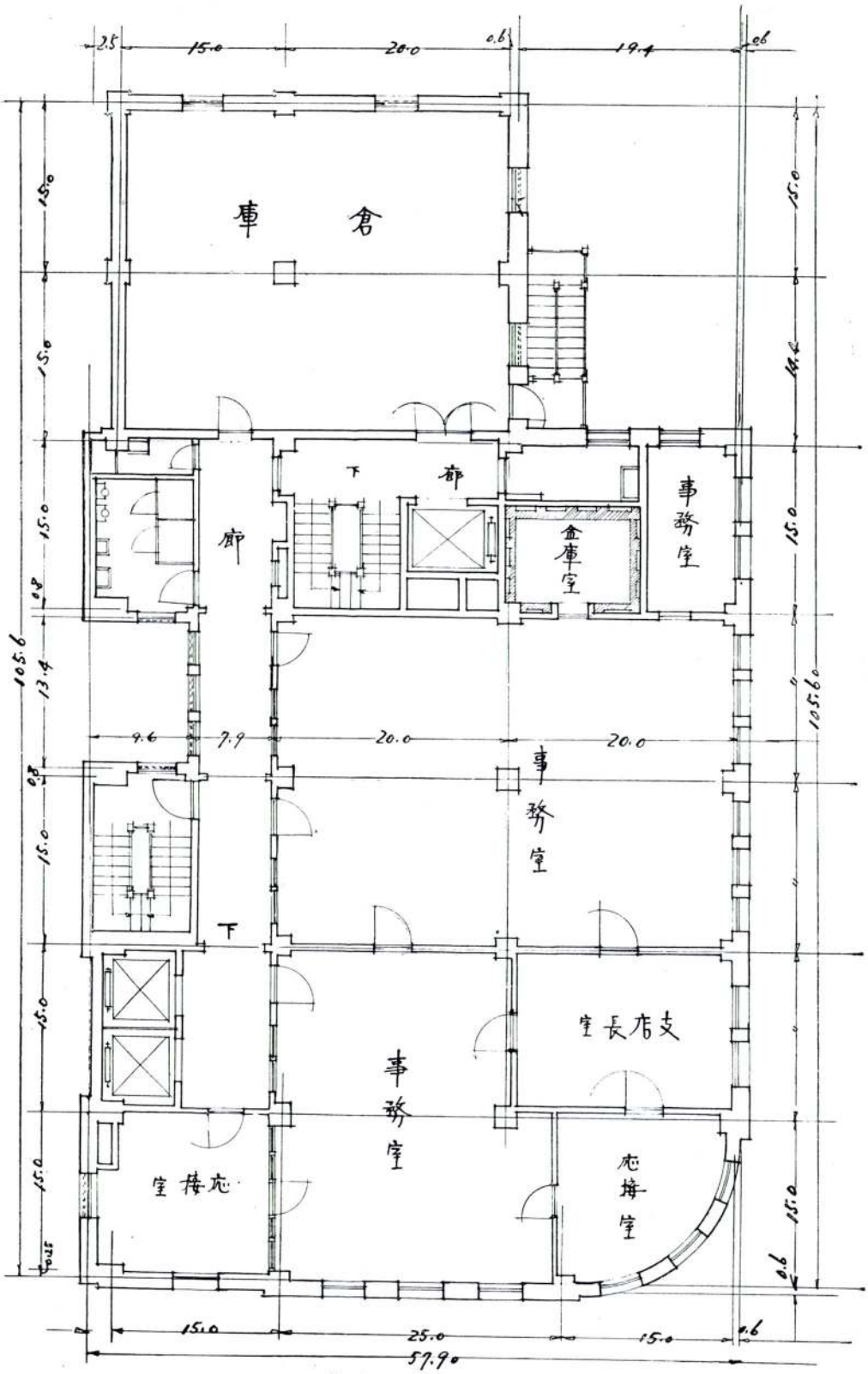
壹階

店支阪大屋治明


58.10
25
15.0
20.0
19.4
0.6
車倉
下
廊
機械室
廊
105.00
105.60
58.10
9.6
7.9
20.0
20.0
事務室
下
事務室
室接応
25
15.0
25.0
15.0
0.6
58.10

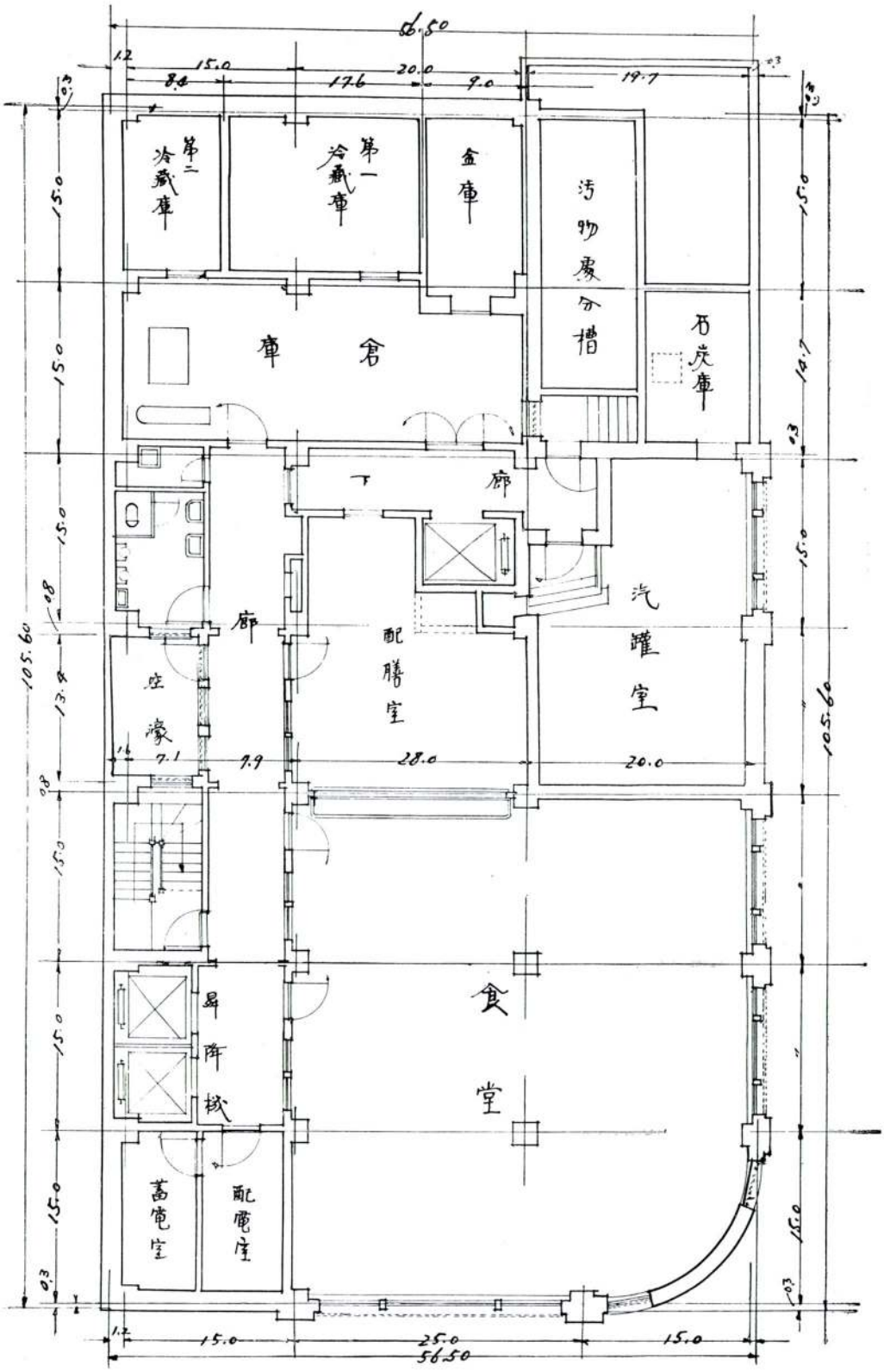
貳階

店支阪大屋治明



参階

大阪支店 明治屋


第二冷藏庫
第一冷藏庫
金庫
汚物處分槽
石炭庫
倉庫
廊下
廊
空濠
配膳室
汽罐室
昇降機
食堂
蓄電室
配電室
56.50
105.60

地階

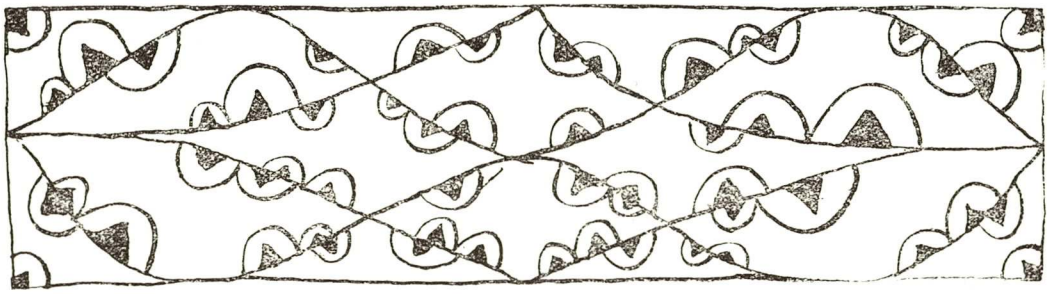
店支阪大屋治明



『歳』と『時間』

郊外

我等は、亦、劫遠に流れ竭きざる「時間」の瞬間を抽象的に劃し、新しいと自意識する概念の下に立ちて、茲に、大正十四年、一千九百二十五年と呼ぶ。氏アンリー・ベルグソンは、「時間」を說いて、『純粹持續即ち我が其のまゝに生きて行く所に存する意識狀態繼續の形』と謂ひ、『多樣の觀念は互に融合透化して、意識狀態が質的變化を持續し、――種々の觀念感情は、何處に境といふものなく、或は豊富、或は貧弱に、自發的に、有機的に湧起化成し、意識は、全體として調子を變へ、色彩を變へて持續し行くのが、我々の直感し得べき事實ではないか』と敎へた。されば、新年を祝く新しいと云ふ氣持ちは卽ち、竭きざる時間の或るポイントに立つて、前程を、多少の希望と欲求の光りに照しつつ凝視するのは、所詮、我等の劫遠な路程を、奈何に歩まむとするかに在る。而して、往きて竭きざる「生命の歩み」は今「人生」といふ一線を辿りつつある。我等は、斯の質的瞬間を、竭くべき人生を、奈何に歩むべきか。等しく、氏ベルグソンは我等に誨へた、『人生は歡喜(ジョイ)であり、所謂快樂(プレジュア)にあらず。大なる歡喜は勝利のしるしなり。而して、此の事實は、喜びある所必づ創造あるを語れり、創造の豊かなるに從つて、歡喜は一層深し。恰も藝術家が、その所思を表現して或る作物を爲し、思索家が或る發見を爲して大なる歡喜を覺ゆるは此處に意義あり。彼れが感ずる創造の喜びは卽ち神の喜びなり。人生の勝利は創造に在り』と。純粹持續と說かれたる「時間」は、要するに、創造の歡喜に生くる勝利そのものである、と解して支障へない。大正十四年、それは、我等の、より良い創造の生涯であらねばならぬ。



題解

我建築界の進路に就いて

先づ、建築物を藝術に支配さるゝ實用物として、即ち社會民衆の必要とする容器として考へ、それの對社會的關係を以て建築界の仕事となすと曰ふ假定より出發してその論議を進め、建築技術家が二十年來の提唱に尚ほ共鳴を得なかつた問題が今や忽然として我國民の理解を得たことは、一大急進的成功なりと說き、模倣は奈何なる藝術に於ても奈何なる建設の技術に於ても當然迴るべき階梯なるも、何時までもその狀態を脫し得ざるは、國民の恥辱であり、損害でありと述べ、我建築の模倣的教育の徑路を叙し、轉じて建築物の集團的計畫は現代都市の要求なるに拘はらず、最近まで何等の調査研究を見ざりしを遺憾として、その結果の及ぼせる弊害を指摘し、ついに結んで、一般建築物の集團計畫の方針に於て、建築の構造及樣式に於て、又その施工上の改善に於て、未だ適當なる訓練を得て居らざるを慨し、我建築界人士の斯點に覺醒せむことを慫慂せり。

大正十三年の建築界

大正十二年の建築界は一大破壞の厄難に遭遇せしが、都市計畫は之が爲に可なり徹底的に行はれ、今後の地震と火災に對する保障となりしは轉禍爲福なりと說き、而して大正十三年はその破壞の後を享けて建設の第一步を踏み出したものと做し、バラック建築、修繕工事、竣工せる大建築、住宅建築の改造の各項に亘つて、過去一年間に於ける氣運と傾向とを詳叙せり。

都市美の生産的價値

古代都市計畫に於ける美觀中心主義の由來を說き、現代の都市計畫は、經濟的と衞生的に中心を置けるのとその主張を異にせるが、古代の都市美は局部的にして、主權者の威力を誇示せるに過ぎず、全市を擧げて生産化し化美することは近代都市計畫の新理想なるを述べ、古代都市の美觀は主として純藝術品若くは實用化されたる藝術品によつて都市美を增進されしこと、現代のそれは保健的、經濟的、保安的必要品を藝術化することによつてヨリ多く增進されむと斷じて、種々なる例證を擧げ、美觀の生産上に及ぼす價値の甚大なることを述べて稿を結べり。

貯藏と建築

貯藏が一國の富力に及ぼす影響を述べ、貯藏と建築の關係を說き、歐米に於ける貯藏問題の歷史と現施設を詳叙し、我國の貯藏問題を奈何にすべきかを、貯藏庫の構造、內部の物理的關係、取扱ひ等一々精細にその方法等を叙して、我國人の斯問題に充分なる留意を促せり。



我建築界の進路に就いて

片岡安

我建築界の進むべき方針に就ては從來數次論議されたけれども、未だに決定された問題とは思はれぬ。新年匆々かゝる問題を提唱することは必ずしも急を要する爲めではないが、されば と言つて何時までも論議をその儘に中止して置くべきではないむしろ頗る重大の事項であつて、我建築界の進展上深刻に其研究を繼續するの要がある。而してその研究に入るには建築とは如何なるものであるかと言ふ基本的の考から出發して其取扱ふべき對照物の内容を明かにせねばならぬのであるが、こゝにはそれを省略し假りに建築物を藝術に支配さるゝ實用物として、即ち社會民衆の必要とする容器として考へ、それの對社會關係を以て建築界の仕事と定め、その假定のもとに我建築界の進まねばならぬ方針を考へて見たい。

我建築界の實情は近來著しく緊張して來たことは事實であつて、殊に關東大震災以來建築物は如何に改良されねばならぬかと言ふ問題はたとへその當時の一時的の現象であつたとはいへ、建築技術家の意見などに超越して朝野一般人士の唱へらるゝ處となつた、從來我々技術家が二十年來唱へながらその共鳴を得るに比較的困難であつた問題を、一朝にして六千萬國民の頭を覺醒したことは、一大急進的成功であつた。建築物の建設が不急の土木として取扱はれ、其設計が一部專門家の餘技の如く考へられ、又其施工が主として一部專門勞働階級の仕事であるように見られた時代は今や全く過ぎ去らんとして居るのである この時に當り我建築界の進路は關東大震災後の國民に覺醒と共に一大積極主義に依りて正々堂々と其本陣を張り、其計畫設計及施工に於て各其部署を定めて勇往邁進の方針を取らねばならぬのである。大正十年都市計畫法及市街地建築物法が發布されて以來、建築界は其形式に於て其實質に於て稍其發展の進路を明かにしたけれども其内容を詳しく觀察するときは、各方面に亘りて未だ模倣追從の時代を脫して居ないような感がするのである。

そもそも模倣は如何なる藝術に於ても、亦如何なる製作及建築の技術に於ても、當然辿るべき第一階梯ではあるが、所謂初期又は幼稚なる時代を意味するものであることは言ふまでもない。建築物の如く其時代其國民の物質的及精神的の文化が集中されねばならぬものに對して何時までもそれを模倣の狀態に置くことは、實にその國民の恥辱であり又損害である。而して我國の建築界の實情は正さにその境涯を脫せんとして未だ其目的を達せざるものでないかと思はれる。吾人は先づ此點に於て目覺めることを急要とするのである。從來我國は固有の建築樣式により、特殊の建造物を經營して來たのであるが　明治維新以來その生活の狀態は一變して、遂に生活の容器たる建築物を改造せねばならぬようになり、そこに模倣建築が第一期の產物として盛んに經營さるゝに至つたことは自然の徑路であつたと言ひ得るのである。明治の初年に銀座の表通りや裏通りに煉瓦造の店舖が經營されたのは明かに計畫の模倣であつた、其後工部大學の建物が建築されたり、その他に諸官衙が建設されたときには其設計は全く模倣であつた、施工に於ても久しく歐米各國の模倣に日も足らざる事情にあつたことも事實である。而して大學その他の敎育機關に於て建築技術を敎養するにも先ぞ第一模倣を以て其方針としたものと見て差支はあるまい。もとより一方に於て日本建築の研究は漸次その緖に就て東洋趣味を以て我國の建築樣式を樹立すべしと云ふ學者も相當にあつたのであるが、如何にせん社會の性急なる要求に對しては兎角其樣式を練る餘裕さへもなく或は英吉利の風に倣ひ、或は獨乙式に或は佛式に其設計を進めたような情態であつた。

建築物の集團的計畫は現代都市の切なる要求であつて、我國の都市にも其必要は漸次迫つて來たのであるが、その研究調査に至つては最近に至るまで全く其緖口さへも見出されずにあつた。其結果部分設計されたる建築物が雜然として舊式の木造建築の間に蹈躙して居ると言ふ狀況であつたのも當然である。又施工に於ても明治の初年より極力歐米の模倣に努めた形跡は著しきものがある。もとより木工石工等の如き我國古來の職工が維持し來りし技工は全然之を度外視さゝる譯にゆかないから、それ等の技工を中心として歐米の手法を之に加味するに過ぎなかつたと見て差支はない。而して其施工の方法も漸次圓熟して來たのであるが、其根本に於て歐米の模倣を主義としたのであるから、文化の進歩と共に進展することは出來ないで、却て甚しき時代後れの方法に拘泥するの已むを得ざるに立至つたのである。一體建築の建設に必要なる各種製造品は最近二三十年間に最も著しき工業的進歩を遂げたので、その應用に就ても驚くべき變遷を來したことは事實である。建築物の設計とその施工が日々それ等の事情と共に進展せねばならぬのであるにも拘らず、我建築界に於ては明治の初年にその當時の歐米のそれに模倣せんと試みたその態度を持續して來たのであるから設計の內容及施工の凡ての點に於て時代後れの情態にあつたのは當然である。大正五六年の交より我國の一般工業及建設事業は一齊に活躍して、從來の模倣より目覺めて獨創の域に出でんと試みたのであるが、我建築界に於てもそれと相前後して驚くべき革新の氣分を擧げたように思はれる。建築物計畫の大體に於ても設計の樣式及內容充實に就ても亦施工の改善刷新に於ても、それぞれ一齊に從來の拘泥せる型骸から脫出したことは事實である

大正八年には都市計畫法及市街地建築物法の制定となるに至つたのも、此等の氣運が釀成した成果であると見ても差支はあるまい。分離派建築家の擡頭も、都市建築の經濟化さるゝに至つたのも凡て此等の氣運が生み出した新現象である。

斯く觀し來れば我建築界の前途は正さに正々堂々時代の要求と並行して順調に進みつゝあるように見ゆるけれども、その實際はそこに統一されたる一大方針があるのではない。唯一時活氣を呈して革新の氣分を擧げたに過ぎないのではないかと思はれる。もし此儘にして何等の節制なく進むものとすれば、所謂模倣の時代よりして獨創の進境に入らんとする過後混亂に時代を何時までも繰り返すの虞はなきか、そこに吾々の協力一致して見出さんとする進路があるのではないか。折角模倣の幼稚なる時代を脫出しながら混亂暗黑の時代を演出するようでは或る意味に於て文化の逆轉であると言はれても仕方があるまい。日本建築の權威東伊忠太博士が我建築界は正さに暗黑時代にありと唱へて以來約十數年に亘り未だ暗黑時代を脫することを得ず却てその濃度を增さんとするようにも思はれる。然らば如何なる方法手段により吾々は協力して我建築界今後の進路を定むべきかこれ吾人が本年の新提案として建築技術家諸君の考慮を促すところである。

我國に於ける最近の建築物は其構造に於ては大體進路を一定せんとして居るようであるが、其集團的計畫即ち建築物の配置環境との關係等に就ては各都市に於ける決定的の立案さへもなく、又建築物箇々の設計に就ては殊に甚しき亂雜不統一を極むるの情態であるから、先づ此等の點に於て相當の調査をなし、廣く各方面の意見と立案を蒐集し、官公衙の配置及其建築樣式等に就て凡て國備の向ふべきところを見出すべく努めたならば或はある程度の範圍にまで之をまとめ得られることも思はれる建築物の設計は其設計者の主觀的表現であるから、其設計者以外のものが其設計を拘束せんとしたならば到底眞實の建築物は得られぬと言ふ意見もあり得るけれども、建築物を實現することは斯かる簡單な順序で始終するものではなく、むしろ建築設計者の考案を支配する幾多の事情が其實體をなすものであることは少しく建築學に精通したものあらば、十分に會得し得らるゝところである。

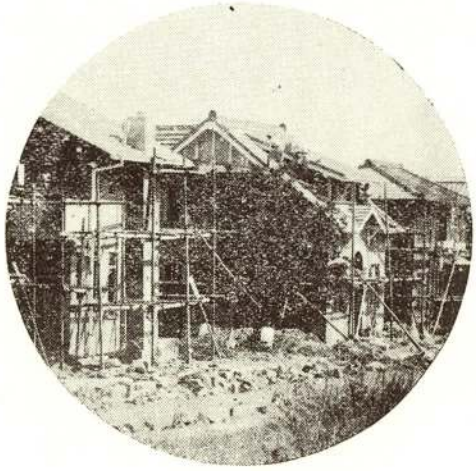
我國の實情に於て將來起るべき建物を統一せんとすることは實際無理な注文であるとも考へられる。けれども現在の如き官公廳の建物の設計を新しき建築技師の習作に利用されて居るような情態は建築物といふ社會の重大現象を餘りに遊戲的に取扱ひつゝあるのではないか、そもそも官公廳の建築は現代に於ては都市建築の中樞となすべきものであつて、其配置と輪環の美は都市生活を根本的に支配するとさへ言はれて居ることは、中古時代に於ける宗教建築と選ぶふところはないのである。その意味に於て我國の官公期の配置や設計を吟味するときは遺憾ながら吾人の希待を裏切るものの多數を見出すのである。一般民間の建築物に於ても其注文者は主として經濟的觀察に捉はれて其建築物が環境に與ふる影響等に就ては殆んど無自覺同樣であるから、設計者に於てよろしく自發的に其建築物の實質と外觀及環境との關係を考慮して其立案をなすべきであるが、その實際は諸官衙と同じく習作的設計としてしか見られぬものが多いのである。それ等は何れも我建築界の過渡時代を何時までも暗黑

の狀態に置くようなものではないかと考へられるので、そこに此問題に對する吾々の忌憚なき意見や批評を加へ何等の一致點を見出すことに努めねばならぬ理由が存するのである。

更に建築物の施工に關しては近來大に進歩發達の跡を見たのであるが、社會經濟と最も密接なる關係を有し、他の一般工業の發達とも關係あるのみならず、其工費を廉低ならしめることが國民の公私生活に大なる利便を招徠するものである程に重要緊急の事柄でありながら、比較的遲々たる進展をなしたに過ぎない。これもとより我社會一般の建築物の建設を輕視しつゝある結果であるとは言へ、之を十分に研究調査して其發達を計るべき、建築關係の工業を整理統一し、其規格の標準を定めて多量生産の實蹟を擧げ品質の向上に價格の低廉を計り、建設の方法に就ても最新最美の手段を採用する等此の方面に於て社會を指導してその期待に添ふべく努力する事は、これ全く建築界の責務と言つてよろしいのである。しかるに現在我建築界に於ける此等の事情は實に固陋を極め不統一にして保守的の嫌あるのみならず、施工に關して其改善を畫策するものは唯少數の建築請負業者を除きては他に之を見出し得ざる狀態にある。最近數年間に建築材料の寸法統一や工業品規格統一の調査は官民の委員會に於いて相當に進んだけれども、之を實際に適用して好果を收むるまでには尚ほ前途遼遠であるやに見られて居る。況んや建築材料の改善と其供給を容易ならしめるが如き積極的事業や、施工方法の根本を改善したり、建設計畫の經濟化を企つる如き進歩的革新を望むことは先づ不可能と言ふても差支はない。吾人の今後大に努力すべき方面は主としてその方面にあるのではないかとも思はれる。

我國に於ける建築物、總價格は最低百五十億圓と算へられて居る。もしそれを今建築せんとすれば或は參百億圓餘の工費を要するとせねばならぬ、而してその大部分は木造建築であるからその腐朽及火災等による補充は可なり大きいのがある。先づそれを毎年その千分の五としても一億五千萬圓である。その外に社會の發展に伴ふ新規の建築物は毎年少くとも一億圓を越ゆるものとして合計貳億五千萬圓以上の建築物が全國を通じて建設されなければ我國の順當の生存は繼續されぬのである。之を北米合衆國の毎年七十億圓八十億圓と言ふ大建設に比較すべくもないが、我國の如き幼稚にして且貧弱なる經濟狀態の國家としては此貳億五千萬圓の建築物の建設は可なり重大なる影響を社會の經濟に及ぼすものと見られるのである。故に其建設に當りては細心の注意を拂ひて最も適當なる手段を選び、以て社會經濟の進展に貢獻せぬばならぬのである。建築物の建設をその意味に於て考究することは今後我建築界の最大要項と考へられねばならぬ理由はそこにある。

要之我建築の狀態は今や漸く模倣の時代を脫して革新の氣分に進展したのであるが、一般建築物の集團的計畫の方針に於て其建築の構造及樣式に於て又其施工上改善等に就て未だ適當なる訓練を積て得ない所謂幼稚なる時代に彷徨して居るのである吾人は將來何時までも此儘に此の狀態を看過する譯にゆかないのである。建築界の人士は宜しく此點に目覺めて今後我建築界の眞實の進路を開拓すべく協力一致大に畫策すべきである。



大正十三年の建築界

黑田鵬心

一 大破壞後の建設

大正十二年の建築界は、同年九月一日の關東地方に於ける大震火災によつて大破壞を蒙り、近年非常な速力を以つて進展しつゝある公共建築に大打撃を受け、一方では明治初年以來の歷史は價値ある建築を亡ぼし、一時は暗黑時代を生ずるかとさへ思はれた。然るに禍は變じて福となり、多年の懸案であつた都市計劃は、之れが爲め可なり徹底的に行はれ、建築の材料、構造に對する研究も格段の進歩を見る事となつた。完全な都市計劃は建築の根本條件となるものであり、材料、構造の進歩は、今後の地震と火災に對して建築の安全を保證する條件となるものであるから、犧牲としては過重であつたが、今日となつてみれば禍を變じて福となしたものである。

唯都市計劃が最初の復興院案の如き理想的のものを實現するのであつたならば、東京市として此の上もない事で、禍は一層大なる福を齎したのであるが、縮少又縮少、復興院が復興局となつて了つたのは殘念である。併し此の關東の大犧牲が大阪を始め日本全國の大都市に對しても覺醒を促し、殊に大阪に對して、其の都市計劃を促進せしめつゝあるのは喜ぶべき事である。

而して大正十二年が大破壞の年であつたにも拘らず、大正十三年は既に建設の第一歩を踏み出してゐる。

二　バラック建築

建設の第一歩は都市計劃の決定である。詳しく云へば路線、路巾公園の確定、區劃整理の實行である。これらが出來なければ本建築にかゝれない、本建築にかゝるのが建築の第二歩である。

震火災後のバラック建築は其の直後から始まつて十三年の前半期には殆んど終つたと云つてもよい。今でも大通の裏には隨分空地もあり、駿河臺とか番町とか住宅區域には空地が多いけれども、商業區域の表通りには殆んど空地がない。もはや今迄に假の建築を建てないものは、今後直ちに本建築にかゝるものと見て差支なからう。

バラックの假建築は、一時的のものであるから、其の設計意匠は彼の博覽會建築の如く十分自由に大膽にやつてもよいのであるが、其の割に奇拔のものも現れなかつた。併し表現派や未來派の裝飾も數ケ見受けた。商店の正面、殊に入口飾窓との意匠は可なり進歩し、内部商品の飾方の進歩と相待つて、震災前よりも美しく、感じがよい。試みに銀座通を散歩してみると、確かに震災前よりも進歩してゐる事に氣がつく。商店の入口飾窓などの意匠は、假建築でも本建築と違はないから、之れを眞の進歩と考へても差支ないと思ふ。唯一度三四階の上から周圍を俯瞰してみると、亞鉛葺の屋根や壁で如何にも假建築の悲哀を曝露してゐる。所詮假建築は一時的のものであるが、之れによつて若い建築家のもう少し奇拔な大膽な意匠の發表を見られなかつた事は遺憾である。

三　修繕工事

大震火災によつて、外觀、内部に損傷を受けた大建築は、大抵既に修繕にかゝり、中には竣工したものもある。目下修繕中の主なるものを擧げると、丸の内ビルヂング、郵船ビルヂング、日本銀行　三井二號館、三號館、三越、村井銀行、森村銀行第一生命等で、既に竣工したものは帝國劇場である。修繕は損害の程度によつて丸ビル、郵船ビルの如く單に鐵骨の補強と外部の貼替又は塗替で濟ますものもあれば、内部の平面や外觀の立面までも變更するものもある。三越の如きは正面入口を北側とし、從來の大きな光井を各階全部床とし、エレベーターの位置や數なども大に變更すると云ふ事である。この建物は大正三年に出來た東館と大正十年に竣工した西館との結合で、平面には兎角無理があつたのを今回の大修繕で根本的に改造するのである。併し外觀には大した變化もあるまい。東京の銀行建築の中で優秀な立面を持つてゐた森村銀行などはどう云ふ風に修繕されるか知らないが、從前に劣らない立派なものにして貰ひたい。

修繕の終つたものゝ内、帝國劇場は外部の形を大に變更した。後部の舞臺上に曲線を持つた大きな高い屋根があつたのを全

く直線のものに變つて了ひ、前部の翁の像も除いて了つた。翁については建築當初から色々の非難もあり、無くなつて却つてよくりよなつたが、後部の屋根の形の變更はどうであらうか。從前のもあまり美しい屋根ではなかつたが、今回のも然り感心しない。まづ五分五分のところか。全體として帝劇の屋根は、劇場建築として單調に過ぎてゐるやうである。

日本橋北詰の帝國製麻會社は全く前と同じ形に修繕された、第一生命なども同樣らしい。高田商會は前の高さを低めて、外部に新しく化粧煉瓦を貼付け巧に立面を變更して了つた。

四 竣工せる大建築

大震災の當時工事中のもので、殆んど竣工に返かつたものは、震災後無理に使用し、使用しつゝ竣工して了つた。それには千代田ビルヂング、三共ビルヂング、永樂ビルヂング、實業ビルヂングなどである。又た震災當時工事を中止し、其後竣工して、大正十三年中に竣工したものには、邦樂座、丸の内ホテル、國光ビルヂング、歌舞伎座、東洋文庫等があり、工事中のものには、正金銀行、銀座ビルヂング、川崎ビルヂング、明治聖德繪畫館、青山會舘等がある。

工事中のものは暫く措き、竣工したものゝ中で、千代田ビル、三共ビル、永樂ビル、實業ビル等は數年來のビルヂング建築と比べて別に特色もないやうである。即ち平凡な建築ではあるが、建築群の一つとして帝都の美觀に役立つもので、將來改造されたる帝都の本建築の先鋒をなすものである。ビルヂング建築以外のもので異彩を放つてゐるのは邦樂座と歌舞伎座とで、共に劇場建築である點が面白い。

邦樂座は外觀が一種異つた調子を持つてゐる。設計者の意匠は『水の流動』を現はしたものでさうであるが、果してさう云ふ意味が表現されてゐるか否かは疑問としても、在來の樣式に囚はれずに一つの新機軸を出した點は賞讃すべきである。平面の如きも變つてゐる。私はまだ内部を見ないので十分の批評も出來ないが、兎に角注意すべき建築である。唯外部の色彩にはあまり感心出來ない。水邊（あまり有り難くない水ではあるが）の劇場としてもう少し華やかであつてもよかつたと思ふ。

歌舞伎座は純日本風を鐵骨鐵筋混凝土構造で現はしたもので、謂はゞ羅紗の和服と云つた樣なものである。さう云ふと甚だ不調和のやうに聽こゐるが、外觀は屋根の瓦を始め、組物や壁面などは木材色に塗りつぶしてあるので、默つてゐれば木材建築らしく見えるものである。この材料と樣式の關係については私は既に本誌で述べた事もあるし、愈々竣工した所を見た上で又意見を述べやうと思つてゐるが、古い趣味を新材料で現はしたもの、詳しく云へば、日本建築の材料が舊い木材から新しい鐵筋混凝土に、即ち植物質から鑛物質に變化しつゝある過渡期に際して、形式だけを舊趣味によつた一建築として頗る興味あるものである事は確かである。即ち大正十三年の建築界に於いては特筆すべきモニユメントである。

五　住宅建築の改造

生活改善とか文化生活とか云ふ聲が四五年前から盛になつて來ると共に文化住宅といふ言葉も現はれ、それらは兩三年前からそろ〳〵實現の氣運に向ひつゝあつた。かの東京の平和博覽會に（大正十一年春）に於ける文化村の住宅と、大阪の住宅改造博覽會に於ける住宅實物の供覽は其の具體的の例であるが、一方で大邸宅地の分割、郊外住宅地の新提供等があり、相伴つて東京、大阪兩大都市の住宅建築に大變化を起しつゝあつたのである。其處へ大正十三年の大震火災で、關東に於いては、多くの人々に根本的に生活改善の好機會を與へ、住宅の改造に對しても一躍進の奇運を作つた。東京に於いて大震火災の爲めに住宅を失つた人々は、今や續々或は舊の敷地に或は分割された大邸宅地に、又は新しい郊外の土地に新築しつゝある。而してそれらの住宅は、其の外觀に、其の平面に、其の設備に、多少の新式を試みないものは無く、中には純洋風の外觀と平面とを持ち徹底的に科學的設備を採用したものも現はれた。これは今後も繼續される現象であるが、大正十二年秋の大破壞があつた後として、大正十三年の建築界には特筆すべき一項目で、日本の住宅建築史に一時期を劃する事を信じて疑はない。

本稿は筆者東京在住の爲め東京に偏してゐる事を諒とせられたい。例へば大阪に於ける大正十三年に竣工した建築としては大阪倶樂部など甚だ面白いものであると思つてゐるが、他にも數多のものがあると思ふ。誰か京阪在住の方に御執筆を願ひたい。或は日本建築年鑑などが出來れば一層結構であるが、これは日本建築協會の事業としてやられては如何。（大正十三年十二月八日於東京青山）

ひととせを皆今日の心地して

のどかに世をも過してしがな

大正六年九月十四日第三種郵便物認可
建築と社會　第八輯第壹號附錄

日本建築協會々報

第八輯
第壹號

日本建築協會々則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス會員タラムト希望スル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其ノ目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラムト欲スル者ハ會員一名以上ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其ノ言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任セサルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其ノ他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其ノ旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其ノ權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

第十條　脫會其ノ他ノ事由ニ依リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其ノ債務ヲ免カルヽコトヲ得ス

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名
二　副會頭　一名
三　理事長　一名
四　理事　十名（理事長タル理事ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其ノ職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但シ會頭副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但シ引續キ重任スルコトヲ得ス

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　二名
二　主計　二名
三　編輯　五名
四　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トス爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員ノ職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催スコトヲ得

理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其ノ他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告スヘシ緊急事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　理想的建築ノ計畫

十二　其ノ他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出スヘシ例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ルル會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ特別贊助員ハ特別贊助費年額金拾貳圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助費年額金六圓ヲ本會ニ前納スヘシ但シ六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助費其ノ他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ本會之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其ノ計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其ノ決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

會報

一、當協會發行の雜誌「建築ト社會」は大正十四年一月號より四五倍版と改版致しますので表紙も共に更新するために先般來其圖案を懸賞募集致しました結果應募總數九十九通ありまして審査の上左の通入選十二月例會に發表と同時に賞金授與式を行ひました

豐能郡岡町松原通
第壹等（賞金壹百圓）山口芳泰

神戸市外六甲村篠原字中岡
一〇二ノ七
第二等（賞金五拾圓）早貝俊夫

大阪市北區堂島濱通一丁目
堂ビル竹中工務店内
第三等一席（賞金貳拾圓）高橋種雄

大阪市北區堂島濱通一丁目
堂ビル内竹中工務店内
第三等二席（賞金貳拾圓）岡崎保男

東京市牛込區市ヶ谷八幡町五
木村得三郎

選外壹席
大阪市南區大和町四三番地
中村一秀

選外二席
豐能郡豐中村大字南蟲木三五九
桑村種吉

選外三席
大阪市北區上福島北四丁目四九
瀨川博

選外四席
大阪市北區上福島北四丁目四九
瀨川博

選外五席
一、本協會會則によりまして十二月例會に於て會頭副會頭の選擧及理事半數の改選を行ひ左の通當選致しました

會頭　片岡安氏
副會頭　宗兵藏氏
理事　古塚正治氏
同　園部文雄氏
同　和田貞治郎氏
同　光安楫之助氏
同　澁谷五郎氏

尙又本年留任理事中村琢治郎氏は先般理事辭任せられましたので之れが補缺選擧の結果左氏に當選となりました

理事　吉井長七氏

一、終身贊助員山本鑑之進氏去る十一月三十日逝去せられましたに付て同氏の遺志として本協會事業援助のため金五百圓寄附方を嗣子山本一氏より御申込がありました本會は洵に感謝に堪へない次第で之れを收受することに決し益々本協會の發展を圖りたいと存じます山本氏に對しては謝狀を發送致しました

一、終身贊助員福永謹吾氏は大正十三年十一月四日終身贊助員山本鑑之進氏は同十一月三十日逝去せられ洵に痛悼に堪へません本協會よりは弔狀を送り哀悼の意を表しました

一、今回工政會より旅順工科大學廢止問題に付て左の通り通牒があり旁本誌へ揭載方依頼かありましたから登載いたします

謹啓益々御隆昌奉大賀候

さて工政會は政府が行政財政整理に關聯して旅順工科大學を廢止せんとするを以て對支國策上甚だ遺憾なる擧と信じ十一月以來再三會合を催して協議を重ね十二月一日役員會を開きて之が存續を政府に要望する事となし斯波理事長は今泉、俵、塚本、島各博士と共に左の覺書及び理由書を五日首相に提出する事と相成候に就ては御一讀の上此の趣旨御贊成之上目的の達成に就て御援助なし被下度此段御挨拶旁々得貴意申候　敬白

十二月四日　工政會

覺書

工政會は役員會の決議を以て東洋の產業的開發と善隣の友邦に對する信義の上より旅順工科大學は之を將來永久に存續するのみならず更に其特色を發揮せしめ內容を擴充完備せしむべきものと認む

大正十三年十二月五日

工政會理事長
工學博士　男爵　斯波忠三郎

內閣總理大臣　子爵　加藤高明殿

理由

政府は行政財政の整理に關聯して關東廳所管の旅順工科大學を廢止する方針を決せりとの風說あり果して此說眞ならば本會は國策上甚だ之を遺憾とせざるを得ず

中日の關係を親善密接ならしむる途多しと雖も日華人共通教育を旺ならしめ殊に兩國青年に工業に關する高等教育を施し相提携して東洋の產業的開發に從はしむるを以て最善の手段の一とするは論を俟たず、之れ政府が旅順工科學堂を創設し次で之を昇格して工科大學となせる所以なるべく而して滿洲は天資富源豐饒にして大工業地たるに適し政府這般の施設は他年日華共存共榮の一重要楔子として大なる貢獻を兩國國交の上に齎すべき事吾人の信じて疑はざる所なり學堂設立以來國帑を投ずる事數百萬卒業生を出す事約七百而して其半ば以上は中國殊に滿洲に於ける諸般の工業に從事し、中日兩國のため其の特殊使命を有意義に果しつゝあり更に大學昇格以來四百餘名の中日豫科生徒を入學せしめ、東亞大陸の平和的發展に志あるものをして一層前途に希望を抱かしむる狀態にあり

然るに政府が今遽かに行政財政の整理に關聯して此の特殊使命を有する教育機關を全廢せんとするは曩きに設立及び昇格の際に決せられたる方針を根本的に覆へすものにして、百萬圓の國帑を費せる既成の設備と歷史とを徒爾無益に歸せしめ朝令暮改の譏を免れざるのみならず、中國人を勸誘收容して而も其の學業半ばならざるに廢校するは善隣の青年を欺き信を友邦に失し又身を挺して大陸の產業開發に任ぜんとする我が青年の雄心を挫折せしむるは對

國支援上の大損害と云ふべく、就中政府が一方に於て新たに對支文化事業を計劃しつゝ、他方に於て現存せる代表的對支文化事業を全廢せんとするに至つては甚だしき矛盾と稱せざるを得ず工政會は一度斯の如き有意義なる特殊教育機關を廢止せんか、再び之を設置する事殆んど不可能に近きを信じ、政府は斷然之が廢止の計劃を中止して存續の方針を決定し、寧ろ對支文化事業と相俟つて將來の完備大成を期せん事を希望するものなり

會合

○定例理事會

△日　時　十二月八日午後五時——十時三十分
△會　場　本協會會議室
△出席者　池田理事長　中澤理事　今林理事　松本理事　佐藤理事　谷口理事　本多理事　伊藤理事
△報　告
一、敎化委員會委員長より書面を以て職工敎化講習會終了報告ありたり
一、松本主計より十一月分會計報告及職工敎化講習會經費に付報告ありて承認
△議　事
一、十二月例會に關する件
左記事項に付協議原案通可決せり
一、時　十二月十七日(水)午後六時
一、所　大阪市中央公會堂中集會室(北區中ノ島)
一、順序
一、授與式　會誌表紙懸賞圖案當選者へ賞金授與
一、選擧執行　1會頭及副會頭選擧
2、理事半數改選
3、理事一名補缺選擧
一、報　告　會務報告
2、理事半數改選
尙當日會誌表紙應募圖案全部を會場に陳列し其旨通知書に追書すること
二、編輯に關する件
左の諸件に關し協議決定
1、原稿料に關する件
2、協會會報に關する件
三、寄附金收受に關する件
終身賛助員山本鑑之進氏逝去に付遺志により本協會事業援助として金五百圓寄附方嗣子山本一氏より申込ありしを以て之れが收受に付協議受領のことに決定
四、關東震火災視察記殘本處分に關する件
五、會員銓衡
六、職員年末賞與其他に關し秘密會議に入り時餘にして終了散會す

○臨時理事會

△日　時　十二月十七日午後四時三十分——六時
△會　場　大阪市中央公會堂洋軒食堂
△出席者　片岡副會頭　池田理事長　中澤理事　今林理事　松本理事　佐藤理事　本多理事　伊藤理事　谷口理事
△議　事
一、年末慰勞に關する件可決
二、職員冬季休暇並昇級に關する件
原案の通可決
三、會員銓衡

○例會

△日　時　十二月十七日午後六時——十時
△會　場　大阪市中央公會堂中集會室
△出席者

池田	宮彦	井上	新二	池田谷久吉	
生野彌三郎		石川	寛三	池村元之助	
伊藤宗太郎		橋詰	直明	濱田	正三
羽原	德衛	林	眞三	錦織喜代次	
本村	清	大倉	三郎	岡本	茂樹
小津	利一	奥野	時三	岡本新次郎	
岡田初太郎		小田島兵吉		太田	正之
小笠原	銀	小川安一郎		小幡	正治
渡部	圭吾	笠井	正一	川村種三郎	
河合貞一郎		加藤	善吉	神尾	秀雄
横濱	勉	吉井	長七	呼子	正
高田利一郎		玉川	貫治	竹中	景一
竹谷德次郎		田中	寛造	高田	利平
高橋	榮治	田原	政見	谷田	實
谷	民藏	高麗	建城	永野彌房吉	
長田岩次郎		中西	六郎	中川	彌八
村上	徹一	村野	藤吾	浦	英之助
野村	敬一	熊谷泰治郎		熊澤榮太郎	
黒田	茂	久保田筆雄		久保田福次郎	
矢木	英雄	山田	稔	山本辰次郎	
山脇友三郎		山口	榮作	山中	茂一
山中宗三郎		八木幸次郎		山本磯十郎	
前田	武正	前田	清二	松下甚三郎	
松本	儀八	增田	清	古橋	剛丸
古塚	正治	福澤	谷藏	藤村	武
小池	光義	近藤	菊松	小島	淳吉
小寺	彌一	古宇田	實	小西	一眞
秋吉	繁藏	足立圓次郎		青柳	貞世
安部	萬助	齋藤	立實	境	正一
早眞	俊夫	佐藤正次郎		佐藤	平輔
酒井勇三郎		阪井	米吉	岸	平
木村	意一	油谷	清治	宮本	長治
下浦	光衛	白川	雄一	篠原	太郎
設樂	貞雄	島田	眞馨	澁谷	五郎
久樹	廉一	平尾小三郎		平島	米吉
平塚	鎗吉	森田	富	毛利	泰三
森	篤次郎	瀨戸	文吾	末澤	周次
須川廉太郎		鈴木	末尾	菅	源之助
園部	文雄	片岡	安	池田	實
伊藤	正文	佐藤	彰美	谷口	廉兒
松本	禹象	中澤誠一郎		今林彦太郎	
本多	二郎	安井	武雄	大原	芳知
服部萬次郎		長野金太郎		坂上竹次郎	
牧野	利秋	梶垣	寛	佐々木莊一	
武藤甚右衛門		大野直平		山下國太郎	
山本龍久吉		西村辰次郎		坪井	誠一

姫野　武　帶川　實直　高岡與三吉
藤野　師榎　澤原　隆男　矢崎　高儀
中島　富藏　松本一太郎　林　正信
宮川　密堂　末岡　好松　近石　正義
川口　一二　中尾　保　天羽　六郎
佐々木昌二　鈴木與五郎　三谷　萬三
中島　春次　福永　收三　高松　壽
山本　千吉　木村梅次郎　片岡　成男
富田　宗七　永田三次郎　土居原龜之助
中村吉太郎　增山　新平　平井　三郎
辻　德藏　增田　清　和田貞治郎
鹽路　惣吉　阪口芳三郎　樋口辰太郎
井上　貫　久木　堅治　佐藤　富夫
長澤　榮作　中島　智喜　楠田　實
松村　次郎　服部躬太郎　松本仁重郎
池田　豊三　楠瀨　徹　鈴木　重幸
矢田　鐵藏

△記事　一、定刻池田理事長開會を宣し片岡副會頭より一場の挨拶ありて左の諸氏に對し會誌表紙圖案懸賞金の授與式を行ふ

第一等當選者　山口　芳春君
第二等當選者　早貝　俊夫君
第三等一席當選者　高濱　種雄君
第三等二席當選者　岡崎　保男君

一、右了りて池田理事長議長席に着き役員選擧に入る旨を述べ夫れより選擧に關し諸種の質疑應答あり何れも贊否を衆議に諮り決定の上結局本夕行ふ會頭、副會頭の選擧及理事半數（五名）改選の方法は時間省略として各別に投票を行はず　票に會頭、副會頭、理事の被選擧者の氏名を一名宛記し投票することに決し開票の結果左の通當選せり選擧總人員一八六名

會　頭
當　選　一六四票　片岡　安氏
次點者　一二票　宗　兵藏氏

副會頭
當　選　一〇二票　宗　兵藏氏
次點者　六五票　池田　實氏

理　事
當　選　二七票　古塚　正治氏
當　選　二〇票　園部　文雄氏
當　選　一九票　和田貞次郎氏
當　選　一九票　澁谷　五郎氏
次點者　一七票　吉井　長七氏

一、留任理事中村琢治郎氏先般理事辭任に付之れが補缺選擧を本夕行ふべきも時間省略のため右理事選擧の次點者を以て補缺員となすことを衆議に諮りし結果滿場一致を以て可決し左の通補缺理事決定す

補缺當選　吉井　長七氏

一、右選擧終了後會務報告をなす豫定の處時間の都合により省略散會せり

○新入會員及贊助員

會員の部

牧野　忠君　豐能郡岡町櫻通二丁目
鈴木　重幸君　東成郡天王寺村天王寺一七三二木村方
久保田筆雄君　大阪市東區神崎町五〇
普通贊助員の部
駒崎朝治郎君　大阪市西區市岡夕凪橋停留場北商業學校南橫手
岡本　賢藏君　大阪市南區天王寺悲田院町黑橋北詰向山木炭商店內
駒井　啓助君　京都市上京區上切通シ新烏丸東入頭町

○退會會員賞助員

會　員　福井　義長君
會　員　高井　芳雄君
地方會員　山田　醇君
普通贊助員　木下彦太郎君
同　中山　一君

○逝去贊助員

終身贊助員　福永　謹吾君　大正十三年十一月四日逝去
同　山本鑑之進君　大正十三年十一月三十日逝去

○住所異動

名譽贊助員の部
直木倫太郎君　東京市小石川區原町一〇三

會員の部
高麗　延城君　大阪府三島郡千里村字千里山住宅地一六五號
山下豐三郎君　大阪市北區西野田江成町一八三
後藤　信勝君　大阪市西區八幡屋町一三三
平松　英彥君　東京市麴町區有樂町三ノ二
譯藤　立實君　兵庫縣西宮町夙川字川尻二六〇二
長島　角二君　兵庫縣西宮町字古夙甲南莊內
植實宗三郎君　大阪府東成郡住吉村字大谷七〇七
高柳　宗一君　大阪市西區市岡町二九三の三一
大倉　三郎君　京都市佛光寺富小路東入
池田　實君　大阪府西成郡玉出町松原通一丁目九八六
佐藤　平輔君　京都市下京區泉涌寺通本町東入
舟橋　喜一君　東京市外大久保百人町二八五

地方會員の部
中根　龜一君　靜岡縣駿東郡小山町大林組駿河出張所
原田　俊雄君　廣島市國泰寺町一八四
西尾　寬治君　東京府荏原郡駒澤村下馬引澤中原三三六
木田　延衛君　東京府下瀧野川町瀧野川三二三
黑住福三郎君　鹿兒島市平之町一一九

普通贊助員の部
浦野紋次郎君　大阪市北區梅田町三五〇渡邊磯方
大野　喜作君　大阪市西區江戸堀南通四ノ一六

河野　重吉君　大阪府西成郡豐崎町本庄四ノ一

齋藤小三郎君　盛岡市志家第五割字神明前四三

横井　音七君　福井市日ノ出下町四井岩吉方

牧　三郎君　大阪市北區下福島二ノ三五一ノ三

中山　正之君　大阪市西區鶴町二

高橋勝次郎君　大阪市北區澤上江町一ノ一一一

坂東儀三郎君　大阪府東成郡上住吉一六五

德永　義治君　大津市水揚町三水戸與三松方

北村　久男君　大阪市西區九條通二ノ六六三

牛田　芳雄君　兵庫縣明石郡伊川谷村字前開

福村庄三郎君　東京府豐多摩郡杉並町阿佐ケ谷八八〇

小泉　吉明君　大阪市西區市岡町二一五

西谷幹夫方

伴野　貞三君　大阪府北河內郡守口町字守口、舊狼島七二

勝田每次郎君　三重縣一志郡戶木村

小島　榮二君　東京市牛込區拂方町一七

加藤方

酒井　捷治君　大阪府東成郡天王寺村天王寺旭通九九三

○住所並勤務先不明者

會　員　高堂　德治　魚住　儀一

地方會員　廣瀨　恭

普通贊助員　伊東　武夫　同戶山音次郎

太田　四郎　同若林　俊一

吉本新之助　同植松與右衞門

同　久保　豐　同政安　熊市

同　櫃藤　洗二　同足立彌一郎

同　酒井紋之助　同小枝　實

二

同　木越誠二郎　同江藤　猛夫

同　石津　三吉　同地福　勇吉

同　渡部　三郎　同吉田榮次郎

同　田代　正熊　同野々山政金

同　矢田部喜平　同小林久之助

同　青木　立三　同坂根　秋光

同　清原　佐市　同茂木清太郎

同　田中　儀一

右住所或は勤務先御存じの方は本協會事務所へ御教示を願ます

寄贈圖書

工業評論　十一號　同　社

工業ノ大日本　十一號　工業ノ日本社

電氣評論　十二月號　同　社

人と人　十二號　協調會

都人　第十二光都人　社

會報　第二十號　名古屋工業會

榮ある生活　十一號　文化創設會

學士會月報　四三九號　學士會

建築世界　十二號　建築世界社

朝鮮鐵道協會報　十一月號　同　協會

建築の普及　十月號　帝國工業教育會

朝鮮と建築　十月號　朝鮮建築會

工業之友　第一七號　工手學校同窓會

セメント界彙報　第一〇三號　日本ポートランドセメンセト同業會

建築畫報　十二月號　同　社

住宅　十二號　住宅改良會

建築雜誌　十二月號　建築學會

工政　十一月號　工政會

經濟資料　十二月號　東亞經濟調査局

中央建築　十二月號　中央建築社

土木建築　十二月號　土木建築社

建築新潮　十二月號　洪洋社

大阪工業倶樂部　十月號　大阪工業倶樂部

通俗衞生　十一月號　大阪府衞生會

滿洲建築協會雜誌　十一月號　同　會

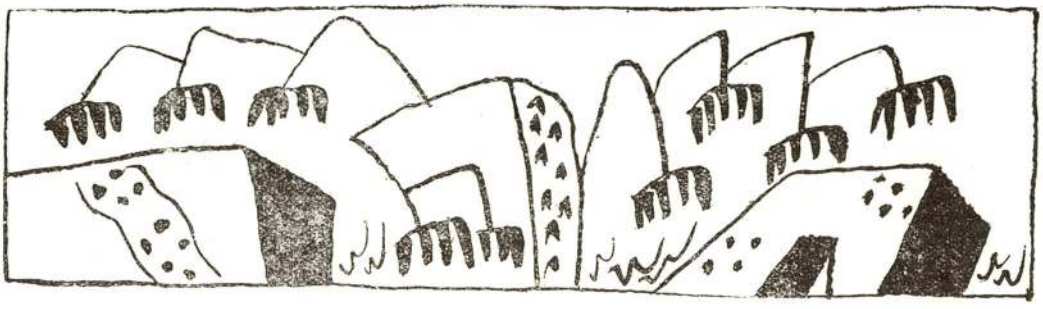
帝國鐵道協會報　五號　同　會

工業タイムス　十二號　同　社

滿洲技術協會誌　四號　同　會

大阪時論　十二月號　同　社

電氣學會雜誌　十一月號　同　會



都市美觀の生産的價値

西村健吉

（一）

古代の都市計畫は都市の美觀を全面の目的として行はれたと云つて差支へない程に美觀を主としたものであつた。都市の權威を保つために計畫された美觀もあれば、高潮に達せる文明を誇らんがために企てられた美觀もあつた、隨つて表觀を中心とした古代の都市計畫は現代の都市計畫が經濟的に都市の能率を增進せんとし衞生的に都市の健康狀態を改善せんとするのと多少趣きを異にして居る、而し乍ら企てられた都市美觀施設の跡を辿ると何れも全市に行はれたと云ふよりは一定の場所に專ら意を注がれたものが多く現代の都市計畫が行はんとするが如き全般的な美觀でなく局部的のものであつたと云へる、帝王の尊嚴を誇示せんがために築かれた王宮が都市美觀の中心をなしたり、戰勝の光榮を紀念すべく築造された凱旋門或は紀念塔が都市美觀の中樞をなしたりして居ることは歐洲都市を遍歷せるものゝ親しく見聞するところである。放射綿或は井桁式に計畫された街路系統が都市の美觀增進に寄與することの大なりしは云ふまでもないが、概して古代都市の美觀と云ふものは局部的のものであつたと云へる、全市を擧げて生產化し美化すると云ふことは近代都市計畫の新たなる理想なのである、古代都市の行へる如く裝飾品或は殊更の施設をもつて都市の美觀を增進することもとらるべき一手段であるが、それよりも現在では全般の都市を感じのよいものにしやうとする方面にヨリ多くの努力が拂はれて居る。地帶制（ゾーニングシステム）を採用して消極的には都市の美觀を破壞するところの營造物を取毀つとか或は之れを改築せしむるとか種々の方法が講ぜらるゝのであるが、積極的にまた都市の美觀を增進するところの種々の施設が加へられる、公園及公園道（パークウエー）、建築物に對する制限、街路の舖裝、街路樹、街燈と云ふやうなものも個々について論議すれば何れも保健上、經濟上、保安上の必要より施設し或は制限を加へらるゝのであるがそれ等は他面に何れもまた都市の美觀を增進する上に於て缺ぐべからざる要素をなしてゐるのである。

（二一）

古代都市の美觀が主として純藝術品若しくば實用化された藝術品によつて增進されたに對し現代都市の美觀は現代都市の保健的、經濟的、保安的必要品を藝術化することによつてより多く增進されんとするのである、橋梁の如きに於ては古今を問はず實用以外に裝飾を施しこれを以つて都市に光彩を添はしむべく設計されたのであるが、總ての都市的施設を美化し、それによつて都市の美觀を增進することが如何に多く二重にそれらのものを價値づけるか知れないのである、然るに我國の都市計畫に於ては其點が困却されては居らないかと云ふ懸念がある、街上樹てらるゝ一本のポールにしてもそれに多少の工夫が加へられるのと然らざるのとは市民に與ふる美的感念に多大の害がある、紐育市俄古等の市中を縱斷する高架線の橋脚に感ずる不快は伯林に行つて一掃される、それは米國が實用以外に何等の工夫をも加へなかつたに反して伯林では工夫を凝してこれを實用價値に止めずそこに美的價値をも加へんとした努力あるがためである。

大阪市内に散在する街燈（ライテングスタンド）柱によつて釀さるゝ失望は京都市内の四條通或は寺町通に輝く街燈（ライテングスタンド）柱によつて充される、これは大阪市内の街燈（ライテングスタンド）柱が實用以外に何等意飾が加へられず殺風景極まるものなのに比して京都市のそれは實用に加ふるに清楚なる意飾が加へられ、一見既に美觀を感ずるが故である意飾が工夫されるために拂はるゝ犧牲は極めて僅少なるに拘らずその美觀が實用的に價値以外に市民に與ふる快感嬉悅の生產的價値と云ふものは測程すべからざる程に大きなものである、これ近代都市の美觀が古代都市の美觀に比して一層一般化せるものであり、また美觀そのものが價値を伴ひ生產價値を伴ふ所以である。

古代都市に美觀を添へたものが純然たる美觀本位のものであつたに反して現代都市に美觀を加ふるものは實用價値を有するものであつて美的價値をも兼ねんものであることを理想とする伯林のヶーニヒ廣場に建てられてある戰勝記念塔は普佛戰爭に於ける戰勝の光榮を永遠に傳ふるであらうが、結局美的な一個の記念塔に過ぎない、若しこれが博物館として記念されてあつたら、そしてその建築が美的なものであればその建物は博物館としての働きと都市に美觀を添ゆるものとしての働きと二重の働きを示したに相違ない、この意見を總てのものに擴充しやうと云ふのではないが由政的にいろ〳〵の障碍を受けて直接生產的でない施設を加ふることの出來ない我國都市の現狀ではそんなことでもして都市美觀の增進を圖るより差當りの方策がなくはなからうかと考へるのである、姑息と排斥されゝば姑息である、彌縫的だと云へばその評もあたるかも知れないがそうすることによつて都市の美觀が增進され、他面では經濟上、保安上の施設が加へられて行くとすれば寔に願はしいことではなからうか。

（二二）

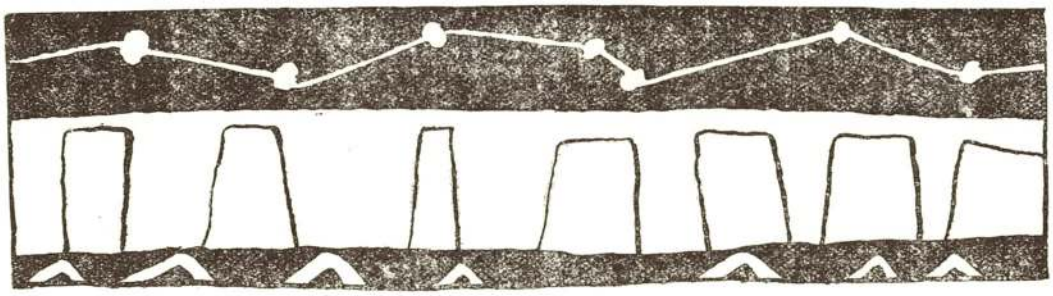
例をライテング、スタンドにとるとライテング、スタンドは夜間街路を照明するだけで十分その任務を果して居るのだが、これに美的意飾が施され都市の美觀を添へることになる

とライテング、スタンドは街路の裝飾品としてまた別個の働きをなすことになる、そしてその働き即ち美の働きは決して夜間街路を照明するところの働きに劣らないのである、古代帝都の威信を加ふるために施された美觀が人民を歸服せしめる上の必要品であつたり、宗教都市の崇嚴を加ふるために施された美觀が信者を渇仰させるための必要品であつたことは云ふまでもない、政治的に宗教的にそれらの美觀はそれ〳〵大きな價値を有して居つたのに較べて一般化された現代都市の美觀が如何なる方面に多分の價値を藏して居るか、これを考へて見ると經濟的に生產的に多く價値を有するものなることが發見される。

古代都市の美觀は概して觀るものをして驚異せしむるものであつた、それによつて心服し畏敬し心醉せしめんとする美を感ずると共に威壓の伴ふものであつた、これに反して現代都市の美觀はそのもの一個について見るよりも綜合的に觀るときに美觀が生れ快感を催すものが多い、一本の街路樹を見るときに左程に感じない審美觀も歩道に添ふて盡きるところを知らないまでに並ぶ街路樹を眺めるときに油然として美觀に打かれるのである、そしてこの一般化された美觀、都市に於ける自然美が都市產業の作業工程を高める上に於て重要なる生產的施設なのである。

終日工場の朦々たる粉塵裡に作業した勞働者がその勞務より解放されて街頭に出づるとき、また一日を繁劇なる事務室に過して心身ともに疲勞せる銀行會社員が門外に出づるとき彼等は輕快、清楚なる街頭美によつて先づ勞務を醫するのである、街頭に公園に彼等は清新の空氣を呼吸することによつて心身の疲勞を醫し新たなる活動能力を萠芽し得るのである都市の美觀が古代都市の如く集約的のものであつて一般市民の平等に享樂し得ないものであつたらその生產的價値もまた乏しいものと云はねばならぬが現代都市の美觀は都市の生產能率を增進するために計畫さるゝ全般的のものである。米國都市が美術委員（アートコミッション）或は美術審査員（アートジュリー）を任命して都市の美觀を振興せんとするが如きも畢竟都市の美觀が市民生活に與ふる威大なる精神的價値を認めたるに外ならない、美觀が市民に與ふにる精神作用が直ちに經濟的に深甚なる影響を齎らすことは獨逸のワイマルクに行はるゝ都市修飾の事實によつて知ることが出來る。

馬克の暴落、物價の暴騰、佛蘭西のルール占領によつて人心不安の極に達した當時のワイマルクでは市民精神を安定せしめ希望ある生活を行はしめんがために灰色の都市を一變して紅に青に黄に濃厚なる色彩の都市と化せしむべく建物の塗替へを行つたのである、これによつて沈滯せる市民の氣分を昂奮せしめひいては停頓せる產業を振興せんとしたのであるが幾程もなくその計畫は成功して憂鬱なる氣分の都市は活氣に滿たされるやうになつた、市民に與ふる刺激が生產的に多大なる價値あることをワイマルク市の計畫は立證したのである これは單なる一例に過ぎないが都市美觀の生產上に及ぼす價の大なることを述べ我都市計畫關係が產業都市の計畫に際し特に此點に周到なる注意を拂はんことを希望して止まないのである。



倫理的認識對象として觀たる現代建築

山崎萬壽夫

倫理學は意志を或は行爲をそれの結論的原則にしたがつて研究することを目的とする知的努力であるから、その對象なるものは結論的意義に於いての意志であり行爲であり文化一般である。而して文化の特徴、全表的、代表的特徴は全く人爲もしくは作爲にあると謂へる。

意志は行爲がそれの原因、實質、本體にしたがつて意識されたかたちであり、そして文化は行爲がそれの結果、形態、現象にしたがつて意識されたかたちだからである。故に倫理の世界は價値の世界の全體である。同時に價値に對する。組織的、統一的認識が倫理的認識のすべてである。

謂ふところの價値とはそれが人にとつての價値で或るが故に、必ず或る要求、慾望、興味、目的、理想を論理的一要件とする。そしてそれらの最廣義に於いての意志を滿足させるものが或る時にそのものに或る價値があると謂ふ。したがつて人にとつての價値は、それの全體は私價(私己的價値)公價(社會的價値をもつて代表せしめ得る)の內値を內容としてゐる。

では如何なる行爲が最も倫理的に完全なものであるか。比較的に純眞な學問的行爲及び藝術的行爲をもつて例說すると、純なる愛知、愛眞の動機を基礎とした一科學者の研究的發表行爲が、一科學者自身を極めて深く全く滿足させる性質を有つてゐると共に、彼れの隣人即ち社會をも滿足させる性質を有してゐる。藝術の場合に於いても美くしき建築、繪畫、彫刻を造るとは當人の深悅であると共に、それに對する人々の悅びであるが如きである。即ち主義的、理想的而して本質的意義に於いての生產なる性質を有する行爲が、意志が、最も完全に私價を有する行爲、思志であると共に、社會價即ち公價をも有つものである。生產の最も本質的なかたちは質的生產である。而して質的生產は多種生產を意味し存在の豐富化と精醇化を圖るものである。發明、創造、成長、發達、進化はみな質的生產の世界のものである。然し各人の本質的生產は各人の自知、自尊、自己保存、自己成生を可能にする代表的方法として各人に最も深く最も全く最も純眞な滿足を與へる許りでなく、彼の廣義の隣人即ち社會に於ける彼以外の人々に最も完く十分に、高度に純眞に深い滿足を與

へるものであることは前にも言つた通りであるが、それはまた實に彼の本質的生産以外には不可能である。しかし言ふまでもなく生産は消費を一先要件とする。どんなに成長力旺盛な天才的個性の素質の人であらうとも、まづ消費ずるのでなければ成長、生産することが出來ないのである。史上に於ける大天才者も、彼の前半生の大部分は學習、修養即ち消費によつて特徴づけたのである。消費は彼の生産の一準備感であり得る。そして彼の生産は、それの主觀的性質に於いては彼自身の滿足であると共に、それの客觀的性質に於いても彼の隣人及び彼等の後繼者の消費的要求の目的物たりえ、それらの人々はそれに於いて消費的要求を滿足させ得ることを一先要件としてこそ、嚮てそれらの人自身が生産態に遷り得るのであり、また斯くあるべきである。即ち斯くあつてこそ、それらの生産は結果に於いて倫理的に完全形であり、こゝに眞の意味の社會が成り立つのである。

要之に、倫理學の對象が結論的意義に於ける意志であり行爲であり文化であると謂ひ、その何れもの原則であり知的努力の範圍のものであるがゆゑに、以上略說したすべてをもつて現代建築を認識對象として、如何に現代建築が倫理的に不完全形であるかを明にしやうとする。此處に謂ふ現代建築とは、狹義に明治末期及び大阪に於ける建築を指していふのであるが、その一々の例證は自分としてどうしても避けなければならない。不本意ではあるけれども極く漠然と消極的に、そして抽象的に論を進めることを餘儀なくされる。

前述した通り各人の本質的生産は其處に消費を一先要件とする。一人の消費は彼の生産の準備態だからである。彼を一建築家と見做せば、彼の消費はそれは明白に彼の次の建築の設計或は計畫の準備態である筈である。併し消費態に於いては人は彼自身を比較的に不完全にしか知ることが出來ない。消費態に於いて彼に知られる代表的位置にあるものは、彼自身ではなくその消費內容の故である。即ち彼の主要對象とされるものは藝術であり、歷史であり、哲學であり、科學であるのは極めて當然である。然しながら生産態に遷つたときに於ける彼はどうであらう。現今大都市及びその郊外にある建築物の種々を見て、直ちにうなづかれるやうに、それは餘りに醜い姿のものばかりである。一二の例外はあつても殆んど量的生産である。しかもその各の建築物の間には何等成長的發達的質別も見出せないのである。要するに建築物の機械的大量生産の現狀維持に外ならない。

再び言ふ。消費は本質的生産を俟つて初めて倫理的に完全形に達することが出來るものである。彼等の隣人或は先人の生産的活動を必要とし、それの結果であるものである限り、彼等のたゞ消費する限りの生活は、積極的に彼等の隣人及び後人に不幸を與へる怖るべき可能がある。即ち反公價を生ずるのである。近代に於ける斯る消費主義の存在が廣く禍ひして『搾取階級』『特權階級』を作り出したのは周知の事實ではないか。

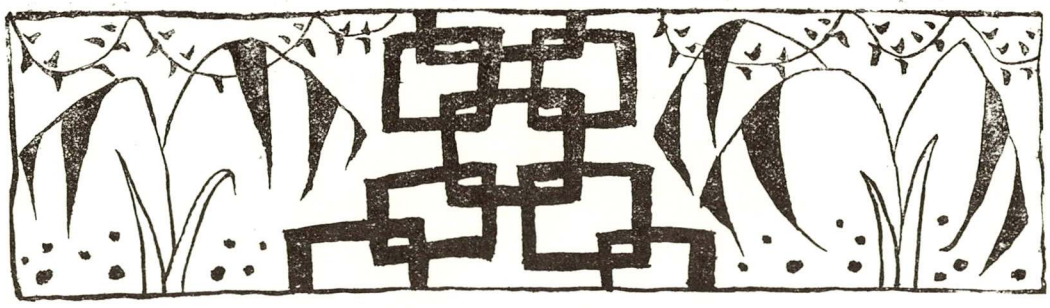
生産は本質的生産主義に於いて私價的必要と公價的必要との最も幸福なる一致を必然的に見出すのである。此處に一人の行爲即ち一建築家の設計或は計畫が、それの結果に於て、時間的及び空間的に彼以外の部分の目的に向つて本質的幸、不幸を多少意味するものである限り、彼はその行爲の原因と

しての動機を撰擇するにあたつて、またその行爲の結果としての豫想を撰擇するにあたつて、その行爲を出來るだけ十分に完全に公價あるものにする興味、意志、反省、熟慮、努力を自身のうちに發見し創造すべきである。

彼が一社會人である以上、彼の一行爲には善かれ惡しかれ多少の社會的結果が續くのであることは言ふまでもあるまい。の世界にあつては、行爲の結果は目的の實現としてのみそ人れの存在を可能にされるのであるから、その必要は即ち本質的に藝術主義の一論理的内容である。それは最廣義に於ける藝術、凡ゆる作爲になるものに眞善義を與ふるとである。然るに彼建築家の行爲は如何に倫理的不完全形であるか。建築されてゆく或は建築されたる彼の意志、行爲の結果が何程の私價的必要を、何程の公價的必要を滿足さしてゐると言へよう。彼には斯る質的なる滿足が彼の生活範圍外のものゝやうである。しかし斯る不倫なる態度は、ひいて後繼者の建築の鑑賞を、即ち後繼者の消費態の滿足を不完全に終らしめ、來たるべき社會生活を倦怠不安に禍ひすることを忘れてはならない。敢て言ふ。生活の内包に於ける深、強、豊は生活外延に於ける廣、遠、普となつて、やがては現實に發展しゆく可能及び必然があると。然るに彼れには反省がない、全人的な反省が發見のある形であり、それに亞ぐ本質的生產が發明であるのに。

創造を將來に豫想する倫理的完全なる消費の行はれない限り、美しい日本の建築も、權威ある日本建築史も尙ほ遠い將來に求めねば得られないのである。

世の中は得して人にほめられて
損して人に笑はるゝなり



或青年建築家の手記

伊藤正文

建築の本質といふものは何時の世でも變化すべき筈のものではない。只建築家の態度が、眞面目か不眞面目かによつて作品の純不純が出來建築家の自覺に伴ふだけの價値しか作品が持ち得ることが出ない。

表現から見て外面的完全性を持つのみの、建築だと云へば云へないこともない樣な現代の日本の建築へのあらゆる批難も、建築と云ふものを安直に考へ過ぎた建築家、否箱造りの態度への批難でなければならない。

日本人が日本は世界の一等國であるとうぬぼれるのと同じ樣なのんきな考へ方が、日本の建築家の頭にこびり付いてゐることは否まれない多くの技術家の内で最も散漫な頭であり、多くの藝術家の内で最も『レファインメント』の低いのは日本のアーキテクトだと云ふ話をきいたがその言葉に裏書を與へる樣な態度がない云ふ論據は見出し得ない。例へば建築事務所と稱してアーキテクトの事務所が多數あるが、その一部には所謂アーキテクトとしての自覺のない分子がないとは云へまい。

藝術の何たるかを心得ぬが故に劃一的單價の許に意匠のマーケットホームを作らうとしたり科學文明即ち文化であるかの如く思ひ込むが故に歐米直寫の安普請を文化住宅と稱したりするその一面に於てデザインと稱する操作（で充分なり）をやつてゐる。デザインとは科學の最新知識を應用するのみではない筈であり、作者の創作の過程に働きの嬉びが伴ふべきである、出來たものは作者の作品であり藝術であると同時に民衆の藝術でなければならない筈だ。世相はそう進んではゐない、逆に建築は科學應用の生產品であり作者は生產業者であり營利の立場にあるもので技術者は計算工であり、圖工であり建築生產への生ける機械で賃金によつて運轉すべきものであると云ふ方向へ進みつゝあるのだ從て建築事務所はブローカーオフイスと化すべくアーキテクトはブローカーとなるの傾向を表すことになる。

多くの建築家は生存の爲にどうしても社會の傾向に順應しなければならない。建築が藝術であるべきであるとしてもそれは單に知識として

知り、その言葉のみをくり返してゐるのみで、製作に就ての體驗を持たない、世相と建築家の態度が結びついて建築界の傾向となり、惡建築の亂立となり建築家と稱すべきものは存在の要はなく建築營利會社のみ存在の理由を持つべきであらう。

建築事務所を主宰すると云ふ資格は建築學會正員でもないし、建築士會正會員の建築士でもない、むしろ人格と技倆藝術家として又人間としての價値があつて初めて存在の理由があり、只單に飯の爲に事務所でも開かうと考へる事が初めから誤りである。そう云ふ意識はせずとも、漠然としたのんきな考からアーキテクトの列にあることは結果に於て同じこと矢張り存在の理由がない。

だからそんな立場を欲して面白くない結果を握むよりもむしろコントラクタアとして營業者の立場に立ち經濟界に出ることがその建築家にも社會もに好ましいことであらう。

此理由から云ふならば建築家不用論とか無用論とかにも意義がある。しかし日本に藝術の不用な程資本主義文明が高潮され爛熟する時が來るものとすれば建築家は自然に淘汰されて、營業者と職工の二分野に別れなければなるまい。

建築は構造と藝術、或は科學と美術の並行した結合ではない。畫をかくのに化學的操作の過程を經て作られた繪具とカンヴスを要する樣に、又彫刻美術に石膏やブロンズが用ひらるゝ樣に、音樂にヴアオリンを用ふる樣に、建築には各構造法を必要とするヴアイオリン藝術ではないがヴアイオリンを鳴す樂手の働きが藝術を生むる鐵筋コンクリートは美術ではないがそれを設計し建築を構成せんとすることに於て藝術であり得るし、又そうでなければならぬ。繪は繪具とカンヴスから或る故に科學だとは云へないし、科學と藝藝の並行したものでもない。科學は常に手段でありよき手段であらねばならぬ。又繪が額に入れられて裝飾的効果を有するが故に功利によつて繪としての價値が失はれることはない、むしろ繪の鑑賞への價値は增されるべきであらう、

建築も住宅として、住み心持よく事務所として使ひ心地よきが故に功利が建築美術の社會的價値をも增さしめるだけのものだ建築が藝術であるべきだと云ふことは遠慮なく云はれることで、只建築家の態度から非藝術に隨し易い現狀の事實は動かされないと云ふことはある。

建築が藝術であるべきことから建築家が建築家として立つ以上は所謂デザインが下手でもいゝ否仕方がない、態度に於て阿世的な慾のない心持で精進してゆくならば、營利を目的とする建築家と同列の扱は出來ない。寧ろデザインの上手下手と云ふことは程度が不分明であり一概に評價出來るものでないのは分り切つてゐる。その評價出來にくい弱點につけ込んで、文明病の統一慾と差別慾から建築家の階級を、他の條件からつけ樣とする動機は面白くない。

他の藝術家に於ても社會的存在に對する經濟的壓迫及盲動的集團的壓迫は重なるのみであるらしいが、建築家の一部の者程阿世的であらうとも思へない。建術家は社會の各方面との交涉が最も廣い爲に妥協性が發達するのだと云へば善意の解釋かも知れない。

若い我々共の建築家の間には生存への一部の妥協を僅かに殘して斷然と戰士的勇氣をもつて立つ多くの集團を見る。純

眞な若い者をして世相の然らしむる所であらう。眞面目な此藝術的團體を作品の未節から批評し又は傳統的眼界から見下して冷笑的態度を持つて迎へるよりも行の立場に對する靜かな省察と理解がほしい。

建築家が世相に順應して進みうるものばかりではない。しかし經濟的安定を得ること、否むしろブルジョアの立場を目標として進み度いならば、建築家所謂アーキテクトの立場を去ることが近道であり、人格的見地から見た失敗が少くなつていゝ。現在の建築事務所と請負業とは社會組織の上から見ても劃然たる差別が出來るべき性質をもつ。從て經濟的に請負業が盛になるのは當然であり、建築事務所が經濟的に發展してもそれが事務所として本來の目的に叶ふものでもない。だから建築事務所とコントラクタアとを比較するに經濟狀態を以つてするのは、單位の異る物を同一單位の數量によつてはからうとするに等しい。

事務所が經濟的に不利であることは社會の狀態の關係であるが、之を有利ならしめんとする爲には建築家の態度に無理が出來ることゝなる。例へば多量生産の機運に伺ひつゝある産業を家庭工業に縮めて尙且つ多大の利を見んとするが如く或意味ではドンキホーテとなるの類であらう。

資本が藝術への壓迫に對する反動的思想家としての藝術家にはモーリスの如き良き例でなければならないが、しかしモーリスの立場に熱を與へた英國の十九世紀の社會に比較して見て我現在の世相の冷い固化した間からは氣のぬけた妥協のみが生れ得る。モーリスは社會組織の改造へと走つた爲に作家としての天才の花は自からに踏にじられてしまつた樣に見える。ラスキンの如き同立場に近い考の人ながらモーリスとは反對に中世主義の城廓の中へとこもり込つてしまつた。

しかし彼等は一般藝術家及建築家の道に一つの灯を提けてゐる。

建築が良い作である爲の要因は建築家の素質と態度に多く依存すると云ふことを世の中で知つてもらい度い。建築主が建築せんとする際の動機が經濟關係のみに依らない限りに於て。

營業的の立場には作品は第二段の事柄で利益利潤を第一目的としなければ矛盾である。

良き意匠とかよき建築を第一と考へる立場は非營業的であり非現代的であらうが、一つの道である。良き建築と多大の利潤が並立することは唱ふべくして實現すべからざる社會的非論理である。寧ろ賢明なる策としてはその一を選ぶに如かず。之は世界的一般藝術方面の生存と生活との間に存するギャップである。社會學者、社會政策家が、現代社會の寄生物の感ある立場の宗教藝術への解決として一大議案を提起してくれるまで懸案として殘るか否か、又我々の立場から考へてその矛盾を如何に解決すべきやのすべを知らない。

建築がよい建築である爲には合理的構造體であり、使用上缺點がなく、觀者に安らかな美を感得せしめるものであらねばならぬと云ふことは云ふ迄もないが、それが、個々に價値を評價されるべきでなく、一有機體としての働きをもつ以上は此等を妹一した或ものゝ價値がつきつめた結果でなければならない、それを建築的價値と假りに云ふならば建築的價値は有機的構成物が創作的の過程を經て生れたものであるが故

に、藝術作品であり、建築的價値は藝術の價値である。創作には創作苦を伴ひ生えの惱みを持つ。又必然に働くとの喜びを有する。柱一本の强度計算にした所で、只漫然と同じ事をくり返して計算上の大さを決定する程單純でない。すべての綜合的な組立を考へる事から意匠としての道筋から、割出されてゆく。その勞苦と嬉びが健全な人生を語るものであり、その働きは藝術への道である。ボンヤリした得意らしい氣持から離れて眞劍に謙遜な態度で仕事にかゝるべきだ。謙遜な人間らしい心持から始めて立派な作が生れ、技巧に於て如何に優れてゐても、そうでない心持を覆ひかくせるものでない

斯くて技術の原理に疎く、藝術の嬉びを知らず社會的地位の高下と學閥的觀念の中にひそかに得意となり又は煩悶し、唯一の道は妥協あるのみとする、無自覺なる一部建築家の態度が建築のまことの進歩の上に暗影を投じて未開決の問題をそのまゝに繰延べてゆく。

只岐路に立つ者の眼前には生活へか生存へかの問題が石の如くに横たはつてゐる。

今ぞ知る冬に籠れる草も木も
花の咲くべき種しありさは

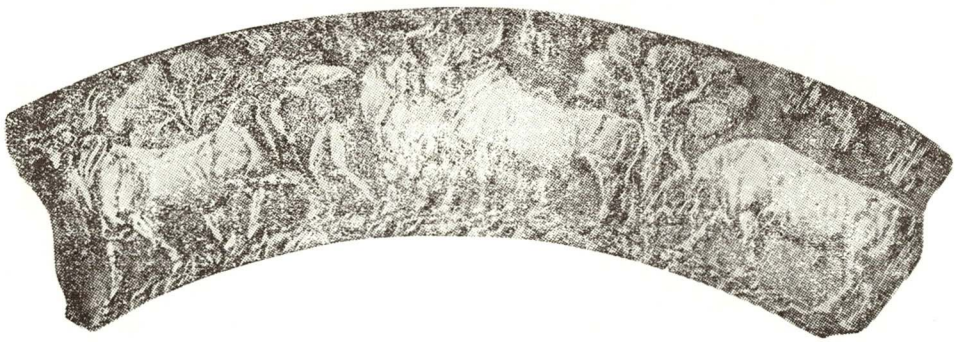
□　□　□

人の我れに辛きも人をさがめずて
我が身のわろき影とこそ知れ



ヴアヒオから發掘

せる酒盃牛飼育圖



希臘時代の彫刻論

=(1)=

古　塚　正　治

緒論

人間がその存在に意義あることを知つて以來、多くの事業をなしたけれ共、蓋し現代程未だ且つて多くの發見となすべき業の多くをなし遂げた時期はない。理論上にも科學上にも地理學上にも歷史上に於ても、また考古學上に於ても智識を廣むることを熱望して止まない、即ちこれが現代の世相である。

敎育の勃興と普及と其敎養との結果が現代を特質づけて、自然の現象はこれ皆人間の遂し得る業として、現代人一般の要求を滿足すべく、宇宙の深奥にひそめる秘密の鍵を得て、その門戸を開放し、その眞底に橫れる迷理を簡明しつくさゞれば止まない。それが現代人の慾求せる焦點であらねばならぬ。混凝土の施工も、新材料の應用も、その握らんとするの理想は一つにして二のあるべきものでない。たゞ世相の餘りにあはたゞしく純利を目的に馳り寄ろうとするの憾がある。しかく現代の如く利に賢き時代にあつては稍もすれば史的考察方面は忘却せられようとするの傾向をとる、確に誰れもが斯うした本論の如きに傾聽する興味が薄らいで來てゐる如くである。けれ共歷史は科學の基礎である。これを探究洞察する事によつて、人間祖先のなしたる文化を探り得、且つそれ等の文化の及ぼしたる影響の經路を傳統的に知り得る唯一の途である。史的事實の研究に興味あるは之れが爲めである。

所謂古典文化として知られてゐるものゝ多くは、實利主義の上から見れば、全く好事家の仕事で緣無きもの如くに想はれるに違ひない。しかしながら、能く考へて見ると古代希臘の文化と、それに引き續いた羅馬時代の文化とは、蓋し好事家の茶飯事として葬り去る前に眞に吟味して見る要がある。現代の文化を誇稱するところのものも、實は彼等のなした文化と產業の影響から總てが發足したものでないと云ふ事を否む譯には行かない。その內でも最も大なるもの、一つは言語である。今の歐米總ての國に行はれてゐる言語、それが同じ一つの古典時代の二民族の遺したる言語に源を發してゐないものは無い。即ち文化の根本義たる言語が斯く云ふ譯であるから他は說明する迄でもない、現代の文學上に、哲學上に、執政上に乃至は諸種の社會組織及その事業の上に及ぼしたる古典文化の影響を證する場合、今日あらしめたる古典のアイジイアとソートとが浸潤したる結果であるのに驚かされる。

科學者は其現象に命名する場合、これを希臘羅典の古義に求め、學究の徒は羅典を以て論究の最も興味ある齒車となし建築上には且つて動かすべからざる重要なる典範として尙現代に於てもよかれ惡かれ一部の人達には少くとも其妙諦を加味し、これを取捨案配せらるゝものも多い。

本誌が『社會と建築』と云ふのであるから本論の如きは其主旨に反するかも知れない、けれ共我建築家にして希臘時代の建築に就ては知らない、方々は無いが、其姉妹藝術として、古代希臘建築の研究に尤も深い關係ある彫刻方面の知識に到つては未だ明瞭に紹介せられたるを聞かない、吾人が未だ完成せざるに先ちて、其彫刻的一般概念を備へて此種研究の資に供するを得ば幸である。

本論は先年吾人が歐中諸國の博物館を巡遊し、實物寫眞の蒐集に務めて持ち歸れるものにして、後日希臘工藝美術史

さして第一編起源編、第二編建築編、第三編彫刻編、第四編繪畫編、第五編其他の工藝的藝術編さして拙著を起稿しつゝある内の第三編中の抜粋にして、若しも抄論によつて斯道の上に便するところあれば吾人の目的を達したる譯で欣快の極である。

尚同好諸賢のために、一つは吾人の未見の知識を廣めんがために、目下小生の手許に蒐集せる英佛獨の參考書の大約を紹介の諸賢の所藏せらるゝところと交換研學の資ともならば幸甚の到りである。

Reference Books;—

(1) English Books

Fergsson. Histories of Architecture (建史)
Fletcher. A History of Architecture (建史)
Shimpson. A History of Architectural developement (建)
Statham. A Short critical History of Architecture (建)
P Gardner. Sculptural tombs of Hellas (彫)
E. R. Gardner. Six greek sculptures (彫)
Wallers. History of Ancient pottery (2 vol.) (陶)
Huise Greek Terra Cotta slatuatte (陶)
Morgan. Vitruvious Ten Books of Architecture 2 vol. (史)
A. R. Shillete. Pausanias clescription of Greece (史)
Powers. The message of greek Art (社史)
Marquand. Greek Architecture (建)
Hammond. Political Institutions of the Ancient greeks (政史)
Abbott. History of greece (4 vol. (文史)
Anacharsis's Travel-Atlas (史地)
A Lang. The Iliad of Homer (史話)
Browne. Greek Architecture (建圖)
Pezzi. Aryen Phslology (言)
Kamies smith Greek Art and National Life (藝史)
Hartlly. Stories from the greek legends (神話)
Atlas of ancient and classical Geography (地圖)
Elton-Hesiod. (詩史)
Callimachus-Hesiod. (詩史)
Turner's-noto on Herodotus (詩史)
Badeker's-Gre ce (旅案)

(其也諸雜誌、各所博物館の案內書歐米各國有名な博物館所藏寫眞數百葉)

Livresde Francaise;—

Collgnon. Archiogies Greque (彫史)
,, , Le Parthnon. (彫圖)
,, , Les Fouilles de Delphes. (彫圖)
F. Benoit. Architecture Antique (建史)
M Laurent. Les chefe d'Onvres de la Lculpture et de l'Architecture (建及彫史)
Douris et les Peintres de Vases Grécs (繪史)
Guides Blues Gréce (旅案)

Deutscu Büches

Buschai. Griechiscee Vasen malerei (陶)
Springs Kunst Geschichte. (vol. no. 1.) (藝史)
Handbuch der Architure (建史)
E. Waldmann. Griechishe Original (彫書)
Ahrem. Das weib in der Antiken kunst (藝史)
Kul Antor. Antique Bronle Statnetten (書)
J. Heinrich-Homers Odyssee. (文詩)
-Vors Homers Iliad. (文詩)
Hrrtmann -Dis Bankunst Grecs. (vol. no. 1) (藝史)

第一期時代（起源）

希臘時代の彫刻と名付け得るのは、西歴紀元前七世期の末葉以降の作品に就て言はるゝのであつて、其以前に於ては吾人の憧憬するが如き醇眞醇實の藝術的作品はなされ無つた如うである。夫れ故に希臘時代の彫刻研究と云へば即ち紀元前七世紀以降のものに就て述べれば好い譯である。けれ共、未だ且つて見られなかつた希臘黄金時代の彫刻、と云つた斯くの如き大藝術がそこに偶發的に顯はれたと云ふ事はとうていう考へ得られないことであつて、其間には必ずながい道程の内に進化と改良とが幾遍となく繰り返へされ、積み重ねられた文運の結晶と見なければならない。起源と進化との道程とに就ての詳細論は本稿 拙著第一編に論じようとするので）では稍略するとするが、唯だ極めて概括的に一應の順序として述べて見ることゝしよう。

希臘と云へば東歐の小半島をなせる今の希臘帝國の地のみを指し、希臘時代と彫刻と云へば此限られたる小地域に起れる藝術であると考へてはならない。殊に其發生の起源と進化の道程とを研究するに當つては、尤も當を得ざるの早計である。希臘半島が突き出たところ、その附近に散在する多島海上の幾多の島嶼と、一葦對水の地である小亞細亞の文化、乃至は埃及土、南歐の諸地方の文化とは、少くとも不絶その間密接なる關係にあつたと考へ得るのであるから、希臘彫刻の發達史に就て考究せんとせば、斯等の諸地方との關係と影響の順序を調べなければならない。蓋し希臘藝術の起源乃至はその文化の搖籃の基礎は遠く紀元前三千年の昔に逆登つて、第一期トロイのテッサリーの市都乃至はシクラードのプリアムの都府に發堀せられたる藝術品の上にその技工は未だ幼稚なるものではあるが、斯等の小藝術品の上に表現せられたる手法の蹟に吾人の憧憬する所謂希臘藝術が胚胎してゐると見られてゐる。

紀元前二千年の頃クレート島には、アジヤ、エジプト及南歐地方の民族が相混じて社會生活を營んでゐたと云ふことが考へ得られる證蹟がある。その島の島司はエジプト王やバビロン王族の制權下に服してゐたと云ふのであるから、それ等の國に既になされた文物の精華は、自然此島を中心として、多島海乃至は廣く地中海に面せる地域にも傳播したものであると見ることが出來る。

建築的遺蹟としては有名なるクノソン及びヘストス王宮の彼の驚へ可き宏大なる藝術品に徵し、現今キヤンジー市の博物館内に蒐集せられてゐる往古の遺物に見て、或はクノソス王宮の廢虚の内に朧げながらに見ることの出來る裝飾等によつて、過去四千年の昔に如何にクレトアーズまたはミノエンヌの藝術が既に殷盛の域に達してゐたか窺ふことが出來る。

就中、壁畵、素燒類、金銀工藝品等に於て驚く可き進化の蹟を認め得るものが多い。素燒類及象牙細工の上に表現せられたる浮彫、乃至薄肉彫刻、或は壁畵の上に表現せられたる石膏質の嵌入彫刻、または諸種の色彩を有する泥嵌彫刻のおき込まれたの等がある。それ等に用ひられてゐる畵材は主として、當時の宗教上、または一般風俗或は動物等を採つてゐる、そしてこれ等を能く研究して見ると、軈て一千年の後に希臘藝術の大成せられる基礎が斯等の藝術品の上に施された

る手法の傳統が、順次洗練琢磨せられたものであろうと云ふ事は否むことが出來ない。斯等の遺蹟研究をコルニョン氏の説に從つて分類すれば、サントランとヒサルクツノを主としたものと、スバルトとミケヌとを中心とした二類に區別して説明するを便利とする樣である。

第一類

太古　それは西歷紀元前十五世紀の頃——フーケエ氏の説によれば紀元前二千年とせられる——シクラード群島のテーラーの島が噴火の大擾亂に見舞れたことがあつた。その島を爆裂の中心區域として、近邊に散在してゐたテラシア島、アスプロニシ島は勿論のこと、或る半徑で畫いた圓周内に含まるゝ危險範圍内にあつた島嶼の凡ては殘さず慘害の大小を蒙つた事である。それが最近西歷千八百六十六年と六十七年との兩年に渡つて、テラシア島とサントラン島や音名をデーラ島と云ふ）内に於て發堀せられた太古時代の遺蹟が宛も此爆發當時の慘害を蒙つて土中に埋沒せられた住民穴居の蹟がその儘に見ることが出來たのであつた。

遺蹟は主として凝灰岩の極めて原始的な構造になる建築物と、その内に人間の居住してゐた日常生活上の器具類として石臼だの、食器だのと云ふのが多い、甕には胸をうんと突き出した女の像が畫かれてゐる、また斯等と大同小異の形になるものが同質の凝灰岩の層をおいて上部からも發堀せられたこれから押して考へて見ると、最初爆裂の被害をうけた後に同じ場所の上に他の住民が來り住んでゐたもので、それが他日再び同樣の噴火に遭つて其場に埋沒したものであろうと云ふ推定がなされてゐる。そして、夫等の上下兩層から發堀せられたものが大同小異の文化的程度のものであると云ふ事からその兩者の間には程永い世紀の隔りがあつたものでは無いらしい、と同時に一般此附近、即ち多島海上の文化は略々これと同一狀態に於ける發達をなしてゐたものであろうとも推究出來る。

ルクマラにあるトゝメス第三世王の噴墓に畫かれてゐる埃及土壁畫の上に、テラ島の住民の一隊恐らく彼等の狀態を現せるものであろうと云はれる、或はまた。海上孤島の他の民族であつたかも知れないが手に立派やかな口のついた甕を持つてゐるのがある。それは當時の埃及土王ファラォンに貢物を献進するの狀を現はしたるものにして、その甕の形が當時のサントラン島に於ける彼等の持つた藝術の一面を語るものであるともせられる。

更に、また、ヒサルリック村の近隣トロードでシリーマン氏によつて發堀せられたるものは稍新しい時代のものであるらしい、けれ共同一系統の文化に屬するものであるから資料としての興味に於ては變りはない。氏は此發見後間もなく長論文を草してオメリック時代の研究資料として非常に價値ある事を述べてゐる。

それによると氏は此研究の爲めに幾數かの村から村へ、古蹟を尋ねて順次發堀して廻つたのであつた、その内には太古に屬するものとして、上記の噴火埋沒の時代と同じ遺蹟をも發見したのであつた。また、オメールのイクオンの蹟を想起せしむるものがあるとも云つてゐる。實に彼れは此探究旅行からはピリアンの寶庫と呼ばるゝ迄でに多くの原始的時代の

藝術品たる貴金屬類の蒐集に成功したのであつた。その內には黃金、白銀で造られた甕もある、鑄金で拵へ上げた首飾等も發堀せられたのであつた。たゞし、斯等の蹟跡を以て、トロイ、オメリツクの遺蹟とを混同視したる氏の

第一圖



に破壞と建設とが何回も繰り返へされてゐると主張してゐる確にその間には相當永い年代の隔りがあるとせられるけれ共其文化の程度に到つては結局大同小異であつたゞろうと云ふ事に學說は一致してゐるのである。殊に此地方がオメック時代の舞臺として著名なる地であり當時此丘上の住民は可也に稠密なものである事も資料の一として考究せらるべき點となつてゐる。

これを要するに、ヒサルリツクの者は未だ事原始的時代に屬し金屬の發堀と其應用とに苦心を始めた時代であると云つて好い、そこには埃及土人乃至はアッシクア人の影響をうけたと云ふ形跡も認められぬ、またヘレニツクの形式をなしたと云ふ何等の藝術品も發見せられない、唯だ指先きで慥へた極く粗野な原始的陶器類を發見するのみである。

たゞし、ヒサルリツク及サントランの太古が同一系統の文化であり、希臘民族工藝史上の第一序幕に列すべきであることに現代科學の範圍に於ては一致した學說となつてゐる。

第二類

スパルトから遠からざるペロポネーズのヴァヒオの村落から發堀せられた遺物の上に表現せられてゐる打出し細工に徵すると、クレトアーズの藝術が此當時何の程度迄で進んでゐたかゞ考證せられる。

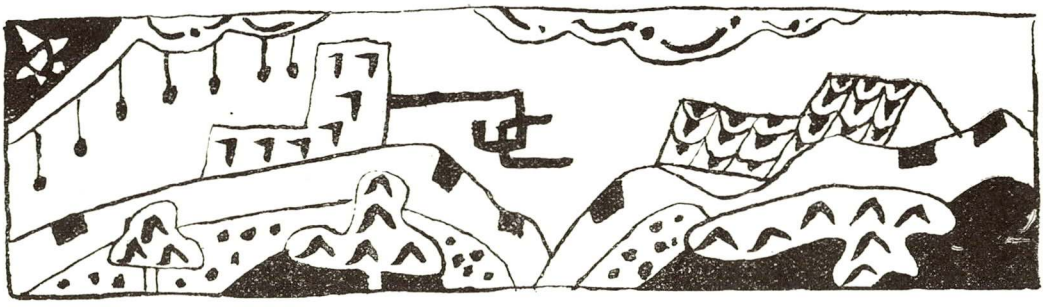
その酒盃は二つあつて何れも內部から外部へ打出しになつてゐるその一つは牡牛狩獵の狀を現はした

議論には幾多の異論があり、反詰が擧げられてゐる、ル、シュバリー氏の如きは、此の後エオリアン、リヂアン、リシマック及びケザーの各民族の改主移民があつたのであるから、其度毎

るものである。（第一圖參照）獵者が巖間を傳はつて群獸を狩る擾亂の態がデリケートに、巧みに浮き出して見ゐる。群獸は奮激と狂暴、熱狂と錯亂の內に馳せ廻り、天を仰いで絶叫するもの、狼狽して狂絶するものがある。あるものは絹にかゝつて怒叫するものもある。その眼が驚愕を以て凝視するものもある。他のものは僅に逃走の他に道を知らないものがあり、他のものは跳躍してゐるがあり、獵者の獲物に刺し斃されてゐるものもある。また不幸なる獵人のある者は怒れる牛角に刻し貫かれてゐると云ふ工合に、千差萬態の表現を用ひてゐる。唯だ、その表現上の缺點としては、表現體の均衡の類を缺いでゐる點である。けれ共その動作の表象、感情の動搖、擾亂と配列の妙味、構圖の根本的新規軸なるは蓋し注目すべき異常なる發達であり進歩である。

第二圖卽ち卷頭に揭載の圖は希臘アデン市の博物館內に蒐集せられてゐる、酒盃を示したるものにして、その上に彫刻せられたるものは牧場に飼育せる群牛を表象したるものにして、恐らくミノヱンの紀元前千八百年頃のものとせられてゐる。

何事も知らぬが佛しつたとは
未だ凡夫の時の名なりし



貯藏と建築

松井清足

一

由來物を貯藏して之を我々の生活に利用して行くことは昔から誰も考へて居ることであるが建築の發達が不完全な爲に完全に其の目的を達することは出來なかつたのである、併しながら如何なる時代に於ても時代相當の研究をして居つたものゝやうに考へられる、殊に我國の如きは昔は殆ど群雄割據のやうな狀態であつて、何時隣國から攻められて、其の糧道を絶たれ、衣服の材料を得られなくなるかも知れないと云ふやうなことの爲に、衣食に對しては出來得る限りの貯藏方法を講じて居た、然るに明治維新後今日に於ては、町へ行けば、何でも買へる、デパートメント・ストアへ行けば、米もあれば、直ぐ着られるやうに、すつかり出來上つた着物もあると云ふやうなことで、凡らゆる物が調へられると云ふ非常に便利なことになつた爲に、殆ど貯藏と云ふ考を全く無くしてしまつたやうな傾向がある、現在文化住宅とか云ふ名の下に諸所に造られて居る住宅を見ても、殆ど日々の必要品に對する貯藏と云ふことに付て何等頭を使つて居らないやうな狀況である、又大きく云つて、倉庫としても、種々なる原料から、精良品、食物等の貯藏に對して非常に不完全なる設備になつて居る、是は消費經濟上非常な大缺陷であつて、細かい數字は姑く措き、色々な統計に依て見て、我國程生產地から都會に送られた物の量と實際使用される物の量との、差の多い所は無い、即ち市場に於ける食料品に付て云へば、魚類や野菜類の如きものにして、格納不完全の爲に、生產地を離れて、まだ實際市民の食料に供せられざる以前、中間に於て既に腐敗するものが非常に多い、又之を各戶に付て見ても亦同じく貯藏不完全の爲に、腐敗を來すことが非常に多い、而も之に付て誰も指摘する所が無いから、何人も當然のことのやうに考へて居る例へば菜葉を一把買つても、其の半分位は翌日は當然あかくなるものであると考へ、梨を五つ買へば、其の中の一つや二つは腐つたものがあるのが當然であると云ふやうな考を有つて居るが爲に、今日我國の一般の家庭に於ても、亦商

賣人に於ても、所謂『らうず』と稱し、幾分は腐つて來るものであるとして、殆ど格納と云ふことを無視して居る。

二

所が歐米に於ける現在の狀況如何と云ふと、此の事に對しては非常に熱心なる研究をして居る、殆ど是が國家の消費經濟問題の大部分を占めるものと考へ、是が巧く行かなければ我々は餓死しなくちやならぬと云ふ位の考を有つて居る——それは日本に於ては餘り容易に日用の物が得られる、着物でも直ぐ隣で機織つたものが得られ、野菜でも近い郊外で出來たものが直ぐ買へると云ふやうなことが一因となつて、前述の如き習慣を造るやうになつたのであるが、歐米、殊に亞米利加の如き現在物品、糧食品の貯藏に付て建築上種々なる研究をやつて居るのは、非常に大きな人口密集の都市が出來て來た爲である、從つて我國に於ても東京、大阪、神戸と云ふやうな大きな密集都市になつて來ると、到底總ての日用品を近邊から補給することが出來ない、即ち大都市には大きな倉庫(ストア)を置いて、之を供給しなければ、非常に物價の變動が多いことになつて來る、故に總ての物品の價格を調節し、經濟上國民の生活を安定ならしむるには、倉庫の完全なるものを建築する外ないと云ふことに歸着する、從て我國に於ても漸次此の方面に着目せられ、現に農商務省の如きも、最近糧食問題から、先づ主要食たる米を貯藏する倉庫を設け、或は各都市に大きな中央市場を置き——決して諸君の籠を提げて買物に行く所ではない——常に完全なる貯藏をなし、且つ非常に不安定なる價格を調節して、國民の生活を成べく安定ならしめやうと企てられ、或は魚類の如きものに對しても從來原産地に於て、殆ど肥料にもならず棄てられてしまつて居たやうなものを冷藏して、之を各都市に運搬しやうと云ふやうなことが計畫され、現在は漸次非常に好い傾向を以て進みつゝあるのであるが、之を歐米に比較して見ると、まだ〳〵其の方面の施設が非常に少い、歐米、殊に亞米利加の都市に於ては一人當り凡そ百立方尺位の冷藏庫を會社又は個人として所有して居る、然るに我が大阪、神戸に於ては凡そ一人當り一・二立方尺位の冷藏庫より行渡つて居ないと云ふやうな狀況である、尤も趣味の上から、冷藏した食物は不味いと云ふやうな問題も起つて來るが、兎に角經濟上、物を棄て『そつ』が行つても、些とも惜しいと考へずに居ると云ふやうな習慣を打破して、何處までも、物を完全に貯藏すると云ふ精神を注ぎ込んで行かなければ、如何に節約を高唱しても、今日の如き有樣では、非常に憂慮すべき狀況である、曾て下田歌子女史から聽いたことであるが、女史が佛蘭西の人と打連れて、大掃除中の東京の市街を歩いて、あれは何が捨てゝあるのだと云ふので、二人で行つて見ると、芋だとか大根のやうなものが大部分を占めて居て、而も其の半分以上はまだ食へるものだ、其の他鍋だのバケツと云ふやうなものが澤山捨てゝあつた、佛蘭西で掃除をして居るのを見ても、決して斯んなことはない、日本は非常にゴミの多い國だと言つて、佛蘭西人が歎息して居たと云ふことである、蓋し是等も消費經濟の上から非常に考へなければならぬ點で、即ち貯藏の不完全なこと、及び一般に貯藏と云ふことに對する考慮を缺く所から、さう云ふことにもなつて來たのであらうと思ふ、故に貯藏と

建築と云ふことに付て聊か卑見を述べるのも、強ち無用の業でなからうと考へて、こゝに斯の如き問題を提起したのである。

三

然らば現在此の貯藏建築は如何なる方面に向つて研究されつゝあるかと云ふと、貯藏建築は一般に熱及び濕氣、光線と云ふやうなものから成べく遮斷して、最も良い條件の下に物品を貯藏しやうと云ふことである、從て物に依つて一々異つた設備が考へられて居るのであるが、之を一々物に依て話をすることは甚だ複雜になつて來るから、大體に分類して、先づ物品類(家具等)の倉庫、及び前述の如く腐敗し易き性質を有つた物の貯藏方法に付て建築上より二三の卑見を述べて見やうと思ふ。

第一家具其の他一般物品の貯藏所と云ふのは、即ち倉庫である、是は一般の家庭に於ても設けられ、又所謂倉庫經營者に依て造られて居るものであつて、それ等の最も重要なる要求條件は先づ耐火問題である、それに付ては色々な經驗の結果耐火構造が出來ることになつて居る、是は耐火構造の方に讓るとして、兎に角建築の設計其のものに依て燃えない家を造り、又耐震構造にすることが必要である、昨年の大地震の時は火災を起して、殆ど東京市の七割を燒き、倉庫會社の建物の如きも全部燒失した、是は外國人などに聽かれては、實は非常に恥しいことである、それに付て私は亞米利加人から手紙を以て、どうして倉庫會社が燒けたのだらうと云ふやうな質問を受けて居る、彼等はあんなに地震のひどかつたことや、あれ程ひどく壞されたことは想像して居らぬけども、普通倉庫會社の貨物は燒けないものであると云ふことに考へられて居た、然るに倉庫會社は一つも殘らずに燒失し、貨物は全部烏有に歸したと云ふことを、唯向ふで新聞を見たり、噂を聞いたりして非常に異樣な感じを起したのであらう、さう云ふ質問をして來た、兎に角何の倉庫にしても、耐震耐火構造にすることが最も必要である。其の他普通の建築に比して耐火耐震以外、特に倉庫として考へられて居ることは、先にも一寸述べた耐熱耐濕の問題である、又盜難、虫害の豫防或はバクテリヤ、其の他細菌類及び鼠と云ふやうなものゝ防禦方法、是等が最も必要なる條件として要求されて居る、而して是等が完全して居なければ、外國の倉庫としては、殆ど倉庫の價値を有せざるものとして、中の貨物に對しては、保險を附せない例になつて居るやうな狀況である、仍で是等、耐熱、耐濕及び虫害其の他の防禦方法に付て建築上の設備を少し述べて見たいと思ふ。

四

我國は御承知の通り冬は非常に寒くて、熱に對して多く憂ふるに當らないが、酷暑になると、倉庫に熱が侵入して、種々の物品に害を及すことが非常に多い、併ながら唯熱のみの害は比較的少いものであるが、若し熱に濕氣を伴ふと、非常に惡い結果を招來する、それで如何にして之を防禦するかと云ふと、現在の倉庫としては殆ど二つのシステムに分類されて居ると言つて可い、即ち恰度家庭で箪笥の中の衣類を出して虫干をするやうな風に、天然の狀態に於て成べく良い條件

を取り、全然開放的にして、物を保存して行かうと云ふ方法と、又正反對に外界と絶對に遮斷して、物を保存して行かうと云ふ方法の二つに大別される。

其の非常に開放的なものは、どんな風であるかと云ふと、是は空氣條件が非常に良い所でなくちやならぬ、即ち亞米利加の如き大陸の眞中と云ふやうな所には、其の方が總ての點に於て非常に結構な狀況にある、併ながら我國の狀況はどうであるかと云へば、太洋の眞中に在る一孤島であつて、氣象臺の報告を見ても、殆ど年中乾燥した時期は無い、昨今の如き非常に乾いて、心持が快いと云ふやうな時でも、五六十パーセントの濕氣を含んだ空氣である、斯う云ふ濕氣の多い所で、而も熱が加はると云ふやうな場合には、開放的に物を保存して置くことは殆ど不可能である、然るに我國現在の實情はどうであるかと云ふと、私もさう云ふ計畫をする人に對しては、隨分口を酸くして爭ふけれども、矢張りどうも風を通さぬと工合が惡いと云ふ人が非常に多い、何故かと云ふと人體には非常に能く其の感じが起る、部屋の中の涼しいと云ふことには二種あつて、單に部屋の中の温度が低いと云ふことゝ、又身體から蒸發する所の水蒸氣を絶えず空氣が運搬し去て、部屋の中に居れば、最も飽和した所の水蒸氣が直ぐ身體を取卷いて來る、そこへ少し差のある空氣が來ても、或部分だけは蒸發する、其の蒸非常に潛熱を要すると、涼しい感じを與へる、故に綠蔭の間などから吹いて來る風は、自分の周圍にある空氣よりは多少乾燥して居るものであるから、直ぐ涼しい感じを起す、其の涼しい感じを物品にも與へてやらうコツプも煽つてやれば、涼しいだらうと云ふやうなことからどうしても倉庫も開放的にしたいやうな考になつて來る、併ながら今日の狀況から云へば、日本のやうな氣候の所では何としても將來は密閉する方法を採ることが必要であらうと愚ふ——或は又密閉する方法は惡いと云ふやうな點が發生して來るかも知れないが、多くの點に於て私の考としては どうしても倉庫は密閉しなければならぬ性質のものである、從來は絶對は密閉と云ふことは出來ないものとされて居たから、密閉と云ふ考が抑も起らなかつたのである、併しながら完全に密閉することが出來るならば、倉庫は密閉する方が最も良いと云ふことは或は誰も感ずることだらうと思ふ。即ち罐詰にしてをけば、何でも腐敗せず保つて居ることに依ても明かである。

五

そこで密閉の方法及び其の施設に付て一言すると、密閉に付ては先づ熱を部屋の中に通さないやうな性質のものを以て部屋の周圍(即ち壁帶、天井、床等)を構へてしまひたい、それには何が一番可いかと云ふと、最も可いのは動かない乾燥した空氣である——動いては、物理學上の所謂對流の如きものを起して、直ぐ部屋の中へ熱を傳達する——或はさう云ふものを含んで居る即ちコルクや乾いた毛氈の如きものであつて、建築に利用し得るものとしては、コルクの如きは最も熱傳導率の少いものである、之を混凝土、アスファルト、煉瓦などに比較すると コルクが〇・三位の傳導率を有つて居るのに對して、煉瓦が〇・四五、混凝土が〇・六五と云ふやうな工合で性質にも依るけれども、混凝土や煉瓦のやうなものは、

コルクに比して、約五六十倍の熱傳導率を有つて居る、故に倉庫としては、鐵筋混凝土、或は鐵骨煉瓦造として耐震耐火的のものにすると同時に、内部に於てはさう云ふ熱の不良導體のものを用ひることが必要な條件である、又其の熱の不良導體のものを倉庫内に用ひることの必要なのは、空氣の這入つて來た場合である、絶對密閉と云つても、倉庫であれば、時には物の出し入れをしなければならぬ、其の際一度開けたら、中の物は直ぐ皆出してしまはなければならぬと云ふやうなことでは困る、倉庫を開けば、外の空氣が這入つて來る、其の温い空氣の熱が表面に傳導されると、其の熱は冷却する空氣内に於ける水蒸氣の量は全く温度に關係を有つて居る、同じ水蒸氣の量であつても、温度がどん〳〵下れば、中に含んで居る水蒸氣の量は減つて來るのであるから、それは何處かへ露になつて出なければならぬ、故にアスファルトの床や混凝土の壁、上に漆喰を塗つたやうな所には露が出來る、中には浸み込まないけれども、熱が下つて來れば、部屋の中に水滴が澤山出來る、此の點に於て非常に面白いのは、桐の簞笥である、あれは實驗上昔から物を仕舞ひ込んでをくのに、最も適當なものとされて居るが、桐は非常な熱の不良導體で中に乾燥した空氣が這入つて居るから、決してあれに當つた空氣が急に冷却して、表面に露を結ぶと云ふやうなことは起らないさう云ふ、で、先づ壁帶や天井、床のやうなものは絶對に混凝土や煉瓦の如きものだけでは困る、主體としてはさう云ふものを使つても、其の上には必ず熱の不良導體のものを置くことが最も必要なる條件である、是は常に計算に依て出して居るのであるが、先づ普通やつて居るのは、冷藏庫のやうな、大きな氷を入れて、物を常に零點以下に保つて居らうと云ふやうな所でも、大概三吋位のコルク板を四方に張つてをけば保つて居る、其の他獨逸などに於ては、此の研究が非常に盛に行はれて居て、落ち木の葉や鉋屑を壓搾したり或は草の纖維を採つて、種々なる方法を以て防熱の板を造り之を一般の家庭に於ても、亦大きな倉庫會社に於ても使用することが工夫されて居る、併ながら一般に金を出して完全なものにしやうと云ふのには、矢張りコルク板が一番可いとして取扱はれて居る、尚ほ窓或は入口のやうな所にも非常に注意を拂ひ、火災の場合にも煙が完全に這入らないやうなドアーが付て居て、それにも亦防熱の作用を與へてをけば、殆ど部屋の中は絶對に密閉し得ることになる、仍ち最も良い條件の時、或は良い條件を拵へて——良い條件の時と云ふのは、即ちよく乾燥して居る時で、良い條件を拵えると云ふのは、乾燥した空氣を造ることである——之を密閉して、物を貯藏し、又必要に應じて、之を開け、使用を終れば、直ぐ後を能く保護してをく、斯う云ふやうな方法で、大小の倉庫に付て種々なる研究が進められて居る。

六

更に一歩を進めては、種々なる虫害の防禦である、例へば羅紗、毛布、家具類の如き皆虫が付て困るのであるが、一は昆虫類であり、一は黴菌であり、一は菌類である、其の中バクテリヤに付てはまだ發見されて居るものは極めて少いのであつて　一番目立て害を及して居るものは昆虫類である、何處の家でも——何處の家でもとは云へないかも知らんが、大

概の家では箪笥の中に仕舞つてをいたメリンスを夏の中に虫に食はれたり、帶に星が這入つたりする、此のメリンスや羅紗を食ふ虫は一種の甲虫である、當地神戸では何と云ふか知らんが、能く子供が惡戯に持て遊ぶ、半球形の、脊に赤い斑點のある矢道虫と稱するもので、それが何處かにへり付けてをいた卵が孵へると、羅紗などはごん〳〵食つてしまふ、そして成虫となつて、又外に飛出す、斯う云ふ種類の虫は成べく一定の所に集めて、之を採つてしまふと云ふやうな方法を研究して居る、即ち被服廠などでも、此の虫が非常に好く菊があるが、それを盛に培養して、其處に虫を集めて、採つてしまつて、成べく部屋の中にやらないやうにする方法を採つて居るやうであるが、それも一つの保存方法である、又食料品に付ても、米に付て居る『こくぞう』の如き、或は蚘虫のやうな米に付て長く巢を造つて居る虫がある、あれなども皆蛾として飛んで來て、卵を付けて行つたのが米櫃の中で孵化したものである、斯う云ふ虫の發生を防ぐ目的の爲に、最近は先の密閉主義以上に、非常に不活潑な瓦斯（即ち爆發性のものは危險であるから、爆發性の無い、又毒瓦斯に非ずして、さう云ふ虫の長く生活し得ないものゝを倉庫内に注入して、物を保存しやうと云ふやうな方法が大分研究されて居る、それはまだ物品が惡くなるか、ならぬかと云ふ研究が十分に行屆いて居らぬけれども、穀物類に對しては比較的結果が好いやうである、それは炭酸瓦斯のやうなものであるが、炭酸瓦斯のやうなものばかりでなく、色々さう云ふ極めて不活潑な瓦斯を入れて置くと、害虫の生活し得ないと云ふやうな方法の研究が續けられて居る。

次に、倉庫内の貨物に對する害虫の發生を防禦することに努むるのは當然であるが、何としても絶對に虫の付て居ない物を格納すると云ふことは不可能であるから、既に發生した害虫を何とかして殺してしまふことも必要である、それには又密閉の方法を採るが可い、即ち密閉した倉庫を種々なる方法に依て燻蒸するのである、一例を擧げれば、ホルマリンやクロール、ピクリンを入れるとか、或は粘液質の虫に對しては硫黄を燻べる、斯うして一度倉庫内に在る物の害虫を絶滅させて置きさへすれば、貯藏は完全に行はれる譯である。

要するに害虫の發生及び其の被害を防ぐと云ふ目的には完全に熱を遮斷し密閉した倉庫が最も適當なものであつて、普通の倉庫としては大概是位の設備をして、それが耐震耐火構造であれば、其の運用如何に依て、從來の如き不結果を來さず、十分に貨物貯藏の目的を達することが出來やうと思ふ。

七

終に臨んで、もう一言述べて置きたいのは、冷藏のことである、貯藏上冷藏（即ち底温度の貯藏）の必要あるものが澤山ある、それは即ち精良品であつて、肉類及野菜の如きは最も其の必要の多い問題である、是は人工に依るより外に途が無い、即ちコルク其の他の防熱のものを置いた部屋の中に最も冷めたい空氣を造つて、其の中に貯藏して行かうと云ふのである、是は大きい物に對しては非常に難かしい、或は冷藏庫が一つあれば、何でも貯藏し得るやうに考へる人があるかも知らぬが、是は物に依て一々と温度が違つて居る、例へば卵の如きは零度（氷點）以下に下れば死んでしまふ、分解して、瓦

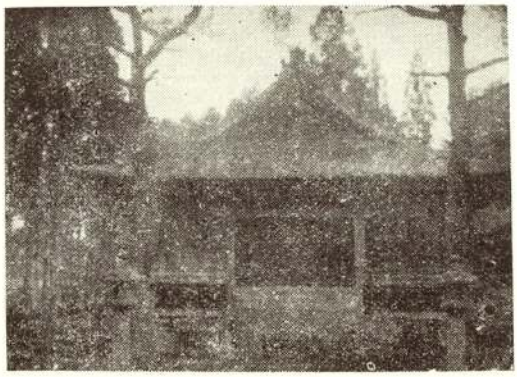
斯を發生し、臭氣を生ずるやうになる、兎に角精良品の冷藏は非常に難かしいものであると云ふことだけを承知して居て貰ひたい、然らば從來家庭に於ける冷藏庫はどんなものであるかと云ふ疑問が起るであらうが、家庭に於ける冷藏庫は非常に温度の高いものである、大概華氏の四十度前後位より下つて居ない、是等は短時間の保存としては可いけれども、少し長く保存するに付ては何等か他の方法を講じなければ大した効果は無い。

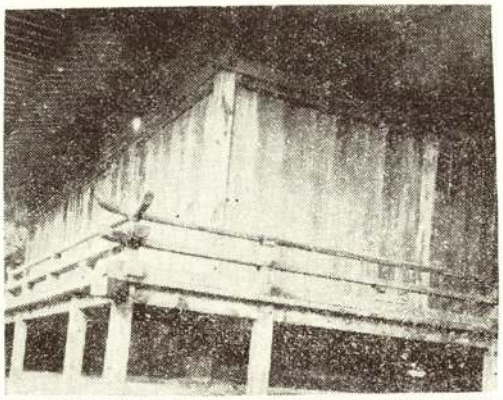
そこで私は最後に家庭に於ける精良品の貯藏は如何に取扱はれて居るかと云ふことを述べて置きたい、最近獨逸に於ては、戰大當時各國の包圍を受けて、家庭の人は食物の貯藏に付て非常に苦心をした其の結果色々研究されたものであるが何處に行つても地下貯藏をして居る、是は一つはボンブの攻撃などに備へたものであらうが、獨逸は非常に馬鈴薯の多い所で、あゝ云ふ野菜類や魚類は成べく日光を避けて、地中に保存する方が可いので、殊に神戸のやうな所では、横穴を掘つて、盛に横穴貯藏が行はれて居る、是等は最も簡便であつて、家庭に於ける貯藏方法としては最もおもしろいものだらうと思ふ、唯其の入口の設備等に付て多少種々なる考慮が拂はれて居る。

まだ申述べたいことは澤山あるが、餘り長くなるから、こんなことで止めて置かうと思ふ、兎に角今日我國の狀態は非常に不經濟なことになつて居るのであるから、各位に於ても貯藏と云ふことに對して十分の注意を拂はれ、消費經濟上大に研究されんことを切望する、尙ほ特に結論として一言添へて置きたいことは、此の貯藏建築に付ては一切外國の模倣を容さない、自發的に日本には日本に適したものを工夫するより外に方法は無いと云ふことである。

負けて勝つ智慧の力の強さには

誰れも感心するぞ韓信





大原三千院本堂

——往生極樂院——

池田谷久吉

□往生極樂院本堂。惠心僧都永觀三年（紀元一六四五年）花山天皇の勅命により建立せしもので三千院内庭園の東南隅に建ち南面してゐる。

平面は三間四面單層入母屋造りの柿葺で奥行よりも間口が狹いことはこの寺以外には餘り類例のない珍寄なものである。

前後即ち南北兩面に入母屋の破風をつけて妻入として向拜が一間附いてゐるがこれは後世附加したものらしく思はれる。周圍の廻椽には勾欄をつけ正面向拜には階段が附いてゐる。

構造簡單、木割デリケードで正面三間は蔀戸、左右兩脇間及後方の一間にも扉がある。軒は二軒で棰は何れも長方形の斷面に狹き面を取り、柱は角柱を用ひて舟肱木を頂いて大面を取つてゐる。

内部には床を張て四本の圓柱を建てゝ中央方一間を『内陣』とし後方の二本は柱間を壁として其前に一段高く佛壇を置き佛壇には黑漆に螺鈿を嵌入して寶相花文様を描いる。

□位置　京都府愛宕郡大原村鯖山

□沿革　宗派は天臺宗三門跡の一で梶井宮又は梨本坊とも呼び延歷寺の末寺である。

初め延歷年間に僧最澄が比叡山根本中堂を創建の際東塔の南谷に假に小さい堂塔を建立したのが此の寺の創始である。後、貞觀二年、僧承雲が清和天皇の勅令に依つて殿堂を改築して『三千院圓融房』と銘名し梵唄聲明の本山である。堀川帝の第二皇子最雲法親王の入室して第十一世を繼承され門主となられてから以來皇族の代々相承と門主となられる様になつた。その後寛和元年、惠心僧都勅命を受けて建立したのが現存の建物で僧都の母堂、安養尼が住んでゐた遺跡だとも傳へられてゐる、後第二十八世の門主として後醍醐天皇の皇子大塔宮尊雲法親王の入室された事もある近く明治維新に際しては昌仁法親王第五十世を繼がせられ門主となられたが復飾されたのが梨本宮である。

た勾欄を繞らして其中央には丈六の阿彌陀及觀音、勢至を脇侍に安置してある。扨て此の勾欄の文様は頗る拙劣な作で大和當麻寺や陸中の中尊寺のものに比較すれば餘程のつまらないものである。恐らくは後世のものだらうと思ふ。

此の堂の特色とすべきは舟底形の天井で棰を延べて上を覆ふてゐる、これは小さい堂に丈六の座像の如き大きな佛像を安置するためにはその光背のところを上げねばならぬ必要から『船御光』に調和する様に作られたものである。外陣は化粧屋根裏にて極簡單に出來てゐる。

□彫刻　本尊は木造丈六の阿彌陀如來の座像で藤原時代の傑作である。脇侍は觀音、勢至の跪像で寺傳では惠心僧都の作とあるが少々疑はしい様に思はれる。殊に脇侍は俗に脇立といふ如くに立像が多いが斯の如く兩膝を折りて稍前方に傾き勝に跪座してゐるのは彫刻としては珍奇なもので是は恐らく繪畫の影響を受けたためだとも考へられる、然し彫刻としてはあまり立派なものでもなく現今は金箔を修補したために殊に俗惡味を感せしむるのは何よりも惜しいものである。

□裝飾　内陣舟底形天井には二十五菩薩を描き彌陀三尊、後壁には兩界種子曼荼羅を描き、四方の壁には無數の諸佛を、柱、長押、棰間等には優美纖細なる寶相花衣様を彩色にて描寫してゐる。

是れ等は建築と何れも同一時代のもので藤原初期に屬するものだらうと思ふ。

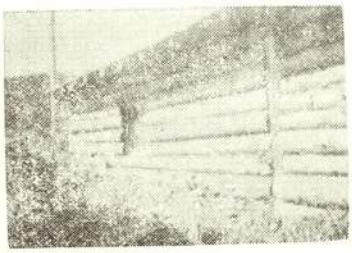
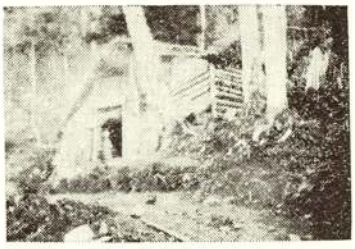
勿論現在に於ては其の落剝・破損が甚だしいがその作風氣品あり優美なる當代の特長を充分に發揮してゐる。

要するに此の堂は規模も小さく且後世の修補が多く入つてゐるので日野の法界寺、宇治鳳凰堂等と共に阿彌陀堂建築の典型で、其のプランは前述の如くに略方形に等しく内部に柱を建てゝ内外陣の仕切を開放したことや彩色で來迎佛や寶相花文様等を描いて裝飾としてゐることなどは他の阿彌堂建築と何れも共通の特色である。

尤も藤原時代に於ける阿彌陀堂建築の最古の遺物として價値あるものゝ一つである。

淺みどり澄み渡りたる大空の

ひろきを己が心ともがな

樺太の事ども

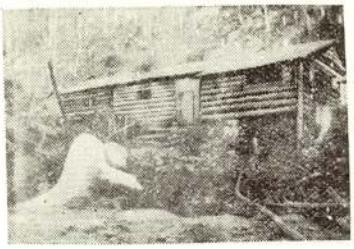
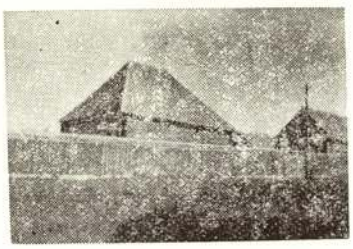
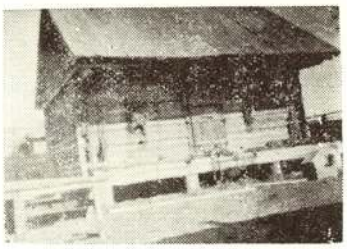
＝國境近き東海岸附近＝

中村義雄

(一) 樺太に就いて
(二) 交通のこと
(三) 東知取附近
○樵夫の生活
○魚塲のこと
○一般民家と（舊露西亞人の家）
○建築工事のこと
(四) 氣候と建築
○及ぼす影響
○木造建築の被害
○雪の被害
○防寒設備
(五) 敷香附近のこと
物價と勞働資金

寫眞

上段――向つて右より一、二は丸太建民家、三は露西亞人の樺太に建てた家
下段――右より一は露西亞人の倉庫、二は樺太民家の代表的なもの（舊露人の家）三は丸太建民家

此の原稿を書き終つたのは十一月二日の夜です、海は荒れて凄い音を立てゝゐます外は細い雪が降つてゐて「ストーブ」が赤くやけてゐる時です。

近日中に海は凍結します航海も自然出來なくなります、私は色々の試驗材料を据付けて本年は東京へ行きます、來る十日は豐原丸が入港で最終航海です是非これた乘り度いと思つて亂雜に書き並べました、よく調べて御修正御訂正して下さい。

此夏御約束しておきましたことも、雪の降る時になつて御通知することが出來る樣になりました。夏は當地の最も忙しい時で、近頃になつては塞く自然建築の仕事も出來なくなり、山も海も川も氷と化し道路はなく自由な天地の樣な氣がします。來年の六月氷の解けるまでは別天地です。

一 樺太に就て

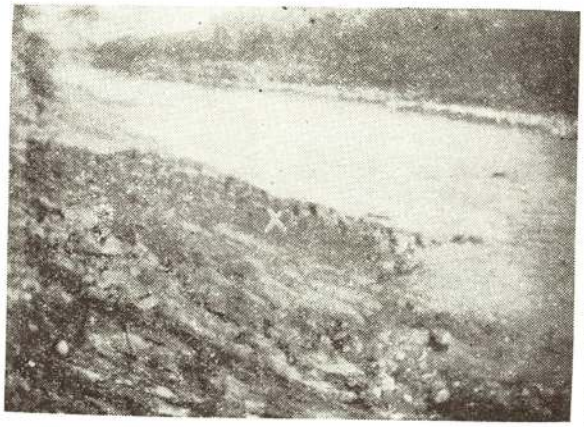
興味のある記述をするには成るだけ澤山の材料をもたなければならず、色々の學問知識や廣い觀念を貯へねばならないから、滿足な纏まつたことも出來ないが當地方にのみ見られないこと、即ちローカルカラーに就て二三の記述をして趣味の建築に役立てたいと思ふ。

日本の殖民地の內最も未開なのは樺太であろう　特に北近き北緯五十度附近の土地である。

東京を出て工合よく旅を續けば一週間で到着するのである本文の樺太紹介は我々の住む北緯四十八度七分東海岸の一部落東知取及四十九度三分敷香に就ての話である。

二 交通のこと

日本の鐵道最北端榮濱より北端の町敷香に毎年海の氷も解ける五月の終か六月の上旬流氷に追はれつゝ濃霧になやまされ初航海をなし初めて不完全なる連絡を取るのである。



川口を橫斷せる石炭の露頭　×は石炭

定規船として月二回往復し樺太廳命令航路の發動機船もあるが波の荒い海に十噸位の發動機では實に心細いことで二日も三日も荷物と共に船底で鯡の臭氣を浴びて橫たはつてゐるのである。見へる山は瓦斯に包まれて目標付かず、鯨の潮吹くを見ては『コース』を替へ風模樣を見ては避難し『アザラシ』の群白鳥の群の中を縫つて行くのである。

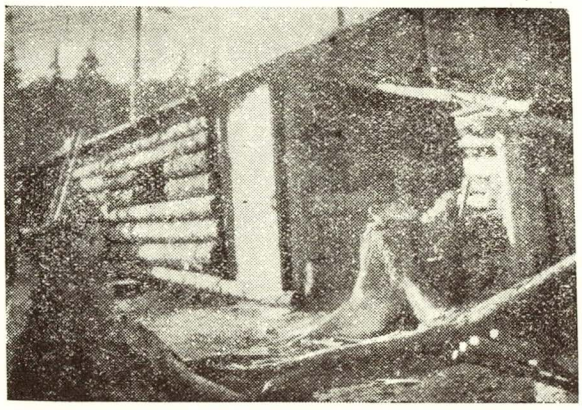
十一月には海氷結し犬橇（ソリ）や『トナカイ』橇で海上を走るのである橇は船以上に醉ひ危險で寒氣と戰はねばならない橇は乘賃非常に高價なもので普通の人間では橇使ひは出來ない大抵は土人である、犬橇は大てい樺太犬八頭乃至十頭を以て一臺の橇を引き二人乘り位である、陸行は船よりも困難なことで榮濱より敷香まで十日以上の日數を費すのである道路は軍用道路であるが殆ど道路の樣でなく森林である、時々熊に出會することがあつて危險なのである十里位の間隔に樺太廳の驛遞と稱する旅宿の樣なものがある宿泊が出來るが不潔極まることゝ番人は大抵土人であるから氣持が惡い。

三 東知取附近

一般に樺太の土地は地圖に依りて明かな如く細長く中央に山脈あつて分水嶺、

なつて西海岸東海岸が出來てゐる山は差程高山ではない海に面して大森林地帶をなしてゐる海と山との間は平地が少く磯濱が多い。

東知取は知取川の三角洲にあり知取川の上流は大森林をなしてゐる川には石炭の大塊が地上に露出し川を横斷して幾條かの露頭がある、寫眞は知取川の流域に於ける露頭の狀態である昨年春は此の石炭の上に大熊が死んでゐたこともあつた本年六月にも二三度現はれたが私は不幸にして一度も姿を見たことがない通つた足跡を見たのみである知取川の流域は百萬坪位の平地である深さ一尺五寸乃至五六尺の大ズンドラ地帶になつて昔から人間の通つたことのない土地である夏季は濃霧に覆はれ春は流氷が流れ秋から冬に掛けて寒氣強く、吹雪で屋外へは出られないのである、木材の化石　貝類の化石が川に點々し鳥が群をなして舞ひ、鱒は川一面に昇り夏季と雖もストーブを焚き本年の如きは九月十三日には水雪が降つた位である。

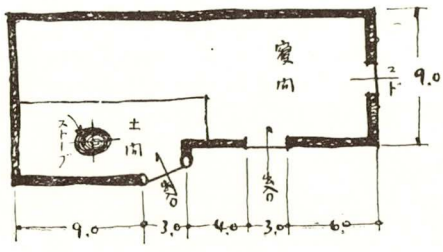


樵夫の家（知取川の上流）

常に山火事が起り二三日は續いて燃へ凄い音を立てゝゐる、此土地の住民は火事と云へば山火事のことを常に考へてゐる山火事を防ぐ爲めには山林に火防區域として巾五十間に木林を伐採してある一度起つた山火事は大てい風の向ふ次の火防區域まで燃へるのでよを付けず望觀する所は實に氣樂なものである、これ等のことは北樺太でなければ見られないことであろう、此附近にある木材は、エゾ松トド松、ドロヤナギ、ハンノ木、白樺、落葉松、オンコ類の他はない、エゾ松も割合に少く落葉松や、オンコも割合に淺い山には少い最も多いのはトド松である土地の住民は此の大自然の天産物の木材を伐採することゝ魚を取り石炭を堀ることの他は殆ど無い農業をするが農を本業とする人はない、何れも山を中心とする仕事のみである。

農産物はわずかな馬鈴薯玉ネギ玉菜等であるが此土地の人間の食料には不足である。

▲樵夫の生活　山を中心とする仕事の最も多い樵夫の生活を調べて見て始めて人間生活の眞實味を見ることが出來た。山の生活は極めて自給的であることから樵夫は自然の材料を使つて工合よく自分の家を造るに上手であるこれ等は活き苦しい都會生活者から見れば彼等の生活はたまらなく羨やましく感ぜられて來る大自然を相手に何等の束縛もなく力一ぱいの勞働をして日が暮れると谷間の家に下りて爐を圍んで寢るのである



樵夫の家の平面

家は木の枝や細い木の幹を切り地に突



鮭、鱒、鰊小（醤の香敷）處たに中舟を魚の場漁

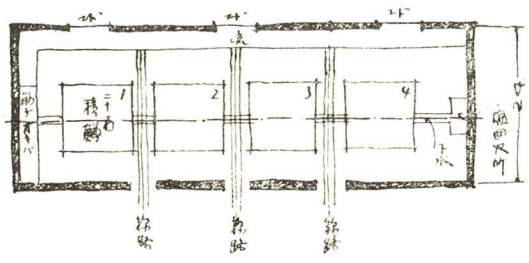
き立てゝ柱とし木の又に横木を架け繩で結び付け棰木や棟木は小枝であつて、木の皮を剝いで屋根を葺き丸太で押へをする壁は木ゝと草とで包み丸太で控柱を取つた妻側から出入口を取つてある床の中央の土間に爐が切つてある鉤からは常に鍋が吊されて爐邊には黒い大きな藥罐がおいてある、壁にはみのと大鋸と鉞が掛かつてゐるのが普通で、寫眞の樵夫の家は立派な方で知取川の上流二里の所にある家の中にはアイヌ土人二人で中食をしてゐた時見せてもらつたのである。

▲**魚場のこと**　東知取附近は魚類は少ない北へ小鵜鳥及敷香方面には大規模がある各河川は大小をとはず毎年七月鱒が群をなして昇り、手捕りも出來る位である四月には鰊が取れる大波ごとに波打ちぎわに打ち上げられ大暴風の時は濱邊に鰊が白く見へる位打ち上げられて多くさんの水鳥はそれを拾つてゐるのである私は敷香と小鵜鳥の魚場を見た、今まで食つたことのある鹽鱒の鹽からさも敷香の相當大規模の佐藤魚場で始めて知つたのである。

濱から五丁程沖に張つた綱から一日二回舟で上げられ濱に設けたるボストクレーンに依りて卷き上げ撰別し『トロリー』に依りて鱒を運び圖の樣な家の中に設けられた流場にて腹を切り玉子（筋子）を出し鹽をするのである、筋子は別に鹽をなすのである。鱒の鹽は思ふより多くするので雪を掛けた樣である鹽を終へた鱒は二十石を一山とし鹽を下水に垂し下水の鹽をまた回收して使ふのである床はコンクリートで通行は簀子板を敷いて清潔にしてある箱詰めにした鱒は木材の積取船によつて市場へ送るのである。大ていの魚場は株式組織になつて冬は皆閉鎖してゐる。

▲**一般民家**（舊露西亞人の家）　露西亞人の家は此の土地の民家の代表的のものであるからこれに就て調べ最近日本人の手になる新しいものも、紹介したい

建物の構造は一般に『ロソグキャビン』である屋根の勾配は急で板葺になつて多く『アテック』を利用してゐる立派な民家はペーチカを造つてゐるが極稀れで普通は木材を燃料として鐵板のストーブを燃いて温まり何れの家でも爐を切つてゐる天井は二重天井で屋根裏に土を載せて温氣洩れない樣にしてある窓は小さく雪の爲め窓腰が高い間取りは一室式のものに中央爐を切り踏込が付いてゐるだけで簡單なものである。



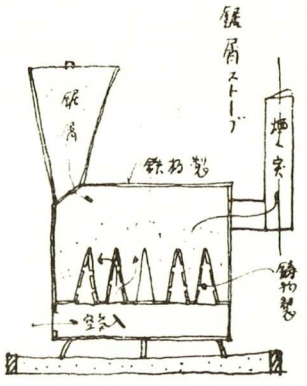
これは臺所や流しを別に造つても冬は暖

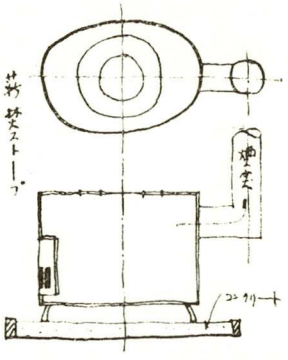
い室に持ち込みて用を爲す爲め自然一室になるのである。これ等は北海道方でも同じことであるこれは此の位の小さい民家では當然のことで、私もこれ等のことは自分の生活の體驗から當然のことゝ思ふ露西亞人が少くなるにつれて日本人が入り變り色々のことは北海道から移されてゐる、家や家の暖房のことは北海道によく似てゐる丸太建てや丸太の二つ割を壁にすることは最も普通のことである基礎は木杭を打つて屋根は柾か板で葺き丸太の間には『ズンドラや苫又は馬糞を塡めてゐるのも見受ける土を塗つたのも見ることがあるが少い土を塗つても其上に板を張つてあるのである。

民家として古い形は露西亞人の家の他は見られない土地の人間は古くから棲んでゐるものが少い爲めである移民は利殖を目的とし防寒的建築に對しては餘り考慮をなさず一時的のバラックを造り住むのであるから見る價値はない。

冬季物資の貯藏をなす爲め普通納屋と室が付いてゐる、納屋は別棟になつて米等を貯藏し多い野ねずみを防ぐ爲めに床を六尺位上げて張つてある、中二階の樣で柱は木杭で途中に毛を巻き付けて鼠返しとされてゐる。

室は室内に設けたるものは地下凍結の爲め外部の雪の中に設けられて造り穴を堀り馬糞を周圍に塡めて保温され表面は雪で覆はれてゐる



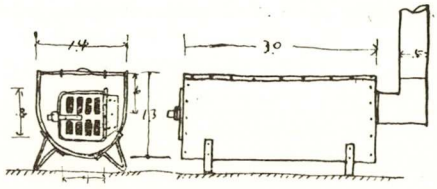


鷄や豚の類は何れも塗壁式の家を造て冬季を越すのである、毎年九月には越年薪炭の用意をするのであるが薪は家の軒に積み重ね冬季の風の最も吹き當る壁の外部に積み重ねて幾分の寒さを少くすることゝ薪の乾燥を充分ならしめてゐる等はよく考へてゐるのである。

出入には雪の降る頃になつて丸太で造つた袖垣を造り莚等を張つて雪除けを造るのである

暖房は爐か鐵板製『ストーブ』で木を焚くのであるから焚の炊事用も同じであつてストーブの形は色々變つてゐる。

大ていの家は爐の上か『ストーブ』の上には夏季に捕つた魚類を干して吊り下げて冬季の食料にするのである。



屋根の上には樽が乘せて梯子がある樽は雨水を貯へ出火の用意にされるので梯子は勾配の急の爲め水の運搬や『ストーブ』の煙突の掃除及修理に用ふるのである、窓の上には小さい小孔を明けて煙突の出口になつて壁には不燃燒物の眼鏡石が嵌込んである、一般に寒國の民家は内地人の考へに浮ばない位色々の設備をして住むのである建物は重苦しい樣に見へる焚物をする爲め家は不潔である、寒い〳〵と云つて一日中家の中で暮すのである。

▲建築工事のこと　當地に於ける建築と

云くば木造の建築ではあるが、豊富なる木材及砂利、砂の天然材料を使用して鐵筋コンクリート建築をなすも何等困難なことではない現在函館よりセメント一樽の運賃八十錢位で鐵筋材料東京より運搬費噸廿圓位である將來約四ケ年の後樺太鐵道葉濱より東知取まで開通に至つては何等變ることはないと思ふ。

現在私は木材の山なす所で鐵筋コンクリート工事をなしつゝある唯コンクリート施工期の短き爲め非常に工事の上に於て支障を來すのである。

冬季は材料運搬に最も便利である山も川も海も氷結し橇を以て道なき所を一直線に通行し得られ犬橇に至りては一時間十哩位を走り得るのであるから如何に速きか想像し得らるゝのである。

▲物價と勞働賃金　は左表に示す如く高く工事に於ては豊富なる木材と石炭とを燃料として機械力を充分活用して短い期間に多くの仕事をなさなければならないのである。

大工　¥4.50　雇¥3.70　人夫¥3.30
コビキ　¥5.50　キリョ　一66　¥30.00
運送人夫¥7.00　製材工¥4.00

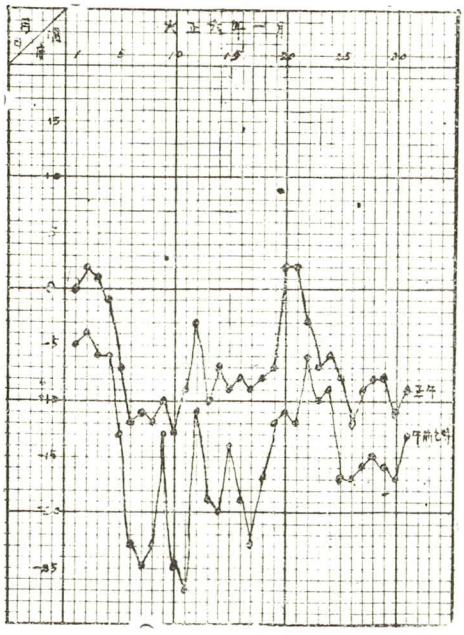
コンクリートの格價（當地に於て實施契約せるもの）

砂　（採集費）立坪	¥15.00	
分止り85%		17.25
砂利（同）立坪	¥21.00	
分止り85%		24.15
セメント	11(5.00+80)	63.80
手間		30.00
計		135.20

右の內セメントは一萬タルとして最も安く契約せるものである

トド松エゾ松の價格

角材百石	¥700.00	～800.00
板類同	¥900.00	～1000.00
丸太同	¥250.00	



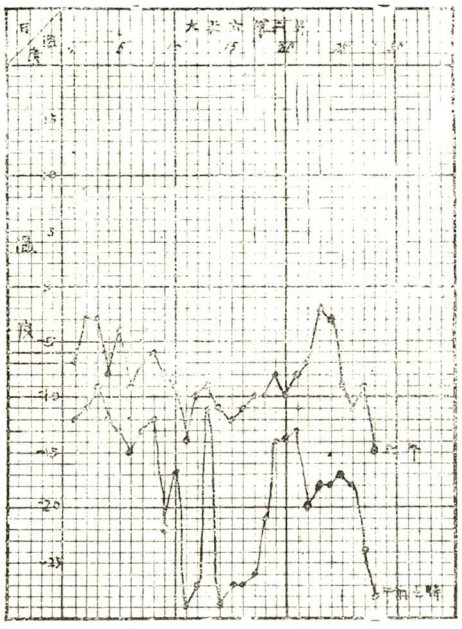
此地方は大陸的氣象を帶びて寒暑の差が甚だしく建物に對しても周到なる注意を要し凍害、雪害等の寒地建築構造上の考慮と防寒の設備を要するのである。

凍害とは地表凍結の爲め建物の安定を破り床不陸になり建物傾斜し歪を生じ甚だしきに至りては倒壞することもあるのである。

此地方の凍結深さは一般に海邊と山手川岸等に依りて差あれども三尺乃至三尺五寸の深さに凍結し『ズンドラ』地帶に至りては五尺凍結するのである、場所に依りても大なる相違がある、一般に温度の差甚だしき所は凍結を增すのである家の內部の地盤は最も凍結し外部の雪中は最も凍結が少い理けで物入のある所の地盤は、居間のある所の地盤より凍結の深さが少い現象を示してゐる凍結深さの測定法は色々あれども最も簡單なるものはビール瓶に水を塡充しこれを各所に深さ五寸間に埋め置き瓶の破壞の位置を測定して凍結線を定めるのである。

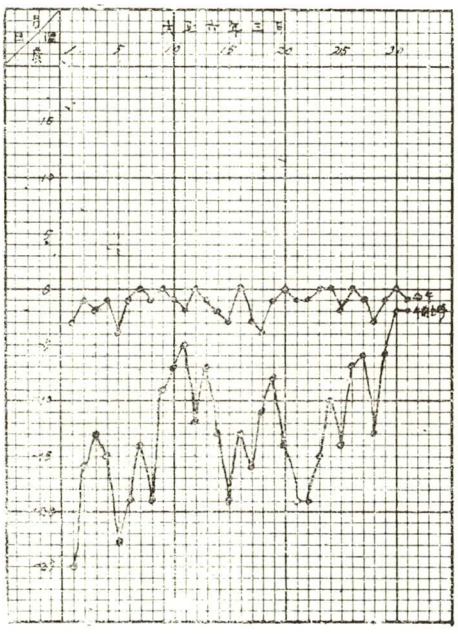
▲及ぼす影響　木造建築に於

ては地殻凍結に依り土砂膨脹し基礎と共に持ち上げ融解に依りて沈下するのであるそれに依りて基礎の側面にも側面に作用する摩擦に依りても建物の基礎に大なる變化を與へるのである、此の凍結に依りて受くる力作用は地殻表結の深さに依りて強度を異にし又凍結期間内に、力の大さに大なる變化があるもので建物の基礎に受くる變形にも增減ありて最大應力を測定することが非常に困難を感ずるのである、然しこれに就ては後日ある假定のもとに試驗の上發表することゝする



▲木造建築の被害　木造建築に於てコンクリート基礎又は地杭打地形が多く用ひられてゐる、何れも凍結線以下に基礎をなすは勿論なれども、凍結線以下相當の深さになさざれば、効力なく毛細管現象に依りて凍結を增すのである。

横壓力に對して二倍以上の深さを必要とし、木杭打に就ては四尺凍結に對し十二尺の地杭を用ひてゐるのである。尙ほ凍結線まで砂利を以て杭を卷き凍結線を淺くすると、同時に横壓力に反抗する土壓の大さを增す爲めである。



又地形杭が倒樣に打ち込みて摩擦に依る凍止力を減じ凍害を少くすることもある。

一般に前述の如く凍結線以内に設たし地形は効力なきは勿論けなれども地表に設けねばならぬ床コンクリート及轉し根太床には相當考へに餘り方法も研究中であるがこれに連結せる建物基礎にまで影響を及ぼさざる樣建物と別箇の考へにて絶緣するを最も必要である。

▲雪に對する被害　寒氣甚だしき土地は最も少く當地も其の少き部類に屬し年々高三尺平均二尺以内であるから被害に對しては持に此頂を北海道十勝國池田及石狩國江別に就いて三ケ年間に涉り私の調査せることを附加しておきたいと思ふ、もつとも江別附近は積雪多く平均六尺位は積り被害も樺太の當地より多いのである。

先ず屋根の積雪に就て見るに此地方は雪止めの設備したる所少く、屋根勾配を相當多くして雪を早く落す方法にし出入口のみ雪止めを設けてゐる、時には雪を屋

根より落し被害を少くする。これは屋根重量を恐れるのみならず積雪の上凍結し室内の溫度に依り融水は軒先に於て氷結して融水を堰止め屋根に逆流して内部に浸入し壁の内外に滿水するのである、時には此の凍結せる雪が一時に落下して負傷者を出し軒先を破壊する場合もあるのである。

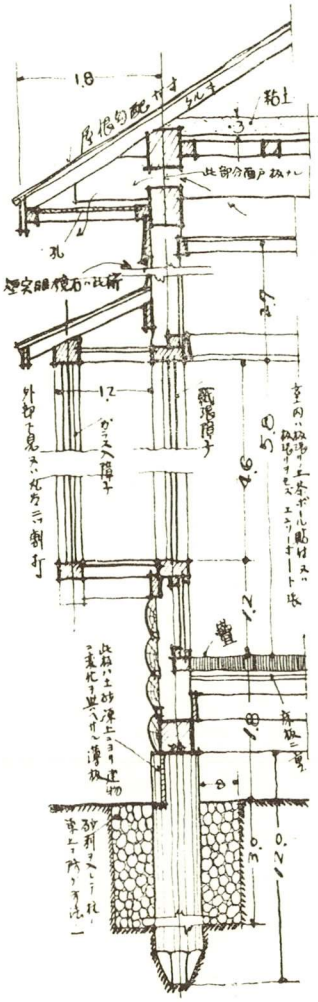
これを防止するには出來得る限り早く雪を落し室内の溫度を小屋裏内に逸散するを防ぐこと必要で尙ほ逸散するものとせば軒先に軒天井を張り敷及軒桁の間の面戸板を設けず軒先まで均等に熱を傳へ軒先は特に表面滑かな材料にて葺き上げるも方法であらう。

又軒先だけ勾配を急に折り曲げて造ることを最も良方法であるが此時雪の落下する時外部の羽目及窓に當り破壊起をすことがあるから注意せざればならない。

其の他家の方向に依り南面は最も早く日光の直射で融解し、北面は常に積雪ありて小屋組に受くる荷重が不均等になり時には室内溫度に依り一時に落下して動力を受ける場合もあるから此點も充分考へに入れて、おかねばならないことである出來得るならば小屋組の『メンバー』を變へておく必要あると思ふのである。

次に壁に就て見るに屋根より落下せる氷塊一時に落下して積重なり壁及柱に擴壓力加わり灣曲して建具を破壊し、融水室内に浸入し、時には横壓力の爲めに柱の挫折を見ることもある、窓上の霧除け軒樋雨押へは年中修理を要する位である

▲凍寒の設備　凍害及雪害のことども



立てが最も良い方法であるか木材の經濟的使用上から眞壁に内外板張りが多く内部は板張りの上に紙を貼つてゐる一部分に板張りの代用として『エンソーボード』を貼つてゐるが本年の冬を越へざれば其の眞價は見とめられない、外部の板張りの代りに丸太の二ツ割を張つてゐるのもある。

他一般的防寒設備に就て現今當地方に於て施せることの二三を書いて見たいと思ふのである。

これ等の方法は木造建築のことで施工もなし易き簡單なる普通の方法で新しい設備でもないことを斷つておきたい。

室内と室外とを完全に遮斷し室内の溫度の逸散を防ぐことに色々の方法を用ひられてゐる、外壁に就て見るに丸太の組窓、出入口は何れも二重たることを必要とし出入口には特に直接出入を許さない、風よけを設け圖の如く出入をするのである、これは雪除けにもなり如何なる家と雖もこれを付けてゐるのである。

二重窓は窓と窓との間の空間を造り普通はガラヌ障子の出窓で内部は紙張障子に造つてゐる、同じ建具の内外に『ガラス』を入れたものは効力薄く、冬は始ど窓を

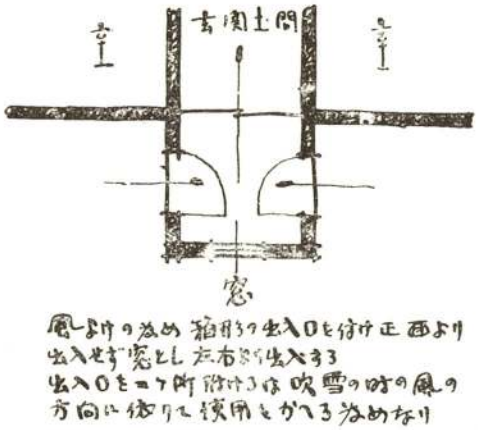
開く必要がないから必要以外は設けないのである。然し換氣孔は必ず設けねばならない。

家の間取りは内地住宅の如き開放的と多くの室を取ること禁物である。

窓の『パラ』は木製でなければならないと窓出入口の鐵物は眞鍮製で造ることは當然のことで、天井は普通天井の他に土を載せた天井を造るか塗天井でなければならない、床は二重で床束は凍結線以下相當の深さまで堀り下げねばならないことは前述の通りである屋根は簡易にして故障の少いのは柾葺であるが、防火上危險であるから柾葺の上に亞鈴引鐵板を張つてゐる然し鐵板は内部に露を持ち凍結して温度の差ある毎に氷解することゝ凍結の時音響を立てる爲め不愉快なものである、現今寒國に於て屋根材料の完全なるものなき爲め藥掛瓦や銅板を用ひてゐるが一一長短あり比較的簡易にして良きものは便利瓦であると思ふこれ等のことは木造建築に就てのことである寒國に於ける理想的建築は鐵筋コンクリートに依らねばならない木材の山なす所に於いて鐵筋コンクリート建築も不便でないのである。

五　敷香附近の事

日本領土の最北端の町北緯四十九度三分濶流の幌内川の多來加灣に流入する三角洲で最も樺太氣分の濃い土地である雄大なる幌内川は源サガレン洲で國境の連



山凄く暗くそびへ夏尚ほ寒き所である、南樺太の發展に伴ひ土人は北へ北へと走り、今は幌内川の流域に點在して、わずかな人口を保つてゐる『オロッコ』又は『オロッチョン』『ギリヤトウ』サンダー』『キーリン』『アイヌ』の種族である。

『アイヌ』は北海道及南樺太の各地に住居して牧場に雇われ或いは驛遞番等をして働いてゐるが他の種族は皆幌内川に集中して天然の食料を取つて遊んでゐるので年々人口は減り現今わずかな數を保つてゐる皆鮒を取つてこれを賣り(物物交換)煙草と酒を飲み暮すので小供と雛も女と雛も酒や煙草を飲むのである町へ出れば酒を飲み町家の入口に樺太犬と雜居して寢てゐるのを見ることもある。

常に幌内川に丸木舟を浮かべ交通し小さい小供と雛も自由にこれを操つてゐる所は面白いものである。

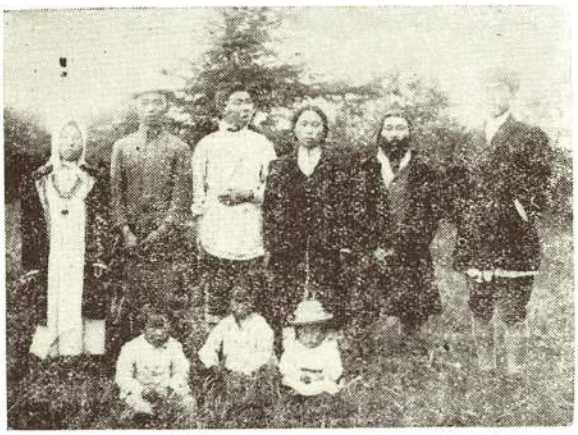
彼等の家は川に面した山中に細い丸太を以て造り木の皮や雜草を以つて覆ひ家の周りには干魚を吊し夏は家の入口で焚火をしてゐるのである、彼等は又同種族と雛も必ず住家を接近せしめず點在してゐることゝ傳統的共産主義の遵奉者であつて彼等の間には双互共産の事實が平氣で行はれ特に食糧品に於ては最もよく表わしてゐる。

内『ギーヤーク』種は支那の移住が皆辮髪を備へてゐるのである彼等の種族に用ふる狩の時の歌は面白いから附加しておきたい。

『オロッコ』及『ギリヤーク』の歌

ユートイラー　ユートイラー

ソルコルラー　ワカルラー
ユートイラー　コノンガヘーナ
ガヤカラガンナヘーナ
ユートイラー　ユートイラー
アポンカ　ソルコンター
ソルクーラー　ウンダイバンバシ



（香敷在）人クーヤリギ及コツロオ人土の太棒

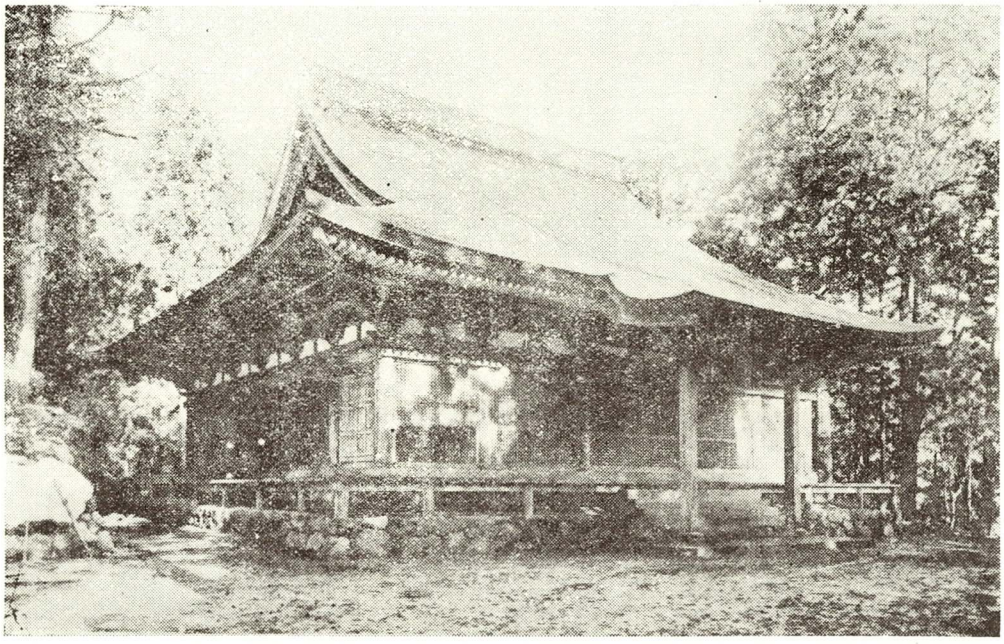
チヂブラー　ソルコンター
ワルコーラー
又熊祭に歌ふ『アイヌ』土人の歌は
ブルブルケー　オクドスケー
ゼンノタカソースベノソーヤ
アケノアカクネ　クネモスランケ
ホイサホイ〳〵〳〵
チユーカワ　カモイラン
イワノトユサ　ホレーサホイ
イワノトユサ　ホレーサホイ
ハーホンマンナー〳〵

何れも歌を歌ふ時に必ず踊が付いてゐるのは面白いことである、

土地の住民は木材の伐採と製材魚場の弛わずかな農業を營なんでゐる牧場もあるが大規模のものは少い野生の『トナカイ』は多くさん住んでゐる、それを取つて橇を引いてゐる　犬は實に多いこの毛皮を取つて賣るのである。

民族は露西亞人のそのまゝ利用してゐるが多く古い丸太を組立てゝ窓や出入口に『ペンキ』を塗つた跡のあるのを見ると昔を知るに充分である。

我が目から
人のあらめが
見ゆるとも
言はぬがひじき
法の友だち



古寺巡り

萬德寺と明通寺

宮飼克二

（一）萬德寺

寺は眞言宗であつて、福井縣遠敷郡遠敷村金屋の山麓の村より一段高い位置にある、建物は大して價値のあるものではない山を取込んだ前庭が仲々いゝ、特に躑躅が澤山にあつて、此地方では金屋の萬德寺と稱して躑躅の名所になつて居る。本堂に本尊の横に木造阿彌陀如來座像一體がある、大正二年九月に國寶の指定になつて居る高さ五尺餘りの大きなものであるが餘り傑作でもない、寺では奈良朝時代のものだと稱して居るが自分には一寸判じかねた。之は本尊でないから多分明治初年の廢佛の盛な時代に捨てられたものを此處へ移して安置したものに違ひない。

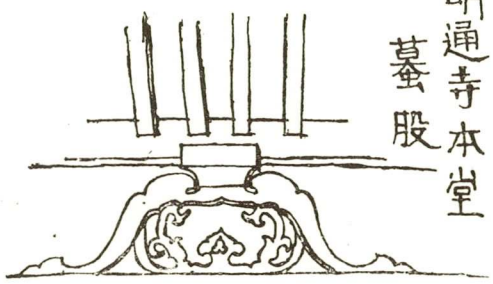
正午過ぎであつたので方丈で辨當を開く、丁度住職が出先から歸つて來て元氣のよい話をした、年はまだ四十代で附近の眞言宗での花形であるとか、集印帖に筆を振つて立派な◇形の判を押してくれた。午後一時半同寺を辭して山麓を辿つて國道に出る、少し東に進むとすぐ隣りの松永村に入り明通寺に向ふ。

（二）明通寺

等しく眞言宗で、福井縣遠敷郡松永村門前に在る國道より右に折れ松永村の谷を奥に入り、丁度神宮寺の一つ東の谷である此處にも北川の支流がある、こ

の谷の方が巾が狹い、川に沿ふて進んだが平凡な谷であり田舍道に餘程厭きが來たので　多少疲れも出て——國道から約三十丁は可成りに遠かつた。山の端を廻り、谷が一層狹まつて溪流となる處に門前の村落がある、村の小徑に入り之を辿つて行き盡きる處に杉の大木の一群がある數十の石段の上に樓門があつて森嚴な氣分が立ち込めて居る。遂に明通寺に來た、萬德寺から約一里半を丁度一時間で來た、この樓門は棧瓦葺入母屋造りで江戸時代のものである、阪を登つて又石段がある、周圍の杉木立は仲々深い、聞けば今春本堂の修築が出來たので監督事務所の建物もまだ阪の途中に殘つて居る石段を登り詰めるとすぐ本堂がある。

本堂（藥師堂）は桁行五間梁間六間單層屋根入母屋造りの柿葺で、垢抜けのした建物である、殊に最近修築が出來たので全てが整然として氣持ちがよい。正嘉二年の建立であるから鎌倉時代に屬すべきものである、が向拜だけは室町時代に附加したものらしく、之は殘されてある正面中央の柱間眞々十二尺、其次が十尺づゝ、兩端が八尺づゝとなり、柱割の具合も頗合にて感じがよい、奥行の方は六間とも柱間各八尺づゝである。正面五間だけに蟇股が用ひられてあるが、實に立派なもので近畿地方へ持出しても恥しくないものと信ずる、（挿圖參照）五個の蟇股の内で二個は新しくなつて居る。



本堂正面は全部蔀戸を嵌め一見すると寢殿造りの様な氣分がする、下の寺務所迄行くのが厄介だつたので遂に内部は見ずに終つた周圍に六尺巾の廻廊があるが、側面に於て奥行の丁度半分より奥が全部一段高く（約七八寸）なつて居るのは、透視圖的に奥を深く見せる爲か、又は單調な廻廊（高欄のない）に變化を付ける爲か、何れにしても設計者に深く考ふる處があつてしたものらしい。兎に角この本堂は全體によく纏つた嫌味のない傑作である事を御紹介して置く、明治三十四年三月に已に特建の指定になつて居る。

三重塔　は向つて本堂のすぐ左手の石段の上にある、方三間に棧瓦葺であるが元は柿葺であつたらしい、文永七年の建立であるから本堂より十二年遲れて出來て居る。屋根勾配は餘り急でなく落ち着いた鎌倉型の塔婆であるが、位置が少し高くて本堂前の空地より外に眺める處がなく、殆ど軒裏を見る樣になつて居り、且つ杉の木の爲に斜からも眺められないのは惜いものである、特に特徴としてとる程の細部は見出せなかつた。本堂の修理は出來たが塔の方はそのまゝ殘されて居るのは可愛想でならなかつた。

阪を下つて方丈に立寄る、七十に近い住職は色々の話をして下れた、本堂は已に藤原時代にあつたものが兵火にかゝつて燒かれ、鎌倉時代になつて現在のものが再建されたものであると。そして今回の修築に當り全て後世附加又は模樣替へされたる部分は、出來得る限り原形に復され、建物を解きにかゝりて昔の柱の位置が現れて、復舊設計圖に變動を生じ設計を訂正されたが向拜のみは時代は違ふが價値あるものとして殘されたらしい。而して修築には約五萬圓を要し、文部省

の補助は約三分之一、殘りは村の寄附や有名な三本杉と稱する山の大木を伐つてやつと費用を造つたのであると、仲々骨が折れたらしい。集印帖を出すと『本尊醫王善逝』『栂山明通寺』と立派な文字を書いて判を押して下れた、山號を聞けば普通の寺は三字なるも、本尊が正月に用ふる『ユヅリ葉』の木で造られてある爲めに之をとつて本山は特に栂山と二字になつて居ると說明された。此處の焚妻樣はまだ五十前後で住職よりはずつと若く元氣で愛想のよい人であつた、遠來の方だとて特に本堂修理前及後のエハガキ各一組づゝを奥より出して來て下れた、定價を聞いても非賣品ですから進呈しますと仲々如才なく應對された。同伴のT君は同寺に居る六十餘りの一人者の男衆（住職の御伴役）と例の調子で心易く話して居る、然し之は初對面ではなく最近迄雲濱村に居つた者らしい。

午後四時明通寺を辭して歸途につく、國道迄の三十丁餘りも歸りは案外早かつた、中途から近道をして國道に出で約十丁程東へ進んで五時頃新平野驛に出づ驛前で水を飲んで小憩の後五時四十幾分かの上り列車（此邊では西行の舞鶴方面行が上りとなつて居る）で次の小濱驛に下車、又約二十丁程テクツて小濱町外の雲濱村に歸り着いたのは午後六時半頃であつた。

此一日の徒歩里程五里に過ぎなかつたが、炎天烈日の下をテクツて可成りの强行軍であつた。然し乍ら他に目的があり樂みがある時は、暑さもサ程苦にならぬもので、人間と云ふ奴は勝手なものだとつく〴〵そう思つた。（終り）

我れ人をそしるにつけて人もまた
我をそしると筆れて心得



板硝子の今昔

磯田次郎

板硝子製造の沿革

板硝子の製造は其の濫觴を詳かにするを得ざるも遠く第一世紀の頃羅馬に於て溶解したる硝子を石上に流し板狀となしたること受上に見ゆ當時未だ窓戸に使用せらるゝに至らざりしが羅馬の文化がゼルマンハンス等の未開地に及ぶ頃より漸く其の端緒を見るに至れりといふ。

羅馬帝國滅亡後其技術歐羅巴諸國に傳播し漸次發達をなしたるも板硝子製造にて特に聲譽を擧けたるはボヘミヤとす、同地に於ては第十五世紀の頃硝子工場の設立漸く起り、十六世紀に入りて頗る隆盛の域に達し製造の技術に幾多の改善を重ねて遂に無色となすを得、其の透明は愈々加はりて價格は却つて低廉となれり此の製造方法たるや圓筒狀の硝子を截斷して延長し、之を裁ちて方板を得るものなり

我國に於ては文武天皇の大寶年間典鑄司を設けて玻璃を作らしめたることあり降つて聖武天皇天平年中支那との交通頻繁を極むるに至り其製法を傳習したりしが後時を經ると共に絶滅せり。

織豊時代より德川時代に及び南蠻人の往來ありて硝子製造の技を傳へしが當時邦人之れを南蠻法と稱し製造せりといふ、明治九年には政府が外人ウォルト氏を招き、フルント硝子の製造をなせるも窓硝子として成功せるは明治四十一年富豪岩崎氏により兵庫縣尼ヶ崎に旭硝子株式會社の設立を見たるに始まる。

手吹製造法

窓硝子の製造方法は手吹と機械吹との二種にして両者相異なる點は硝子の圓筒吹擴けをなすに際し全然體力を以てするか或は壓搾空氣と機械動力とを併用するかにあり而して圓筒吹擴げ後の製造工程に於ては二者共に異なることなく一旦吹擴げたる圓筒を適宜に輪切となし、之に切目を劃し再び加熱室に竪りて平面に展べ擴け然る後之を燒戻窯に入れ茲に始めて窓硝子の形狀に仕上ぐるものなり。

手吹窓硝子製造は最も困難なる作業にして本邦に於ては數年前白耳義より多數の熟練職工を招傭し、多大の犧牲を拂ひたるも遂に不成功に終りたる過去を有す、之れ本邦職工中多くは斯業に適する素質を有せざるに起因す。

然れども歐米に於ても今尚往々手吹工場の存在し、手工獨特の妙技を振ひ、猶餘喘を保ちつ

ゝあるの狀態にあるを以て以下該製造の順序を略記すべし。

最初手頃の鐵管の一端に窯より數回に渉り熔融せる硝子を捲き取り時々窯中に挿入加熱して生する種硝子の人頭大に至るに及び之を床下の切込み空所に於て左右に打振りつゝ漸次に吹擴げをなし、圓筒に仕上ぐるものにして、直徑八吋長六呎許を以て最大の製産力とす、而して最初の捲取りより數人一組となり細心なる注意の下に甚大の精力を注ぎ辛うじて比較的肉廻りの等しき硝子圓筒と爲すことを得るものなれば居常一定の能率を維持する事頗る困難にして硝子職工中稀有の體力と卓越せる技巧とを有するにあらざれば能く爲す所に非ず、而も職工は數年本業に從事して忽ち廢退するを常とす、之れ畢竟本業に於ては人體が常に攝氏千二百度の（硝子の熔融點は攝氏千百度なり）白熱を去る僅々數尺の場所に在りて脆弱なる呼吸器管を唯一の利器として上記の圓筒狀硝子重量三貫目に餘る熔解硝子を取扱ふの過勞に堪へざるによる。之を今日進歩せる科學的工業組織の各方面に比較する時は月鼈の感なくんばあらず

機械吹製造方法

手吹圓筒製造法は上述の如く頗る幼稚なるものにして熟練職工を養成する事甚だ難く能力僅少にして需給相伴はざるを以て勢之が改善方法の研究生産增加の兩見地よりして遂に此の手吹代用の（シリンダーマシン）製造法の完成を見るに至れり、今先づ此の手吹代用の（シリンダーマシン）に依る製造方法を敍述せむに

第一部吹作業

先づ熔解硝子を熔解爐より採取し之を加熱裝置を有する「ポット」と稱する硝子溜中に收容し硝子が再び適當なる温度に加熱せられて引上げに適するに至り上部より釣下げられたる『ベート』と稱する取上蓋を硝子に接觸せしめ硝子の之に凝結するに及びベートの中央に壓搾空氣管を繋ぎ蓋の中央上部より少しづゝ送風し同時に蓋を上部に釣り上げ硝子溜中の硝子をして之に附隨せしめ圓筒中の空氣と大氣の差を等しからしめつゝベートを漸次昂騰せしめ圓形の硝子障壁をして等しき厚味となさしむるものとす、此間圓筒面積の全部の厚みを等しからしむることゝ硝子の內外面をして無傷善良ならしむるには一は空氣の量と性質に依頼し他は之を司る職工の技巧に俟たざるべからず、而して機械吹による硝子圓筒は直徑に於て手吹の約三倍延長に於ては五倍即ち直經廿四吋長三十呎を以て最大限とす

第二部切斷作業

斯くして吹き上げたる大硝子圓筒柱は下はポットの關係を切斷し上はベートとの關係を切斷して之を橫臥せしめ切斷枠上に安置せしむるものとす、而して電線を圓筒の周圍に圍繞せしめ電氣加熱より局部の燒付龜裂を生ぜしめ加ふるに熟練職工が木片を以て局面に破目を生ぜしむるに至り始めて長さ三四尺の小圓筒に切放つものとす。

第三部切展き作業

輪切りとなしたる小圓筒を別室の電燈透視裝置を有する枠の上に安置し品質の良否を點檢し最も傷多き點を選びて一線の燒付け切斷線を入れ圓筒をして平板に展開せらるゝ樣加工し次に之を延窯に移送す斯の如く數回轉回移送する間には薄き硝子圓筒の取扱なれば至大の注意を拂ふと雖も尙且幾多の破損を生するは免れざる所なり。

第四部延作業

前面窯中に曲線狀の硝子の見ゆるは前記切斷場より轉送し耐火石板上に置きたる圓筒の一部にして漸次熱の爲めに硝子が柔くなり、今や遺倒せんとする時木製(楊)の道具にて巧に之を押し擴げ扁平に延すものなり延べ終りたるものは此室に連結せる燒戻窯に送り込み而して後一定の時間を經て取り出され茲に初めて窓硝子を生ずるものなり。

自働連續板狀伸延製造法

茲に述んとする製造法は前揭圓筒式製造法が人工より機械工に改良せられ漸く完成の域に達せんとする時に當り米國人コールボーン氏に依り發明せられ過去二十年間具さに辛酸を嘗め實に二百餘萬弗の研究費を投じて成功したる所謂コールボーン式製造方法是なり本製造法は同氏畢生の努力と米國に於ける硝子王リビー氏の後援によりて米國トレド市に呱々の聲を擧げ西曆千九百十六年初めテリビーオウエンスシートグラス會社の設立を見るに至れり、同社は資本金六百萬弗全額拂込を以て工場をチャーレストン市に設け翌年(一九一七)同工場の完成を見年產額九拾萬函の能力を發揮し因循姑息の感ありし從來の板硝子製造界を風靡革新せり。

次で千九百二十年に至り其の設備を倍加し年產百八拾函萬を出し全米需要の約半數を充すに至り更に進みて千九百廿四年度中には再び之を二倍加するの擴張計畫あるに及ては其偉力實に驚嘆に値す可し、而して茲に特に注目す可きは同社製品の如何に品質優越なるかの點にあり、彼の地の如く品別等級の嚴重なる斯界に於て斯く成功せる所以は實に本製造法の品質本位にあるが故なり、我國に於ては大正七年日米板硝子株式會社が該特許權を買收獲得して本邦及屬領地に於て確實に之を保有し、我日本に於ける唯一のコールボーン式板硝子製造會社となれり。

今其製造工程を左に略述せんに先づ硝子を連續窯にて熔解し續て精製槽に入れ生地を調整し更に整理槽を通じ機械の內部に裝置せるポット中に流入せしむるものとす、而して精製瓦斯により適當に加熱せられたるポット中の硝子は約三尺軟狀の儘垂直に引上げられ方向轉換ロールに乘り垂平の狀態に變じ茲に於て硝子の硬化縮少を制禦する諸機械の構造により一定の巾と一定の厚みとの儘延長二百餘尺の冷却室中に裝置しある平面に配列せる耐火性ロール臺上を進行し約四十分を經て末端に裝置したる輪轉引出臺上に現はるゝを以て切手は任意に之が切斷を爲し所要寸法の製品を得るものとす。

この製造法によれば爐中熔解したる流動狀硝子を機械により板に成形し冷却窯を通過せしめ完全なる製品となすものにして此間全部外氣を遮斷したる機構內にて製造するものなるを以て凡そ硝子製造中最も必要なる其の製造工程中硝子をして適當なる熱度を保たしめ硬化作用を完全ならしむる點に付きては蓋し其の比類を見ず。

この製造法の特徵及經濟的價値左の如し

一、硝子を本爐より連續的に具つ人工を用ひずして採取するものなれば熱度の急變より生ずる品質の變化を絶對に防止し此間に於ける工賃及加熱費賃を省略することを得

二、少しも人工を要せず同一の工程を以て一粍以上十粍迄の板硝子を任意に製造し得

三、本機を以て縞硝子をも簡易に製造し得

四、巾六十四吋にして長さ無限の硝子

板を連續製出す

五、製品は反なく嚴格なる平面なり

六、一定量の硝子を正確なる機械の標準にて製出するを以て厚さは絶對に整等なり

窓硝子と製品

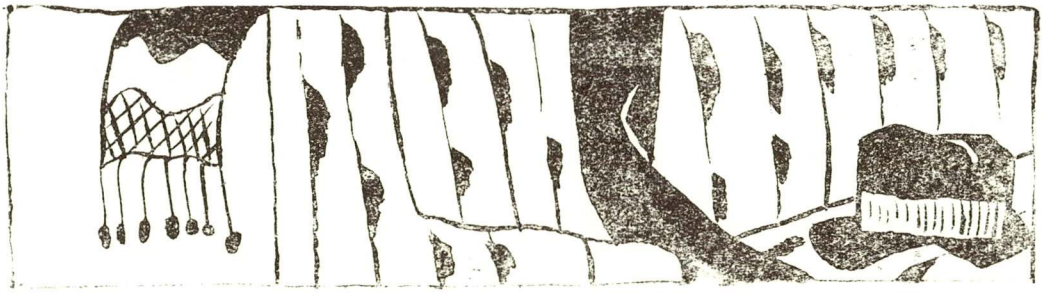
この製法に依る板硝子は厚さ六厘内外の並板硝子（十六オンス……一平方呎の重量十六オンス）より正二分厚（四十四オンス）の特厚硝子に及び厚薄各種の板硝子を製造することを得、其内窓硝子としての最適品は正一分の厚みを有する二十四オンス品なり。

正一分厚板硝子の窓硝子として最適品たる所以は並板硝子に比し破壊強度の相違にあるものにして一例を擧ぐれば正一分に於ては『ゴムボール』が打當りしとき肘を以て衝きし時等にも殆んど破損の虞れなく即耐久的なるを以て修繕の要なき點にあり。

由來本邦に於ける窓硝子は總て前記並板硝子のみに限られたりき之れ一は並板硝子以上の厚板硝子は總て輸入に俟たざるべからずして從て高價なりしと一は一般に厚板硝子の用途又効果に付て知悉せられざりし事に起因せしが最近日米板硝子會社が前記コールポーン式板硝子製造法を齎し本邦板硝子工業界に一新紀元を劃し優良堅牢なる窓硝子を低廉に市場に提供するに及びて漸く内外の注目を引き高級ビルデイング諸學校、工場・病院等の需要激增し、從來並板硝子を使用して破損修理に煩累せられたる方面より旺なる賞讃を博しつゝあり。

後の世と聞けば遠きに似たれども

知らずや今日も其の日なるらん



太陽の村に就いて

安野二位夢

強いて現代の生活の相の全てを否定しなくとも、現代に於いて、私達がその生活を充分私達の理想と希畫とに近いものにまで近づけてゆかうとするのは、容易なわざではないらしく思はれます。近代社會相の色んな意味での複雜化は、廣い意味に於いて、私達を或る程度までは樂しませてくれるものではありますが、時として、その樂しさの裡で、私達は多くの不滿や失意に遭遇して、豫想外に手酷い痛手を受けます。交通上の發達や産業上の隆盛は、言ふまでもなく私達に相當の利便と愉樂とを與へてくれます。生活の雜々相が單調から複雜へ、單一から全般へ進化してゆくことは樂しみです。文化上の全らゆるよき施設が、日前で深く廣くなつてゆきつゝあるのは喜びです。而も私達はその樂みや喜び等の裡に不快や哀しみ等を見付けなければならなくされて、ともすればその生活の意氣を無下に殺がれやうとします。私達の生活を支持してゐる諸種の社會的要素が不斷に推移し變轉してゆく可能性を有つてゐる以上、かうした狀態も一應は止むを得ないとも考へられますが、一言で言へば生活の相が全て必要以上に繁雜喧噪であるからです。こゝに書かうとする太陽の村とは、かうした利便ではあるが、不滿の多い、喜びや樂しみはあり乍ら不快や哀しさを感じないではをれないやうな生活を、今少し住よくしたいとの單純な希望から、現に或る少數の人々に依つて考へられつゝあるものです。

かつてエヂプトに太陽の町を意味するヘリオポリスと言ふ町があつたことや、其他の各地にこれと類似の村や町のあつたことや、我邦にも新しき村や、或は大地を信ずる村など、其の他これに類した或る種の田園都市風の所謂理想村乃至文化村を知らぬのではありませんが、この村は、新しく太陽の村と呼ばれやうとしてゐるのです。この村が正しい意味に於いて、神と人とに愛される村である限り、新しい村とか正義の村とか呼ばれるのはあまり妥當でないらしく思はれます。新しいとか舊いとかの問題ではなく、眞實に人間らしい生活を理解と愛とを互に有ちあつた兄弟姉妹が、信仰を俱にして、世界を潔く敬虔ましく生きてゆかうと言ふのですから、名稱などはどうでもいゝのですが、明るい村であるとの理由から假りに太陽の村と名付けられてゐるのです。

太陽の村は一種のユウトピアです、私達の有つてゐる一切の希望を能きるだけこゝで實現さ

せてみたいとの意氣込みを有つてゐるのですが、同時にこの村は地上に宿された神の邦であつて神の主宰の村であり、神に一切を捧げ盡された村であるでせう、從つて、神と倶に歩かうとの希ひを有つた者神にあつて兄弟姉妹とならうとの望みを有つ者は、誰でも難しい條件なくしてその村の人となることが能きるでせう

土地は、能きれば南方の暖く天候よき地方で同時に靜かな海邊であるとその背後になだらかな、丘をひかえてゐることが望ましいとされてゐます。能きれば瀬戸内海に面した海邊か或はどこかの島であればとの希望もあります。他の村或は他の町からは少々遠くてもよく、他の村や町との交通は馬車でされる豫定です。

家の小さい二部室位の家から十個位の部屋のある十人家族の爲の家までゝ全部で百個もあればいいとされてゐます。家は木造の簡單なのでよく、窓の大きく庭の廣い、一見して快く明るい感じを有つたもので、花園や生籬や木立等で美しく裝ひます。近頃考へられ初めては來ましたが、或る村落が漸次發達して一箇の大きい町となる時今まであつた一見無駄らしくも見えた充分な空地や畑地や廣場等を新造の家屋で意地ぎたなく塞いでしまふことはよくありませぬ。家屋と家屋との間には相當な空地がいつの場合にもほしいものです。一見無駄らしく見えてゐる空地がどんなに村落にとつては重要な役目を有つてゐるかを、今少し考慮に入れる方がいゝと思はれます。馬車の通るだけの廣い道路や清冽な泉を背後の丘から引くための水道、或は小規模の發電所等の必要な設備をなるべく簡單にうるさくなく配置します。

村では鷄や山羊や密蜂等の有用な動物が飼はれます。畑からは野菜類の一切や花がとられます。村でゝきないものは仕方がありませんし又それが賢い方法でもありますから、附近の町や村から供給をあほぎます。場合に依つては如何なる粗食にも滿足能きる信仰は皆が有つてはゐますが、適度の營養にも缺かないやうにします。ピイナツト、バヽの製造等もします。其他のいゝと考へられた仕事は與へられた時與へられた力一杯にする豫定です。

村には村公立の藝術圖書館等が建てられるでせう。この種の圖書館は未だ我邦にはないやうですが、例へば基督敎圖書館は日本にもすでに存在していゝ時期に來てゐます。村が多分第一着にその仕事を初めることになるでせう。都合よければ氣特のいゝ美術館も建つ筈です。愛する天才達の色んな作品を朝夕に自分の周圍に有つことは他の愉快にまさつて喜ばしいものです。病院としての完全なサナトリアムも建てる豫定です。外國は今少時論外としましても、日本には未だ世界に誇り得る程完全な設備をもつた大規模のサナトリアムがないやうです。其他、倶に安息日に集つて神に祈る場所としての明るきホオルが建てられます。このホオルは又時としてベエトオヴエンを聽いたりストリンドベルヒを見たりする藝術の場所ともなります。村は又一箇の印刷機を有ちます。宗敎や藝術に關し、或は諸種の文化に關して優れたパンフレットやシリイブ等を村から出すためにです。かくすれば直接に讀者に印刷物を送ることが能きて、多分現在市價の三分の一以下でよき書物が世界一杯になりませう。村には、其他、他の村や町へ主として食料品を得にゆくための馬車と、或る一定の時期に有志の者で組成される傳道隊のための二三十噸ばかりの小汽船を海邊に

つないでをきます。在來の墮落した職業的傳道ではなく、かつてパウロがしたやうな正しい意味での傳道によつて、イエスの福音を傳へたいと希ひ傳へなければ靜まつてをれない激しい促迫を感じてゐるのです。一同は汽船で近海岸の人々に親しい交渉を求めて歩きます。思ふに、瀨戸内海沿岸はイエスの福音の宣べ傳へらるべき最良の土地です。一同は充分日本の土地を愛してゐます、日本の土地が先づ神に依つて淸められたる土地とならなければならないとは一同の希望です。太陽の村は淸められたる土地の先驅とならなければなりませぬ。

太陽の村は第一に愛と自由との村であつて、そこでは、何人にも愛のうちになごやかに神にあつて自由に充分樂しんで明るく美しい生活することが宥されるのでありませう。そこには命令する人も命令される人も一人だつて住まず、魂の奴隷といふ卑しい言葉は此村から忘れ去られるのでありませう。一同は自ら必ず爲すべきことを必ず遂行し、決して爲すべからざることを決してなさないでありませう。銘々が自分が爲なければならないことは必ず自ら遂行し自分でなければならない仕事は必ず自分でし、其他のことは、又他兄弟姉妹だちに充分安心してまかせると言ふことを實際に行ふなら、この世界は今少し美しく住みよい世界となつてゐさうに思はれます。愛と信仰とを有つて、銘々がお互を痛め合はず虐げ合はないで生きて往うとさへ希へば、この世の中はそんなに失望しなければならない、程いけない處でもないらしく思はれます。この世の中はこのまゝ天國でもありますまいが、このまゝ地獄でもありますまいかなり多くの人々が、この世界に香り高い愛の花を咲かせ樂しんで去つて逝つたのです。伸びるだけ伸ばさうとさへ希へば、萎んでゐると見える愛の花は必ず生々と輝き初めるでせう。私達に委ねられた生活と言ふものは、唯空しく太陽の下に曝らして、それだけで効用のなくなる程無價値なものではありますまい。生活の目標はも少し高い所にありさうに思へます。

太陽の村に於ける勞働は、必ず銘々の自由意志に依つてされます。勞働は重たい義務である前に惠まれたる權利であつて、同時に自由と同意義での義務責任です。言はゞ權利と言ひ義務と言ふのも一種の利便上の言葉であつて、實際に於いては、勞働は權利や義務と言ふ言葉の有つ意義を遙かに高く越えた、もつと生得的必至的なものである筈です。人間が生活してゐる以上、必ず分に相當した勞働をしなければならないのは當然です。勞働とは生活と言ふことです。で、太陽の村に於いては、單に人のためにではなく勿論自分自身のためにでもなく、先づ、神のために、そして、同時に人のために又自身のために正しく健やかに生長することの能きる生活をすることになりませう。勿論、男子には男子の仕事があり、婦人には婦人の仕事がありませう。彼には彼の本分があり、自身には自身の天職がありませう。一同は愛と理解とをもつて、銘々の仕事の成就完成を祈り、その喜びを俱にし、又その嘆きを一つにするでありませう。尙その上、一同は俱にその勞働を樂しむと同じ程度で、お互の信仰を、藝術を樂しみ合ふでありませう。ひいては、曾ての正しく良き藝術を尊重するだけではなく、これから芽生に生れ出やうとする藝術をも、尊重し愛撫し合ふでありませう。從つて、各人の個性は各々思ひのまゝに健やかなる生長と開展

とを遂げるでありませう。

美しい蒼空、爽やかな陽の光、地には可愛いゝ草の花と、輝やかしい藝術と人生はそれを愼ましく樂しむ者にとつては決して呪ふべき埃芥のみの世界ではないでありませう。思へば、私達が親子同朋夫妻友達等互に相ひき相信じ合ふことの能きるだけでも、人生は住んでみて決して損をする處ではありませぬ。見方に依つては、この世は確に裏切り者と欺瞞者とで溢れた呪ふべき世界です。失意と絶望、哀傷と悲嘆とよりないやりきれない世界です。神を求め求めて遂に惡魔にしか出遭はなかつたと言ふ呪咀を誰もが有たざるを得ない樣な世界です。而も光は確に塵土の中にも輝いてゐるのです。愛をこの世のものではないと誰が否定し得ませう。人に失望して眞實を見失つてはなりませぬ。人生の深い底を見極めないで目先きの虛僞と欺瞞とに所を得させてはなりませぬ。太陽の村はこの眞實の光を信じ、愛を自ら深く味ひつゝ、極めて樂しく、極めて和いで、この世界を美しく生きてゆかうとの希ひを有つ者の集りです。純潔と、敬虔と、眞摯と、明快と之等のものは期せずしてそこに求められやうと思はれます。眠つた生活ではなく、火のやうに燃えた生活が、眞の人間らしい意氣と情熱と有つた生活が、こゝに始められやうと思はれませう。最後まで正しきに、立ちつくして、福の神を建てることも能き得ると信じられます。日は日々に必ず新しいのです。今日は昨日ではありませぬ。今日の自身は昨日の自身よりもヨリ良き者であらねばなりませぬ。過去の下らない迷妄と自慰とを棄て、新しい光に近く歩まなければなりませぬ。光は常に前方にあります。今日を今日として正しく力強く生き抜かなければなりませぬ。

太陽の村の具體的な計畫は未だまだ多くは未來に殘されてをります。希望ももつともつと燃え高められる必要もあります。創成の難さは今から充分豫測されてゐます。五年先きか、十年先きか、或は百年も先きのことにならないとも保證能きませぬ。その希望が高ければ高いだけその計畫が大きければ大きいだけ、色んな準備が要るわけです。その銘々の住宅にしても家さへあればそれでいゝと言ふわけにはゆきませぬ。住宅の問題一つが現代に於いては、並々ならぬ大きな社會的の問題です。この村は一箇の田園住宅區となるものですから、小さい田園都市としての種々な考案もされ得ると思ひます。サナトリアムの問題にしても、醫學上からも種々な眞面目な研究がされなければならぬと思はれます。サナトリアム運動は確に一つの重大な文化運動です。藝術圖書館等の建設も文化事業中の極めて重要なものである樣に思はれます。一切は日本の文化に充分の光輝を添えるやうに設備され考案される必要があります。全ては日本人である私達の誇りのため、ひいては人間である私達銘々の誇りのため、極めて深重に取扱はれなければなりませぬ。文化に背後を見せ、光に叛いて人間は樂しく生きることは斷じて能きませぬ。人間は誰でも、銘々、愛し又愛されたく理解し又理解されたく希つて生きてゐるに違ひありませぬ。この世がヨリ美しくなり、ヨリ住みよくなることに反對しやうとする人間は何處にもゐない筈です。一同がヨリ良き生活へと焦心してゐることは確な事實です。從つて、かうした希望を一同が有つてゐる限り、太陽の村の高遠な理想も、單なる實現し得られざる紙上の妄想ではないと信じられます。一切は未知數ではありますが、その可能性は充分覗はれてゐます。將來を信じて樂んで待ちたいものだと思ひます。

時事

◎耐震家屋が三千圓

東京生活改善同盟では昨年の震災によつて日本家屋が何等耐震設備のない建築法であるに氣づきこれが改善を圖る爲に倒潰家屋について種々その調査を重ねて居たがこの程其の調査を基として工科大學の考案になる耐震家屋模型を作りお茶ノ水博物館に陳列し一般人の參考にする事にした、建築費はまづ中流階級を標準としての三千圓までのもので、平家二階建の色々な種類が出來てゐるが注意を要する點は第一、地形を堅固にする事として地下二尺餘をコンクリートで固め、その上に久煉瓦かコンクリートにボールトを通したものを土臺としてボールトの先は上に建てた材木に通りまづ土臺と建築材を結束せしめて如何なる上下動にも離れぬ樣にし、ボールト、帶金は柱にも用ひて、從來の組合せ式の穴の爲に如何に多くの倒潰家屋を出したかを實物にて示しこの他各要所要所に補強材として用ひてある、梁の落ちるのを防ぐ爲には屋根裏床に繰梁をおき、左右動には各所の壁に木針金を對角線に張つて對し屋根を輕く、瓦は滑りおちぬ樣に、釘、針金でとめ、その他耐震家屋として種種とうなづかれる點が多い。

◎新議院の偉容

總工費二千萬圓の大がゝりな議院建築は臨時建設局で目下工事を急いでゐるが既に本年度の工事は完成の域に達し兩院の兩翼の鐵骨の組立ても終りこれで周圍の柱建が全部終つたわけである、この議院の鐵骨は全部內國製で製作したものである、中央の御便殿の鐵骨はまだ出來上らず來年度まわしになつてゐるが來年は御便殿の鐵骨組立てと石張工事にかゝり十七年には中央の二百二十尺のタワーが立ち大建築の外廓が出來あがつて雄大な姿を見せる事になり廿二年に完全に落成する事になつてゐる、なほ現在の議院の復舊工事も行政整理の餘波で豫算をきりつめられたが屋根のふきかえや內部の壁紙の張り替へ壁の塗なほしもすんで今は來る議會開會を待つてゐる、議場から新議院の鐵骨をあほぐ議員は定めて本建築の完成の日の遲いのをかこつ事であらう。

◎煖房による毒瓦斯

先づ日本では室を暖めやうと致しますとき、木炭を焚きます、火鉢、それと爐でありますこの火鉢、爐——木炭を焚くと云ふ事が有害であるか何うか、それを考へて見たい、そしてそれの人體に及ぼす影響を考へて見たい、いつたい木炭はたんそから出來上つたものでありますが故に、それを焚きますと酸化物が出ます炭酸瓦斯とイツサンカ炭素です。炭酸瓦斯を普通一般には毒——有害なものと考へられて居りますがこれはちつとも有害なものではありません、若し有害でありましたならサイダーなどに含まれて居ります炭酸瓦斯。それを考へて見ますと、炭酸瓦斯が些しも有害なものとは考へられなくなりますが、しかし、こいつが貯ると困る事になります。空氣の中には、普通〇、〇三%あるのでありますが、人が多勢集まりそこの空氣が少しも他の清淨な空氣と入れ換らない場合、肺の中から出たこの炭酸瓦斯は忽ちにしてそこの空氣の中に四%も充滿します。それに近づくと害になります。いつたい空氣の中に二、五%乃至三% の酸炭瓦斯が貯ると肺臟が弱りますが、日本の家屋における從來の室ではこの木炭を焚ても決して一%以上には炭酸瓦斯及びイツサンカ炭素は貯らないのでありまして、それが人體に有害となる二、五%乃至三%などと云ふ夥しい毒素を空氣の中に貯める可く、日本從來の家屋は否室の構造が出來てゐないのでありますから、從つて日本在來の家屋の構造では室內に於てこの木炭を焚いても先づ害はないと見ていゝのであります。右の毒ガスが空氣中に六%となりますと窒息死です。その位になりますと勿論そこでは蠟燭の火が消えます毒ガスと申しましても、炭酸ガス以上に有害なのは彼のイツサンカ炭素でありまして、これが木炭を焚きますと夥しく出ます、そして、これが炭酸瓦斯よりも少量であつて人體に及ぼす惡影響は甚だしいのです。人體の結色色素に對してこのイツサンカ炭素は非常な毒性を持つてゐるものなのでありまして、空氣の中に〇、一%のイツサンカ炭素がありますともうそれは大變なのであります。それは凡ての細胞に對して毒であり別して神經系統の諸

器管に對しては痛烈な毒性をもつて居るものなのであります。これに中毒すると大變です。まるで腐るかたちになつてしまひます。そして血管がつぶれます。このイルサン力炭素に腦脊髓などやられますと大變です。そしてこの毒素はヒステリーを起さしめ神經衰弱を來さしめる恐るべき人體の敵であるのであります。これにやられて氣付き室を逃げ出さうとして扉のハンドルを握つたまゝ死んでゐたのがあります。毎年冬期になりますと必ず此の例が尠くない。

◎都計緩和規定

現在都市計畫施行都市の六大都市以外の市都市に對しては市街地建築物法の適用がないが最近各都市中の希望もあつて內務省都市計畫局は同法施行令並に施行規則中嚴格なる部分を除外して所謂緩和規定を適用するに決したが右に伴ふ施行令の改正は九日の閣議で左の如く決定し十日の官報にて公布せらるゝ筈である右改正の內容は施行令の末尾に

第三十一條　第四條乃至第六條の規定は市街地建築物法の適用せる區域にして內務大臣の指定せるものはこれを適用せず

との條文を追加したこれがため

一、建物の空地面積

二、建物の高さに關する規定

は全部除外された譯である尙右に關聯せる施行規則の改正は十一日の官報で公布される筈である

◎市編入の一影響

大阪市市域擴張に伴ふ西成東成兩郡編入からくる警察行政保安取締に影響する範圍につき府保安課では郡令改正は新發令の必要から目下該規則の立案中であるが十二日大體の方針がきまり直ちに條文の起草に着手する事になつた。差當り影響を受くる被取締業業の主なる關係業者を擧げると旅館、飮食業、紹介業、建築業、貸座敷業、湯屋業其他で旅館は建坪郡部に於ては五坪以上であつたが市に編入後は最低限度廿五坪となつて居るので旅館業者は非常な打擊を受ける譯である、飮食料理店業者と旅館業者の兼業は絕對に許されないので三百餘の當業者はそれ〴〵屆出の樣式を改め設備も改正せねばならぬ、飮食店、料理店業者は同樣改善を要する貸座敷業者も右同樣、建坪以上であつたのを編入後は十五坪以上とせねばならぬ、又紹介業者は同業組合だけでよかつたが今度は警察干涉にせねばならぬので同時に違反業者が多數現はれるであらう湯屋業者は郡部にありては隔離が百二十間以內であつたが市となりては間隔を百間と縮小せられる建築業者も市街地建築物法にもとづき嚴重なる取締を受ければならぬので、土木請負業者は大いに頭を働かされねばならぬ事になる、又飛田遊廓は市としての取締を受ける關係上各種の設備を變へねばならぬとになるのも云ふまでもない。

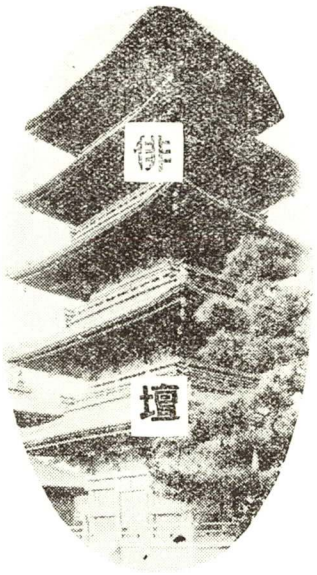
◎增加稅賦課法

都市計畫法第八條による土地增價稅の勅令案は目下法制局で審議中で不日閣議を經て公布する手筈であるが該勅令の公布實施と土地增價稅そのもの、施行との間には相當日時がある即ち都市計畫施行地並に關係町村（都市に併合さるべき周圍地）が都市計畫の費用支辨の御要上本稅を設くるには當然その議決機關を經て條例を定めた上勅令の規程に基き內務、大藏兩省の認可を得るを要する而して此條例の準則たる勅令案にあつては表面は間接增價稅及び直接增價稅を併設し得るやうな併組みであるが實際政府當局は間接增價稅を徹底せしめるといふ意向であることは明かで即ち賣買、相續（家督相續や遺產相續）又は贈與などによつて土地所有權の移轉を行つた場合には取得當時の原價額と讓渡移轉の際の價格との間に一定の値上がりがある時土地增價稅を課するもので土地所有の一定の期間を經過した場合に同樣の値上がりあつて課稅する直接課稅は適用だけに止めてその實施を差控へるその結果法人所有の土地にして殆ど移轉せず所有權の固定するものは終に土地增價稅を課する機會なく個人所有の土地又は移轉讓り渡の繰返さるゝ土地に比較して課稅上の不公平を生ずることゝなるは免れぬ、併し法人所有と雖も極めて長期間を經れば讓り渡その他の處分の必要も生ずべくその際はそれだけ大なる差增價格を一度に課稅せられ初めて如上の不公平は辛抱する外なしといふのが政府當局の眞意であると窺はれる、尙準則は相續稅と同じく土地增價稅にも五六年間分納或は延納を認め納稅者の苦痛緩和を圖つてあると

◎大阪驛改築

豫算七百萬圓の中十萬坪の土地や人家の立除料で約半分は賄かつて仕舞つた改築の順序として一期二期に分ち、第一期には五萬坪に新貨物驛を造り現在の貨物扱は全部その方へ移す事となる、また出入橋から水運の便に資する爲め二條の掘割（深さ二間幅四十間長さ百二三十間）を掘りその土壤は貨物驛敷地の地均しに用ゐられる約二年で完成して第二期工事に移る豫定であるが、

第一期工費は百萬圓で阪神工業會社が請負つてゐるまた第二期工事の中の旅客驛は八百尺四ツのホームを新設し高架式として旅客は地下道を通行することは現在の東京驛の如くであるが、地下道の幅がモット廣くなり白亞で疊んで非常に氣持のいゝものとなる、線路は急行線二線區間線二線、福知山線二線、城東線二線と全部收容される程彪大なものでホームだけは東京驛より遙かに大きいものとなる、また驛廳舍の設計は殆んど本省で設計して居る爲め難改良事務所では餘り關係しないが鐵筋コンクリート三階建々坪は三千坪位である樣式は判らないが近代式の特長を採つて大阪の大玄關として恥じざるものである



溪舟選

冬季雜題

物のけて餅搗く庭の廣さ哉　泉柳
大雪や靜まりかへる藪の家　神苑
老僕の鼻すゝり寄る火鉢かな　小春日や大和短燧に灘を引く　翠松
默々と手をかざしゐる火鉢哉　種女　小春日や野を遠く見る山孤つ　白蛾
句成らずしてもどかしき火鉢哉　月都　小春日の鐘搗いてみる寺遊び　遠雨樓
大雪や大佛の鐘に今日も暮れ　嶽南　さら〳〵と竹の葉にふる粉雪哉　蕭雨
窓暮れて笹の葉にきく粉雪哉　靜陸　搗きをへて取粉の顏を笑ひけり　黑舟
焚すてし榾消ずあり雪の道　雛山　蘆の雪舟のりすてゝ上りけり　杉子居
餅搗て夜や春めきし心なる　骨蕪　髮して出をまつ間や大火鉢　僧徹
湖を構ふ町や伊吹の雪颪し　奈良に來て小春の芝を步きけり　應石
餅搗や姉も戻りて賑やかに　餅搗の隣り焚火の普請哉　雄三
牛乳を配る吹雪の晨かな　片消えの雪盆栽棚の梅　藁灰を入るゝ大瀨戸火鉢かな
雪晴の松に日ざしや烏とぶ　大雪や二三家灯る岸の上　脇息や蒔繪火鉢に老となり
狐罠かけて下るや暮の雪　欄と落る古松の風や冬の月　餅搗湯氣高窓の晝の月
縫すゝむる火鉢の炭やはねに鳧　尺に餘る朱の古箸や河豚汁　怪力亂神を語るや河豚の友　吼獅子
岸雨の雪や枝川流れたり　此頃の膽取り沙汰や河豚汁　河豚汁高談四筵を驚かす　洞泉
落葉靜かに高塀にふるゝ小春哉　玉垣の雪や松杉の風に暮れ　逆まに古崖の松や冬の月　青花
酒酣けて炭忘られし火鉢かな　貼りかへて障子に安し小六月　冬の月門を出で野の眞つ平　魯堂
古妻の手にもまれたる小餅かな　蕪骨　洗場に轉がして來ぬ餅の臼　鳳來史
朱を入るゝ句稿炭つぐ火鉢かな　香坡
情話尙ほ盡ざる客の火鉢かな　越陵
積崩れの黃表紙や火鉢人無くて　蒙求子
京の雪灯しつらねて河岸の家　美哉
雪の使戻りてくるや濡手紙　選者
雪に傷む庭の新木を憂ひけり
雪晴れて障子に日射す南哉
爐の煮物雪の暮早く閉しけり
夜の雪掃きませて門さゝしけり
また雪かと話しゆく人窓の外
搗ついで隣の餅も搗てやる
又一人火鉢に寄りて五人かな
二人默つて本をよむ火鉢哉
大自在大鍋かけて河豚汁
雪に暗き窓や机に灯したり
濟さいでもよい借錢の事河豚汁
竹の雪山茶花の雪消えそむる
山雪に僧とめて酌み更しけり
のし板にべたと餅おいて生きてある
主古書の談盡ず古火鉢
山茶花に繪馬の繪乾く小春かな

句を募る

▲課題　『かるた』『春の山』（各五句、各題別紙に認むる事）
▲期日　一月十日限り
▲屆先　北區堂島濱堂ビル　日本建築協會

俳諧凡想

溪舟

1

俳句の旺んなる、恐らく俳諧なるものあつて以來、明治大正ほど興隆を極めた時代はないであらう、今現に國内に俳人と稱する者、俳句を作る者、果して幾千幾萬人あるかは知らないが、都鄙を通じて俳句專門の雜誌の發行されてゐるものが少くとも五十種、その他有ゆる新聞雜誌、その殆んどが一頁なり二頁なり、俳句に多少の紙面を割愛してゐないものがない、之を看ても、如何に俳句が現代の讀者——人々に喜ばれ迎へられてゐるかゞ分るであらう。

ところが、茲に一つこの俳句の作家の事について、明治大正時代がもつ或る奇妙な特點がある。それは何ういふ事かといふと、明治大正時代の俳句の作家は、その殆んどが青年——年の若々しい人達のみであるといふ事である。尤も中には中年を過ぎた人もないではないが、それは極めて移つて、やはり盛んに作句をして俳句會の本體となつてゐるのは年の若い人達である。

それが、明治中葉以前の俳諧の世界を顧りかへつてみると、その作家達はまづ大てい中年を過ぎた老人のみで、若い者と云つたら、遊蕩三昧に日を暮してゐた青年とか、若隱居同然の若旦那とかいふ類ひのものでやはり俳道に於る本體は老人達によつて形つくられてゐたものである。それが現在では、まるで反對の有樣となつてしまつた。

2

昔と今とでは、何うしてさう異ふのであるか？

一つは、俳句といふものに對する、昔と今の人の主觀がマルで異ふからである。

一つは、時代思潮に對する一種の反抗的現象である

昔の人は、正風俳諧の誨ふる「さび」「しをり」の意味を丸呑にした事と、社會の狀態から受けた感化誘導で俳諧を風流ごと、風雅ごとと解したから、それは世捨人や隱居の仕事になつたのであるが、現代になつてからは、現代の若い人達は、俳句のもつ精神は、「さび」だとか「しをり」だとか、風流風雅などいふそんな曖昧なものではなくて、これはやはり日本人の固有してゐる心持、日常生活の實際及その周圍を端的に詠嘆してゐるものであると觀るやうになつた。だから今の若い人達には、俳句といふものの何處を叩いてみたつて、風流風雅などいふ音がするものとは思づてもゐない。それは、俳句は彼等の心境には極めて眞面目な一個のパンであり握飯であつて決してオツな喰べ物でないからである。

5

しかし、俳句のもつ精神、氣分といふものは、決してハイカラアなピカピカしたものではない。食事に喩ふれば味噌汁に香の物、衣服に喩ふれば銘仙か木綿、器具に喩ふれば木地細工、決して新しい蛙の料理やお召や錦紗やニス塗りではなくて、平人俗人が必要とする常食常衣常具なのである。それは今の句を作る若い人達もよく知つてゐる。

ところが、現代の思想は、常に舊き殻を脫し通してゐる。去年の考へは必すしも今年のではない。今年のはまた來年更に捨てられるかもしれぬ。斯ういふ風に新々新を追ふ世の中に、彼等は常に一種の反抗をもつて立つのである。否な自分では反抗とは氣つかぬかもしれない。けれども、今の青年の中には、日本人固有の特性に親しみを感じてゐる者が意外に多い。彼等は現代の思潮に押流されながらも時々顧りかつてみてゐる。俳想はそこに生れるのである。今の彼等の句には恐らく退嬰保守の氣持のものは絕えて無いと云つてもよい。がしかし、ハイカラアにピカピカしたものもない。あれば句に成つてゐない。

4

私は、若い人達の句を見て感じる事は、その句の多分はまづ皆な活きてゐる事である。よし、辭は云ひ足らぬにしても、形が整はぬにしても、その足らぬ處にその整はぬ陰に、心持がよく働らいてゐる事が分つてゐる。ただ、足らぬが故に、整はぬが故に、これを完璧として採りかれるだけの事であるが、若い人達の句を見る度に、我々はいつでも胸を打たれ心持をゆすぶられる。

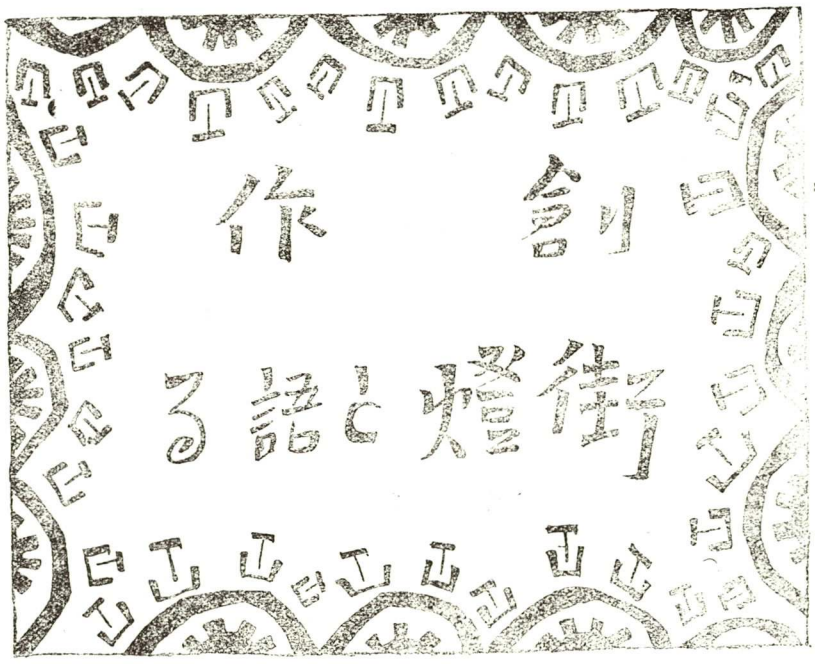
何うだ、老人、これでもか、これでもかと胸倉をとられるやうな氣持で、何か重い壓迫を感じる。我々は、若い人のよりも數に於て、辭のやゝ完き、形ちのやゝ整つた句を作る事が、必すしも劣つてゐるとは思つてゐない。けれども、若い人達のやうな息のあるやうな、湯氣の立つてゐるやうなものは、必然に企て及ばないものと思つてゐる。我々は實際、若い人達に啓かれ、誨へられ、導かれてゐると云つてよいのである

謙遜でも、自屈でもない、それが本當なのだから致方がない。

5

思ふに、我々は、炬燵に尻を突ッこでんねて、口小言ばかり云つてゐる爺ぢみたいなものである。偖上に人の句を選して、自分、一日の長があると心得てゐるのだが、實は、餘程おくれてゐるのである。さりとて今更ら炬燵を出て、尻引つ裏げて若い人達の跡を追つかけるといふ勇氣もない、全く以て厄介な話である。

批評眼のみ徒らに高くなつて、手之に及ばざる我らは、若き作家に對して慚死あるのみである。



別所悌一

夜が靜かに下りて來た。

明るい灯はすでに狹い部屋を暖くしてゐた。陽氣な聲をあげて相手を笑はせてゐる若い男があつた。默つてピイチパイを突き刺してゐる女連れの男があつた。私は二杯目の甘いココアを半分でをいて、いくらかを人造大理石の食卓へをくと誰にも氣づかれないやうにそつと急いで珈琲店を外へ出た。

私は酷く疲れてゐた。胸はあつかつた。輕い眩暈が氣持を幾分暗くしてゐた。脚は痛み初めてゐた。なんだか自分自身がむしやうに賴りなく哀しくて、まるで年若い不幸な亡命客のやうに微かにもの怖ぢし乍ら、佗しくやるせない氣分で私は街筋の片側を足早く歩いた。かうして七八丁も行けば私は人通りもない暗い大川端へ出る筈なのであつた。

極めて眞面目な氣持で、私は一刻も早く救はれたいと希つてゐた。私は自分自身一人であることが兎も角も怖しかつた。私は一途に行けるところまで行かうと志してゐた。この二日間といふもの、私は確に酷い病人だつたのである。

長い橋が仄暗い闇の中に伸びてゐた。向ふには二三の大きな建物が、灯も點けないで、高く夜空を指して、幅廣く物々しく靜まつてゐた。物音は自分の跫音だけだつた。空には青い光も見えなかつた。この邊は晝は騷がしい工場街だつたので、その一定の働きの時間さへ過ぎて夜に入つてしまへば、砂塵も落ち着き工場の廣い扉も閉つて、人一人通らうともしない程の底氣味悪い靜けさが守られてゐたのであつた。私はすでに約束の大川端の橋の袂へ來てゐたのである。

彼女の姿は、闇の中を猫のやうに覗つて見たけれど、未だその邊には見えなかつた。

私は數十歩動いて、橋の丁度中頃で立ち止つた。そこには、この長い橋に唯一箇の街燈が薄く點されてゐた。光は心持蒼く老人の目のやうに濡れてゐた。私は實にこの街燈の下で、昨夜不思議な機緣から彼女に初めて出遭ひ、今夜も彼女を待たうとしてゐたのであつた。

私は胸を冷たい欄干におしつけ、目を遠くへ投げて耳をすました。今更ららしく耳を傾けては見たけれど、靜かである彼女の跫音もせず、川は黑く油のやうに滑らかに動いてはゐたけれど、さゝやかな川波の音もしなかつた。灯が縫針の穴のやうな小さゝで、ずうつと向ふの空の下で冷たく明滅してゐた。星はどこまでも見えず、空には不氣嫌な雲が重く垂れてゐた。風は彼女を待つ夜にしては、私には少々冷た過ぎた。私の小心な胸だけは生命をもつて、あつく、あつく、燃えやうとしてゐた。

私は自分が瞞されたのではないと信じてゐた。時間は未だあまりにも早やすぎた。彼女が未だ約束の場所へ來てゐないことでは、彼女が私を詐つたのではないことは確かであつた。私こそ、自身を昨夜は詐つて彼女に考へさせたかも知れないのであつた。私は快活な青年のやうに昨夜は振舞つてゐた。私は實は一ケ月先きもわからない重い肺病人で、世を棄てたやうに陰鬱だつたのだ。私は何でも能きる男のやうに昨夜は裝つてゐた。私は誰からも棄てられて踏まれた藁のやうに、やくざで、物を考へることも能きない男なのであつた。そして、この私が、實に不當にも彼女を待たうとしてゐたのであつた。

彼女が來たのは私が行つたのよりも五分間も遲くはなかつた。彼女は跫音もたてなかつた。彼女は私のそばまで急いで近づいて來ると、鋭い愛想のない一瞥を私に呉れて、私が何か言はうと思つて言葉を探してゐるひまに、二尺ばかりも向ふに離れて、私と同じやうに欄干に胸を投げかけて默つて目を伏せてしまつた。

私は心持彼女の方に首を突き出し乍ら、再び何か言はうとした。彼女が自分に遭ふことを快く思つてゐないのかしらといふ懸念が、私を絶望の底へ突き落しさうであつた。私は彼女を見すえた。

『私はまつ蒼でしよ。』と、彼女が顔もあげないで私よりも先きに口を切つた。

『えゝ。』と、私は不意をうたれて口籠つた。私の聲は自分乍ら嫌やになる程濁つてゐた。私は一時に頰が暖くなるのをおぼえた。『あなたは御病氣なのですか。』

『死にさうなのです。』と、彼女ははつきりした聲で答へた。

『死んではいけません。』と、私は即座に彼女を制した。

彼女は直ぐには返辭をしないで、初めて目をあげて、私の目を凝乎と瞶めた。彼女の顔は草の葉のやうに蒼かつた。彼女は昨夜私が確に見覺えてをいた顔とまるで違つた、痩せて痛々しい頰をしてゐた。眉は心持嶮しく寄せられてあつた。私は怖れて意氣地なく目を伏せた。そして物を言はない苦しさから逃げたいために、何の深い考へもなく口籠つて言つた。

『あなたは何故そんな黑い着物を着てゐるのです。』

『黒い着物が好きなのです。』と、彼女はきつぱり答へた。
『もつと明るい着物を着られたらどうです。』
と、私は追つかけた。
『これが一番私によく似合ふのです。』と、彼女は再びきつぱり答へた。
『あなたはそんなに哀しんでいらつしやるのですか。』
『未だまだ私の哀しみは足りません。私の周圍は光から遠いのです。私は生命よりも死に近づいてゐるのです。』彼女は惱ましげに淋しい微笑を片頬に浮べて見せた。『あなただつて、何だか哀しんでゐらつしやるのでしよ。』
『えゝ。私も哀しんでゐるのです。』私も思はず微笑につり込まれ乍ら言つた。『私は救はれたいと思つてこゝまで來たのです。』
直ぐには返辭をしないで、彼女は默つてものを考へる風に頭を傾けた。何だか或る不安に脅かたやうに肩を窄めた。黒い紗を纏ふたその肩先きが微かに慄ゐて激しい呼吸づかひを見せてゐた。
少時石のやうに默つた後、彼女は熱を失つた空虚にひゞく聲で訊き初めた。
『今夜は永いこと私を待つて下さいましたでせうか。』
『待ちました。』と、私は正直に答へた。『永いこと永いこと、待つてゐました。丁度朝から待つてゐたのです。いゝえ昨夜お別れしたあの時から、私は今夜の今を待つてゐたのです。すつかり言つてしまひますが、私は昨夜はちつとも眠らなかつたのです。夜は永く永く、私を苦しめ、苦しめました。私はどうしてもどうしても眠れなかつたのです。朝になつて、私は又この永い一日をどうして送らうかと考へて　氣を失ふ程哀しくなつたのです。私は街へ出て、何處だかわからないいくつもの街筋を一日中、まるで的もなく、歩いて、歩いて、歩き疲れたのです。そして、夜を待つて、待つてゐたのです。そして、夜になると、私はもうわけのわからない程なもの哀しい氣分で、こゝまで急いで來たのです。私は呼吸が切れさうに大急ぎで來たのです。あなたは、私には怖ろしい人です。』
『あなたは、私には怖ろしい人です。』と、彼女は鸚鵡返しに言ひ初めた。『私はあなたを怖はがつてゐるのです。私はあなたを愛してはゐないのですよ。』彼女はその言葉に酷く力を入れた。『私はあなたが怖はいのです。ほんたうは、私はあなたに今夜お目にかゝりたくはなかつたのです。私はあなたを愛したくはないのです。私は昨夜初めて、丁度こゝで、あなたにお目にかゝつて、それからお別れして、直ぐに死なうと思つたのです。ですから、それから宅へ歸つて、あなたにそれは長い長い手紙を書いたのです。手紙を書いてゐるうちに、私は激しく泣けて來たのです。泣けて泣けて仕樣がなかつたのです。そして、泣けるだけ泣いてしまふと、もう、すつかり朝になつてゐましたが、朝の明るい光を見ると、私の氣持も變つて、やはりもう一度だけ、唯もう一度だけ、あなたにお會ひしてみやうといふ氣になつたのです。ですけれど、私はあなたがやはり怖ろしかつた

のです。どうした私は馬鹿で、あしたもこゝでお目にかゝりませうなどいふ約束を、自分の方から進んでしてしまつたらうかと、大變たいへん、私は哀しくやるせなくなつたのです。私は不可ないいけない子です。私はあなたに決してお遭ひしてはならないのです。私は迷つて迷つて、今日は今まで死にさうになつて考へてゐたのです。ですけれど、丁度五時の時計の音を聞くと、まだ約束の時間までには二時間もあるのに、私は思はず跳びあがつてしまつたのです。胸の中が、もう、たまらない程勝手に騒がしくなつて來たものですから、苦しくて、私は栗鼠のやうに、戸外へ駈け出してしまつたのです。そして、自身で覺えないうちに、こゝまで歩いて來てしまつたのです。お會ひするのではない、お會ひするのではないと確く思ひ詰め乍ら、遂うとう來てしまつたのです。そして、私が約束よりもずつと早く行つて、それでもあの方が來てゐらつしたら私もお話しするけれど、未だまだ來てゐらつしやらなければ、直ぐ走つて逃けて歸るのだと、自身にだめをし乍ら來てしまつたのです。あなたは、未だまだ早いのに、ちやんと來てゐらつした！、私は今先刻あなたのお姿を遠くからこの街頭の下に見た時、ほんたうは死ぬやうに哀しかつたのです。私は不可ないのに、遂うとう、あなたにお目にかゝつてしまつたのです。私は私を酷く罰してやらなければなりません！。あなたはこゝへなどいらつしやらなければ一層よかつたのです！』

まるで駄々子のやうに言ふだけ言つてしまふと、彼女は言葉を惜し氣もなく切つてしまつた。輕くない愕きが私をまつ蒼にした。私は竹のやうにその場に凝乎と突つ立つて、も早や動かなかつた。私は自身がどうすればいゝのかを考へることが能きなかつた。彼女は水のやうに冷たかつた。私は彼女が怖ろしくなり初めた。私は彼女が非常に大きな不幸を荷つてゐるのだといふ印象を受けた。私はすでに自身の哀しみと不幸とを忘れてゐた。そして、彼女をどうしてやることも能きさうではない私自身を深く深く哀しんだ。

『私の今夜の非常な決心があなたにはおわかりになりませうか。』と、やがて彼女は今度は極めて靜かに口をきいた。『私、今夜こゝへ來たのは死にゝ來たのと同じです。私には自身を支へる力がないのです。あなたは、どうぞ、私に力をかしてやつて下さいまし。』

『あなたは屹度御病氣です。』と、私はおづおづ答へた。『昨夜は更くまであんなに明るい色んな話を二人でしてをき乍ら、今夜は、どうして、あなたはそんな風なのです。あなたは屹度御病氣なのです。わるい熱を病んでゐらつしやるのです。あなたはもつともつと、御自分を大切にお思ひにならなければなりません。私には力はないのです。私にはこの街燈ほどの力もないのです。私がどうしてあなたの力になることが能きませう。私こそ、病人で、いけない子で、なんにもなんにも能きはしないのです。私こそ、どんなにどんなに、あなたを待つたでせうか。私こそ、大變な決心でかうしてこゝへ來たのです。私は再び生きるか死ぬかなのです。私をこの上深い哀しみに落さないで下さい。私は瀕死人です。』

何といふ變つた二人であらうと、私は彼女の細く痛々しい姿をしみじみ見守り乍ら、考へた。昨夜更く、まるで偶然なこと

からこの橋の上で行きあつて、ふとしたことから一寸した口をきゝあつた二人が、今日は早やこんなにまで、二人で二人を哀しまなければならないのであつた。あした再びこゝへ寄つて來ませうといふ彼女がさせた約束を、今夜どちらか一人が違約さへしてをけば、確に、二人は遂に永劫に單に路傍の人に過ぎはしない筈なのであつた。汽車の中などで偶然にも向ひ合つて席をとつた見知らぬ二人の旅客が、どんな都合から二言三言口をきゝあふやうなことにならないとも限らないし、それが唯一つの機緣になつて、その二人がどんなに激しい生涯の交渉を有ち續けるやうな二人にならないとも限らないし、又、その二言三言のまゝで別れてしまつて、も早や再び永劫にお互をこの世界で見もしないかも知れはしないのである。私も彼女をさうした哀しい偶然から發見したのではあつたが、昨日今日、唯かりそめの親しさから、哀しく永劫の世界へ相別れてしまつてもいゝとは考へやうともしなかつた。私には、彼女は、すでになくてならぬものになりつゝあつたのである。

『あなたは何と言ふお名前なんでせうか。』と、私は訊いては不可ないことを強ゐて訊き出す時のやうに、彼女を怒らせたくはないと心配し乍ら訊いてみた。

『私はイヴと言ふのです。』と、彼女は何の躊躇もなく答へた。

『あ。あなたはイヴなのですか。』と、私は思はず微笑んだ。『あなたは天國からいらつしたのですか。』

『天國は今は哀しみで一杯です。』と、彼女は目を伏せた。

『私は地獄へ行くところなのです。私は不幸にもアダムぢやありません。私はアダムぢやありません。私はカインです。カインです。呪はれたこの地を去るべしと命令されたカインです。私は最初の殺人者です。ですから私の光は消えてゐるのです。私の希望は私から遠いのです。昨夜、こゝで、あなたに初めてお目にかゝつた時まで、その光は消えてゐたのです。そして、あなたにこゝで初めて聲をかけられた瞬間、私はも少しで驅け出す程吃驚してしまつたのです。ですけれど、その時、私の濡つた周圍が初めて白晝のやうに明るく輝き初めたのです。』

私は口を閉ぢた。彼女は今度は私の方をしげしげと瞶めて、何だか不安らしく微笑んだ。私は彼女が何故さうまで自身の感情を表面に出さないやうに苦しい努力を繰り返してゐるのかと、訝つた。

『昨夜のお約束では。』と、彼女は口吻を新めた。『今夜はお互の話をしやうと言ふのでしたでしよ。』

『ゐゝ。さうです。』と、今は私も彼女の目を見入り乍り微笑つてみせた。『その約束を私は今まで樂しんで來たのです。眠れない一夜中を、ずいぶんずいぶん樂しみにして來たのです。どうぞ、話して下さい。あなたのお話を聞かせて下さい。私はあまりに何も知りません。どうぞ、あなたの知つてらつしやる何でもを　私に今夜話して下さい。』

『私には姉が一人あるのです。』と、彼女はあらぬ方へその美しい目を投げ乍ら、深い深い呼吸をして、低い獨言のやうな口吻で私を殆んど關はずに話し初めた。『私はその姉のことをお話ししましよ。姉と言つても私とは五つ違ふ姉なのですが、その姉の

話をすれば、私がどんな女かと言ふことがおわかりになりましょ。』

私は怖ろしいものを聞く前のやうな突き詰めた氣持で、彼女の方へ耳を寄せた。彼女は少時の間は目を閉ぢてゐた。涙が、不思議な青い輝きをもつて、彼女の頰を靜かに上つてゐた。

『姉は若くて自殺したのです。』と、第一の言葉が私を激しく搖り動かした。『姉は若くて結婚したのです。愛されて、それはほんとうに愛されて、若い無名の彫刻家とずうつと以前に結婚したのです。姉は身體も弱はかつたのですが、大變美しいと言ふ評判だつたのです。美しいのは、その姿もですけれど、その聲が一層美しかつたのです。姉は、あなたが音樂を好いていらつしやるならよくご存じでせうけれど、二年前まではソプラノの歌手だつたのです。兄は姉のためにした或るさくやかなうちはの演奏會の夜、姉を初めて見たのです。そして、二人は間もなく結婚して、大變たいへん幸福だつたのです。二人はそんなにお金持ではありませんでしたけれど、二人はほんとうに愛し合つてゐましたから、幸福だつたのです。姉は結婚後間もなく舞臺からはかくれて、少時のうちに、姉の美しい聲が、兄の靜かな郊外のアトリエだけでしか聞かれなくなつてしまひました。不幸は、ほんとうに大きな不幸は、そこから來たのです。あゝ。ああ。愛と言ふものは何といふ大きな不思議なのでしょ！。愛さへあれば、幸福がなくつても人は天國に住めるつて、人が言ひ、言ひしますけれど、愛といふものは岐度不幸をもち込んで來るものなのです！。……姉は兄に愛されて不幸になつたのです。姉は今までだつてあまり幸福ではなかつたのですのに一層不幸になつたのです。姉は兄と結婚しましたから幸福にはなつたのですけれど、そして、私もずゐぶん嬉しかつたのですけれど、又、そのために一層不幸になつてしまつたのです。兄は有頂天に喜んで、その新しい二人の家へ、多くの親しいお友達を連れて來たのです。お友達は兄の大きい笑ひ聲に混つて、誰も誰も、姉の美しい姿や聲を心から賞めてゐました。そしてさうした事が少時つゞくうちに、兄のアトリエからは、姉が胸を高くして歌ふセレナアドも聞えなくなつてしまつたのです。あ。あ。あ。美しい事はわざはひです！。姉は兄のお友達の一人から激しく愛されてしまつたのです！。いゝえ、一人だけではありません。兄の家へ遊びにいらつしやる大低のお友達が、姉を一緒になつて、愛し初めなすつたのです！。んなは若い若い藝術家です。畫を描く方や、美しい詩集を四五冊も出した方などです。自分自身藝術家だと信じていらつしやる好い方々が、どんなに激しい死にもの狂ひの情ひを有つた方々だかは、あなたもよくお解りになりましょ！。大きな不幸と暗らい陰とが、かうして姉と兄とを包んでしまひました。私は、今も今も、姉が最後まであの兄に天使のやうに貞淑であつたことを信じて疑ひません。姉はその姿よりも聲よりも、その胸は一層美しかつたのです。姉は百合子といふ名でした。おお。ほんとうに、姉にそつくりのいゝ名！ですけれど、そこに、どんなに怖ろしい荒い渦潮が、百合のやうに愼ましい姉をまん中にして、涌き上り巻き立つたかを想像して下さいまし！……ああ。ああ。私はその姉の唯一人の妹です。私はあの頃の姉の心を思つては、どんなに激しく泣けて泣けるでしよ！……姉は遂うとう或る一人の方に死にもの狂ひに強迫されて、小鳥のやうに、自分で自

分の胸を突いてしまひました！……』

私は泣いてゐた。彼女は顔を兩手でしつかり掩ふてゐた。私は彼女をどう言つて慰めればいゝかと、苛々し初めてゐた。私は彼女をそんなに泣くのではありませんと力なく宥め乍ら、自身も涙に濡れて胸のところで兩手を確く組んでゐた。

『それは……いつのことなのです。』

『昨日の夕方のことです。』

『あ。昨日の夕方のことなのですか！』

私は自身の身體がぐらぐらと崩れ落ちるほど吃驚した。私は自身の輕い胸が兎の樣に跳びあがつたのではないかと驚いた。

私は、今、どうすれば、自身が彼女のこの深い哀しみを俱にすることが能きやうかと、苦しんで、自身の胸を確く抱いた。

『……兄は、ほんとうに、見てゐられないほど、苦しんで、苦しんで、唯つた一時間のうちに、十年もの年をとつて痩せてしまひました。』と、彼女は續けた。『そして、泣いて泣いて、姉の死體を哀しく搖り乍らわけのわからないことを言ふのです。そして、追々、氣分が落ちついてくると、姉の死面をとるんだと言つてアトリエに驅けこんだのです。それから、もう一生懸命になつて、兄は姉の美しい死面をとりにかゝつたのです。兄は何だかこの二三日前から姉と一寸した爭ひをしたやうなことを私の目を避けるやうにし乍ら口走つて、すまないすまない、自分はお前を少しも疑つてはゐなかつたのだ、愛してゐたからだ益々愛してゐたからだと繰り返して泣くのです。よして、死面が殆んど出來上らうとした頃、一人のお友達がそれよりも一層いけない不幸な報知をもつて、その哀しみのまん中へとび込んでいらつしたのです。櫻井が百合子さんの自殺したことを聞いて、又、その自宅のアトリエでピストルで自身の胸をお撃ちになつたと言ふのです。それを聞いた時の兄の顔は、一度に水を浴びたやうに激しく蒼ざめました。そして、死面を未完成のまゝ棄てゝをいて、髮を亂して、そのまゝ街へ出かけてしまつたのです。……』

『その櫻井さんがお姉さんを殺したのですか。』と、私は呼吸をはづませた。

『いゝえ。私は、どこまでもどこまでも、姉の潔らない潔白を信じてゐます。』と、彼女は怒つたやうに即座に斷言した。『櫻井さんは畫家で、兄の一番親しいお友達で、仲間では天才だと言はれていらつしたのです。それから、姉の不幸があつた時、直ぐお知らせしだのです。ですけれど、その時、櫻井さんは街筋へ散步に出られたお留守だと言ふことで、直ぐ來て下さるやうに傳言をお賴みして歸つたのです。それから、少時の間は皆んなで櫻井さんのことも一寸忘れる位急がしくしてゐたので、櫻井さんの來られないのを別に何とも思つてはゐなかつたのですが、あまり遲いので、も一度お知らせにゆかうとお友達の一人が走つて下さつたのです。そしたら、櫻井さんはも早やアトリエで、あつたゞけの繪を切り破いて、その上へ冷たくなつてぶつ倒れていらつしたのださうです。姉の繪が四五枚も破つてあつたさうです。……兄は、櫻井さんと姉とをそんな風にして同

時に失つたのです。……ですけれど、私はあの姉が、櫻井さんと倶に死んだとは決して今も思ひません。姉は姉です。姉は兄を愛してゐたから死んだのです。櫻井さんは姉が死んでしまつたから後から死なれたのです。……』

彼女は言葉を切つて、涙を靜かに手布へおさめた。私は昨夜の彼女をおもひ出し乍ら、彼女の不幸を自身の不孝にもまして痛く痛く、自身の胸の中におさめた。

『……そして、私は、兄が行衞不明になつてしまふと直ぐ、急いで、こゝまで駈けて來たのです。』と、彼女は續けた。『私は、この橋のこゝから、昨夜はあの黒い水の底へ私の魂を投げるつもりだつたのです。私は生命が怖はくなつたのです。私は誰にも愛されては大變だと思つたのです。私だつて、丁度、姉が兄から愛された事に近づいて來てゐるのです。私は、未だまだ、ほんとうは、愛と言ふことは知らないのですけれど、愛が怖ろしく嫌やになつてしまつたのです。私は、もう、誰にも見られないところへ行つて、誰をも見ないで、一人で水の底に住んでゐたかつたのです。あ。あ。私はあの水底へ昨夜は沈んでゆく筈だつたのです。……』

彼女は深く深く嘆いて、黒い水底を凝乎と瞶めた。私は異樣な寒感に全身を慄はせ乍ら、身を窄めた。私は宥しを乞ふために言つた。

『……そして、私がこゝで、そんな時のあなたに、何にも知らないでお會ひしたことは、ずゐぶんずゐぶん不可なかつたのですね。』

『不可ない事ですとも、あなたは！』と、彼女は微笑ひもしないで言つた。『あなたはほんとうに不可ない子です！。あなたは私をすつかり怖はがらせるのです。昨夜、夢中で私がこゝまで驅けつけて、そして、冷たい欄干につかまつて川底を見やうとした時、あなたは惡魔のやうに不意に現はれて、私から三尺も離れない處に突つ立つて、私を凝乎と見てらつしやるのです。私は吃驚して、あんなに大きな聲を立てゝしまつたのです。』

『ああ。あなたは何と言ふ不幸な方です。』と、私は思はず叫んだ。『私だつて、酷く吃驚したのです。私も、あの時丁度、川の底を覗いてゐたのです。ああ。私は何といふ不幸な男でしよ！。私もあの時は、看護婦の目を盜んで十七ヶ月も凝乎と臥たきりであつた病室を抜け出して來たのです。そして、こんなにやせた病人が、惡魔の翅に樂々と乘せられて、八尺もある病院の石塀を乘り越えて、直ぐにこのやくざな魂と破れた肢體とを惡魔に賣り渡すために、この橋の袂まで逃げて來たのです。人生は私には怖いのです。私は何も有つてゐないのです。私は長い長い病室の生活の間、星のことや、神のことや、又、雲のことや地獄のことを考へ考へたのです。そして、希ひも望みも生命も棄てゝ、私は、唯、死のことを深く深く考へたのです。そして、私はもう七秒もすれば死の國へ跳び込まうとするところを、あなたの大きな叫び聲で、又、この世界へ引きづりあげられてしまつたのです……。』

『あなたにはお妹さんはないのですか。』と、彼女が私の話に興味を有ち初めた。

『いゝえ。ありません。』と、私はほんとうを告けた。『私は妹も姉もありません。あゝ。私は母も父も今はありません！。私は獨りぼつちです。父は私の七つ位の時に外國で亡くなつたと言ふのですが、私の母は私の十三の時、不意に私ををいてどこかへ去つてしまつたのです。そして、私はそれから父の弟である今の叔父に引きとられて、今日まで來たのです。よくは知りませんが、私には父から殘された澤山の財産があるのださうです。そして、私の叔父が今はその財産を奪つてしまつて、親戚中への見榮のために私を今日まで大きくしてくれたのださうです。あゝ。私にはそんなことはどうだつていゝのです。私の不幸は、今日まで、私が未だ一度も人から愛されたことがないと言ふことです。あゝ、私は夢を知らないのです。私は人を愛したこともなかつたのです。叔父の一家は私が一寸した病氣にかゝつたのを機會に、私を今の病室へ押し込めて、それから一度だつて、私に遭はうとはしないのです。私は十七ケ月を不親切な看護婦と一緒に暮して來たのです。私の病氣は段々重くなつて私の身體は今から一ケ月もすれば死んでゆくさうです。ああ。私には今は何の希望もなかつたのです。一日でも早く死んでしまへばいゝのです。さうすれば、私の叔父は喜んで、正當に、私の要らない財産を奪ふことが能きるのです。そして、叔父はそのことで充分幸福になるのです。私はその叔父を早く喜ばせてやりたかつたのです。私は死なうとしてゐたのです。そしてあなたに、初めて、昨夜會つたのです。……あゝ。私はあなたに會はない方がよかつたのです。……』

二人の不幸者はしばし水を噴めて默つてゐた。風が冷たく涙のあとを靜かに愛撫してすぎた。私は冷たい冷たい川風を大きく一杯に破れた胸へ吸ひ込んだ。かうすることが大變私の氣持によかつたのである。

『私だつて、あなたにはお目にかゝらない方がよかつたのです。』と、少時して彼女が言つた。

『でも、二人は遭つてしまひました。』と、私も少時してから答へた。

『あゝ。私はあなたに負かされたのです！』

と、不意に彼女の頰は異常な輝きをもて美しくなり初めた。『私は誰にも愛されず愛したくもなかつたのです。それだのにそれだのに、あゝ、私はあなたに負けたのです！。昨夜更く、あの怖ろしい瞬間に、あゝ私はあなたを愛してしまつたのです！。』

『あゝ。待つて下さい。』と、私は大急ぎで彼女をさへぎつた。『宥して下さい。宥して下さい。私も、昨夜あなたを見た時から、初めて生活の光を見たのです！。初めて人生を見たのです。あゝ、私は昨夜はあなたとお別れしてからも直ぐ水の中へはゆかず、病室へもかへらず、港に近い小さな旅館で一夜を眠らないで送つて來たのです。あゝ、私はあなたの持つて來て下さつた人生が知りたかつたのです。あゝ、愛を知るのには永いこと永いこと生きてゐる要はないのです！。私は、今、光を見たのです。私は、今度は、ほんとうに輝いてこの世を去つてゆくことが能きるのです……。』

『いゝえ、いゝえ、私にも言はせて下さいまし。』彼女も叫んだ。『あゝ、私はどうすればいゝのかわかりません。私だつて、昨

夜すぐにはこゝから跳び込まないで、何にか、わけのわからない惱ましい苦しい氣持に呼吸づまるやうになり乍ら、おめおめと、ほんとうに初めの決心にも似ないでおめおめと姉の屍體のそばまで歸つていつたのです。そして、一夜中を去つた姉のそばで泣いてゐたのです。それが愛といふものだ、と姉の魂は苦しげに私の胸にさゝやきました。人を愛してはなりません、人に愛されてはなりません、と、姉の魂は惱ましげに私にさゝやきました。私の胸の血を見るがいゝ、愛は血なのだ、と、姉の屍體が私にさゝやきました。私は狂ふやうに一夜を泣きあかしました。そして、考へ考へたあげく、あゝ、遂うとう姉を棄てゝ、こゝまで來てしまつたのです！。私は、もう、自分をどうすればいゝのかわからないのです。

彼女は顔をはつきりとあげて、初めて嫣然して見せた。私は驚いて、顔にかたいぎごちない表情を浮べて、脣ぢて目を伏せてしまつた。

おお、何といふ美しい彼女なんだらう！。何といふ輝いた笑顔なんだらう！。何といふ不幸な、哀しい、淋しい二人なんだらう！。

私は彼女に一杯の明るい笑顔を見せてやりたかつた。私は笑はうと思つた。私は彼女に何かもう一言を言つてやりたいと思つた。だが、私は、唯、涙が出て來て出て來て、外には何を仕樣もなかつた。で、私は、冷たい欄干に頰を滅茶苦茶に押しつけて、今は、泣けるだけ、聲をあげて女のやうに泣き崩れた。

やがて、幼いこどもが泣くやうな可愛いゝ甘い聲をあげて、彼の女が激しく咽び初めたのを私は聞いた。

夜はすでに更けた。空氣は水のやうに冷たかつた。冷たい骨を刺すやうな夜更けの霧が、靜かに、二人と街燈とを、白く白く、包み初めやうとしてゐた。

いたづらにかかぐる窓の燈火を
螢あつむる人に見せばや

主要建築材料値段

◎耐火リノリウム　市内施工
大阪耐火リノリーウム會社
チョコレート色　四分仕上坪　八、五〇〇
褐　色同　同　八、五〇〇
赤　色同　同　九、〇〇〇
青　色同　同　一三、〇〇〇
マグネシアセメント市内倉庫渡し　九、五〇〇
トンニ付
ドロマイトプラスター　同　七、〇〇〇
一號品　一タル四切半　八、〇〇〇
三號品　同　七、〇〇〇
ストロブロック（模造天然石）市中工事　（八五
寒水石大理石類　尺坪　一、三〇〇
花崗石類　同　一、一〇〇
防水劑ポースイ
三封度入　一、五〇〇
五封度入　二、三五〇
四〇封度入　三、〇〇〇

◎日の出印便瓦利
日本建築紙工大阪出張所
半號　巾三尺二寸　附屬品及　一四、五〇〇
長七十二尺　ペイント添
一號　一卷　同　一七、五〇〇
二號　一卷　同　二一、三〇〇
三號　一卷　同　同　二五、五〇〇

◎鶴印便利瓦
半號　一卷　巾三尺二寸　附屬品及　一三、五〇〇
長七十二尺　ペイント添
一號　同　同　一五、五〇〇
二號　同　同　一八、三〇〇
三號　同　同　同　二三、三〇〇

◎日の出印砂付便利瓦
半號　一卷　巾三尺二寸　附屬品及　一六、〇〇〇
長七十二尺　ペイント添
一號　同　同　一九、〇〇〇
二號　同　同　二三、〇〇〇
三號　同　同　同　二七、〇〇〇

◎日の出印建築用紙　ピルヂングペーパー
一號　一卷　巾三尺二寸　三、〇〇〇
長七十二尺
二號　同　同　四、二〇〇
三號　同　同　五、三〇〇

◎日の出印パーマネントルーフ井ング
一號　巾三尺長三十六尺　坪　三十六
平方尺　一七、〇〇〇
一號ヲ以テ一卷トス

◎日の出印衛生疊下用紙
一號　一卷　巾三尺二寸　三、二〇〇
長七十二尺
二號　同　同　四、四〇〇

◎日の出印瀝靑（毛スパーピール）
一號　一枚　巾二尺八寸　一、二五〇
長三尺二寸
二號　一枚　同　一、三〇〇
三號　同　同　一、五五〇

◎日の出印アスファルトフエルト
一號　一卷　巾三尺二寸　三、二〇〇
長七十二尺
二號　同　同　四、二〇〇
三號　同　同　五、三〇〇

◎スレート
淺野スレート販賣株式會社
灰白色　一六吋　一枚ニ付　一、一〇〇
同　一二吋　同　一、二五〇
同　八吋　同　〇、九八
灰黑色　一六吋　同　一、二五〇
同　一二吋　同　一、四三
同　八吋　同　〇、九三
菫　色　一六吋　同　一、三五
同　一二吋　同　一、四五
同　八吋　同　〇、九九
赤　色　一六吋　同　一、二〇
同　一二吋　同　一、三六
同　八吋　同　〇、九八

◎一文字葺（十六吋角ニツ切使用）
葺　五寸　三、二〇　三、五〇　三、八〇　四、五〇
足　五寸五分　三、五〇　四、五〇　四、八〇　五、五〇

◎淺野波形板
長六尺　巾二尺二寸　一枚　三、三〇〇
長七尺　巾二尺二寸　同　三、八〇〇
附屬亞鉛木捻釘一本
長六尺　巾三尺厚一分五ノ一枚　二、八〇〇
長六尺　巾三尺厚二分一枚　三、三〇〇
附屬銅鋲　一本ニ付　〇、〇六
同亞鉛寸釘　同　〇、〇六
同　銅釘　同　〇、〇三

◎菱形葺十六吋角使用
重　ネ　灰白　灰黑　菫　赤
二吋半　七、五〇　八、二五　八、七〇　九、三〇
三　吋　七、九〇　八、五五　八、七〇　九、三〇

◎同上十二吋角使用
二　吋　九、三〇　一〇、一〇　一〇、二〇
二吋半　一〇、〇〇　一〇、八〇　一一、〇〇

◎鋼瓦板　巾一尺　長一尺二寸
井筒改藏商店（大阪）

名稱	一枚目付	薄增値	單價和百斤ニ付
自拾二代至八代	一二〇匁	建値	一、三〇
七代	八〇匁	三、〇〇	一五、〇〇
六代	六〇匁	四、〇〇	七、〇〇
五代	五〇匁	八、〇〇	八、〇〇
四代	四〇匁	六、〇〇	九、〇〇
三代	三〇匁	三、〇〇	一〇、〇〇
二代	二〇匁	六四、〇〇	一三、〇〇
同店			

◎亞鉛引平鐵板

		円
月星印	50（米一）	一、二四
タヒ	印30（米一）	品切
犬	印30（米一）	一、二一
三星	印30（米一）	一、一三
太陽	印30（米一）	一、一三
エビ	印30（米一）	品切
船	印30（米二）	一、一九
月星錨	印30（米二）	一、一〇
山星	印30（米二）	一、一〇
五寸切レ	（米板）	〇、一四
蝶	印30（英一）	品切
ラクダ	印30（英一）	一、一九
地球	印20（英一）	一、一九
赤丸一	印20（英一）	品切
桃	印20（英二）	品切
首	印30（英二）	一、一七
半28	一級品	一、四四
半26	一級品	一、二五
半24	一級品	一、一〇

#22	一級品	百斤ニ付	一九、〇〇

◎同浪板

同店

#30	六尺		〇、九八
#30	七尺		一、一六
#30	八尺		一、二九
#28		各參錢上り	
#28	六尺		一、三三
#28	七尺		一、六〇
#28	八尺		一、七
#2426	各尺百斤ニ付		一七、〇 一六、五〇

◎パイプ

金剛商會大阪支店

内經	厚	長	價格
二吋	四分ノ一吋	六呎	一、〇〇
二時十	同	同	一、七〇〇
三吋	十六分ノ五吋	同	二、〇〇〇
三吋半	同	同	二、三〇〇
四吋	八分ノ三吋	同	三、五〇〇
五吋	同	同	四、五〇〇
六吋	二分ノ一吋	同	七、〇〇

◎金剛板

巾三尺 長六尺 一枚ニ付

厚サ	重量	円
二分	五貫二五	三、六〇〇
三分	七貫五〇	五、二五〇
四分	一〇貫五〇	七、三五〇
五分	一二貫七五	九、七五〇
六分	一五貫〇〇	二、二五〇

◎金剛ストレート（葺上値段）

色	合	十六吋菱形	八吋菱形
		円	円
灰白色		七、〇〇〇	一〇、〇〇〇
黒色		七、五〇〇	一〇、八〇〇

スミレ色		八、〇〇	二、三五〇〇
赤色		八、五〇〇	二、三五〇〇

◎塗料（其他）

田中源太郎商店

品名	種類	量	價
アラバスチン	白	五封度入	三、三〇〇
同	各色	同	三、八〇〇
同	樽入	白 三五ポンド入	——
同	同	同 一〇〇ポンド入	——
アスバチン	コーター	小瓶入	一、一
アスバチンパテ		小袋入	〇、六
アスバチン	ステンシル		四〇ヨリ 一、三〇迄
赤三角印又ハ紅葉印		一ガロン	一五、〇〇〇
サテン艶消ペンキ	各色	一ガロン	二、四〇〇
同	ワンダーホワイト	一ガロン	二、四〇〇
同	艶消白	一ガロン	一〇、八〇
同	エナメル白	一ガロン	五、七五〇
同	同	二分ノ一ガロン	二、二〇〇
同	同	二分ノ一ガロン	五、八五〇
オートフニシュ、各色		1/8ガロン	三、三〇〇
コンクレライト	同	五ガロン	四九、八〇〇
ルーカスルーフセメント		一ガロン	四、七五〇
ホワイトリノニウムバニッシュ			
オイルステイン各色		四分ノ一ガロン	三、八五〇
同	マホガニー色	一ガロン	一五、〇〇〇
同	各色	一ガロン	一六、〇〇〇
同	同	四分ノ一ガロン	四、四〇〇
同	マホガニー色	四分ノ一ガロン	四、九五〇
フエデラルバニシュステイン各色		十六分ノ一ガロン	二、一〇〇
フエデラルウツドフイラー		一ポンド入各色	八八〇
オールステインコーター各色		四分ノ一ガロン	二、七〇〇
フローアワニス		一ガロン	一三、〇〇〇
スパーワニス		一ガロン外用	一五、四〇〇
同	同	内用	一二、一〇〇
ベルベツトワニス	同		一三、一〇〇
フラツトワニス		四分ノ一ガロン	三、八五〇
ゴールドサイズジヤパン		一ガロン	一四、三〇〇
エロプレーンバニス		一ガロン	一〇、七八〇
ネビーバーバニス		一ガロン	一〇、七八〇
グロスエナメル		一ガロン	一九、八〇〇
エナメルアンダー		一ガロン	一五、八〇〇
スチールウール	三號	一ポンド	一、四四〇
同	二號	同	一、五〇〇
同	一號	同	一、六四〇
同	○號	同	一、八〇〇
同	○○號	同	二、八〇〇
同	○○○號	同	三、八〇〇
特製ブラシ六吋	特號		六、〇〇〇
アラバスチンブラシ	一號		二、一〇〇
同上亜製	二號		一、一〇〇
オイルスラインブラシ	三號		八〇〇
ニス刷毛	五號		四〇〇
ペンキ刷毛	七號		二、三〇〇
ペンキ刷毛	八號		一、五〇〇
ステンシルブラシ四號			一、四五〇
リグアーウオタイト		三ポンド入	七、五〇〇

◎防水劑

日本セメント防水劑製造所

ウオータイト	一〇ポンド入	五、五〇〇
同	七〇ポンド入	三五、〇〇〇
ウヰツクウオタイト		

同	一〇ポンド入	六、〇〇〇
	六〇ポンド入	三〇、〇〇〇

◎木材其他

田村商店（神戸）

◎金属天井

平板	一坪ニ付	九、〇〇以上
蛇腹	長サ六尺物	一、〇〇以上
鈕飾	同	六〇以上
中眞飾	同	三、五〇以上

◎建築用壁紙

パプコボード	一尺平方	一五
アイボリボード	同	一五

◎メタルサイデング

平鈑		八、五〇〇
角石	一坪ニ付	

◎メタルラス（引伸金網）

舶來品 #26	一坪	二、八五〇
舶來品 #24	一坪	三、二〇〇
和製品 #26	同	一、五〇〇
同 #24	同	一、六〇〇

◎米松角材（木場渡し）

大角材	一八吋角上 長	二四呎以上
中角材	一二吋角上 長	二四呎以上
		一、〇〇以上
		九五〇以上
小角	四吋角	一〇呎 八五〇
取合	四吋四分ノ一 長	一三呎 一、〇〇〇
材	四吋四分ノ三	二〇呎 九五〇
平材 No.8	厚六吋巾一二吋上長	二〇呎 一、四五〇

◎米檜角材

大角材	一〇吋角上	長	二四呎上
小角取合材	四吋角	長	一〇呎 八五〇以上
	四吋四分ノ一角	長	一三呎 九五〇以上
	四吋四分ノ三角	長	二〇呎 一、四五〇以上

◎米　杉（尺〆一本ニ付）

丸太　一等級　末口一八吋上長一三呎　一五、三〇〇
割材一等級　——
平材　NO1　——

◎米　檜（尺〆一本ニ付）

丸太NO1クリヤ級末口二四吋上　長一三呎　二七、〇〇〇以上
同　末口一八吋上　長一二呎上　一〇、六五〇以上
米松床板（神戸同店渡し一延呎ニ付）
巾六吋マーチャンタブル級　〇、四五以上
巾六吋板目無節　〇、三六以上
巾六吋柾目無節　〇、四五以上
上巾四吋板目無節　〇、四五以上
巾四吋柾目無節　〇、五〇以上
同　二等級　同　三、〇〇〇
同　三等級　同　七、五〇〇

◎箪笥、赤樺、白樺、櫻、桂、
（建築家具用）
新田ベニヤ製造所

三枚合、片面、巾二尺以上ハ厚サ一分五ノ（十六分ノ三）巾二尺一寸以上ハ厚サ二分（四分ノ一）何れも一平方尺ニ付キ

巾	長	青二ツ星	青一ツ星
尺	尺	円	円
一、五	六四寸	二、三〇	二、三〇
同	六	二、五〇	二、三〇
一、五	六	二、六〇	二、四〇
一、五	六	二、七〇	二、四〇
二、〇〇	四、〇〇	二、八〇	二、五〇
二、〇〇	五、〇〇	二、九〇	二、六〇
二、〇〇	六、〇〇	三、〇〇	二、七〇
二、五〇	五、〇〇	三、一〇	二、八〇
二、五〇	六、〇〇	三、二〇	二、九〇
三、〇〇	六、〇〇	三、三〇	三、〇〇
三、〇〇	六、〇〇	三、四〇	三、一〇

◎二　等　品（家具用）

厚一分五ノ（十六分ノ三）又ハ二分（四分ノ一）三枚合　片面

巾	長	代價（一平方尺）
二尺	六尺	表三枚又四枚矧混合　三、三〇
同	同	三、三〇
同	同	三、五〇

◎天　井　用（一坪ニ付）

巾	長	青二ツ星	青一ツ星
尺	尺	円	円
一、五	六四	九、七〇〇	二、三〇〇
同	同	一〇、四〇〇	三、三〇〇
一、六五	同	一一、一〇〇	四、三〇〇
以上一分五——厚	六尺四寸	一三、一〇〇	一五、一〇〇
同	同	一四、八〇〇	一九、二〇〇

◎日本間用杉天井板

杉柾、杉本	一坪	一〇、〇〇〇以上
神代杉	同	二〇、〇〇〇以上
屋久杉	同	三五、〇〇〇以上

以上二分厚

◎格天井用（厚一分五厘）

樺櫻樺	櫻しな	栓	黄檗
寸法	樹種		代價
二尺角	青二ツ星		一〇、四四〇
同	青一ツ星		三、六八〇
楓　二尺角	青二ツ星		三、三三〇
同　同	青一ツ星		六、九二〇

◎同　厚　二分

樺櫻樺	櫻しな	栓	黄檗
二尺五寸角	青二ツ星	青一ツ星	一六、六四〇

楓　二尺五寸角　一四、二〇　一八、七〇
樺櫻樺　櫻しな　栃　黄檗
三尺角　青二ツ星　青一ツ星
一二、八〇　一五、四八〇
栓　三尺角　一五、二〇　一九、四四〇
樺櫻　櫻しな　栓　黄檗
三尺五寸角　青二ツ星　青一ツ星
一五、三一〇　一九、七四〇
楓　三尺五寸角　一九、〇〇〇　二四、七〇〇

◎腰羽目用（一枚ニ付）（一分五厘）

厚　樺櫻樺　櫻　なし　黄檗
巾　長　青二ツ星　青一ツ星
一尺三寸五分　三尺二寸　一、〇〇〇　一、三三〇
楓一尺三寸五分三尺二寸　一、二五〇　一、七一〇
樺　櫻　櫻　栓　黄檗
一尺六寸　五分　三尺二寸　一、三九〇　一、八〇〇
楓一尺六寸五分　三尺二寸七、二〇　二、三三〇
樺櫻樺　栓　しな　黄檗
二尺　三尺　二尺　一、七四〇　二、二八〇
楓三尺　二尺　一、三三〇　二、八二〇

◎同　二分厚

樺櫻樺　櫻　栓　しな　黄檗
二尺五寸　三尺　二、三三〇　三、〇〇〇
楓二尺五寸　三尺　二、八五〇　三、七五〇

◎障子腰板用（一分五厘厚）

三枚合　兩面　一枚ニ付

巾	長	青二ツ星	青一ツ星
一尺五	二尺五	七三	九四〇
一尺二五	二尺三	九〇〇	一、一八〇
一尺〇五	三尺一	八七〇	一、一二〇
一尺二五	三尺一	一、三三〇	一、五二〇

◎床地板用（五分厚五枚合片面）

樺櫻樺　櫻
巾　長　青二ツ星　青一ツ星

二尺　六尺四寸　八、九〇〇　九、七〇〇
同　樹種
二尺五寸　六尺四寸　九、九〇〇　一二、八〇〇
三尺二寸　六尺四寸　一二、〇〇　〇九、五〇〇

◎舞戸及帯戸用（二分厚）

三枚合　片面及兩面
樺櫻樺　櫻　しな　栓　黄檗

巾	長	青二ツ星	青一ツ星
二尺三	六尺	兩　三、九〇	五、二〇〇
		片　二、五〇	三、二〇
楓	片	兩　四、九〇	七、〇〇〇
二尺三	六尺	片　三、五〇	四、七〇〇
樺	兩	五、九四〇	八、〇二〇
巾	長	青二ツ星	青一ツ星
三尺五分	六尺	兩　七、七四〇	一〇、四五〇
	片	五、九四〇	八、〇二〇
楓	片	七、五六〇	九、七二〇
三尺五分	六尺	兩　一〇、二一〇	一三、一三〇

◎楓

一分五厘厚三枚合　片面　一平方尺ニ付

巾	長	青二ツ星	青一ツ星
二尺	四尺	二、七〇	二、四〇
二尺	五尺	三、三〇	二、四〇
二尺	六尺	三、三〇	二、四〇
同品	二分厚三枚合片面		
巾	長	青二ツ星	青一ツ星
二尺五	五尺	三、三〇	二、五〇
二尺五	六尺	三、三〇	二、五〇
三尺	六尺	四、二〇	三、二〇
三尺五	七尺	四、九〇	三、七〇
三尺五	八尺	五、六〇	四、三〇
四尺	八尺	六、三〇	四、八〇

◎杢物楓柾（一分五厘厚）

三枚合片面（一平方尺）

寸法	赤四星	赤三星	赤二星	赤一星
一尺五角	円 六二〇	五二〇	四二〇	三五〇
	七四〇	一、〇〇〇	一、三五〇	

二尺角	¥60	¥60	¥1.00	¥1.50
同品	二分厚	三枚合片面		
二尺五角	¥1.10	¥2.50	¥3.50	¥5.50
二尺六角	¥1.20	¥2.60	¥3.60	¥5.60
三尺五角	¥2.30	¥3.50	¥5.50	¥8.50
四尺五角	¥3.30	¥4.50	¥7.50	¥11.50

◎杢物 楓（一分五厘厚）

巾	長	赤星	赤壹星	赤二星	赤三星
二尺	四尺	¥60	¥80	¥1.00	¥1.50
二尺	五尺	¥60	¥80	¥1.00	¥1.50
二尺	六尺	¥60	¥80	¥1.00	¥1.50
同品	二分厚				
二尺五	五尺	¥1.10	¥2.50	¥3.50	¥5.50
二尺五	六尺	¥1.10	¥2.50	¥3.50	¥5.50
三尺	六尺	¥2.30	¥3.50	¥5.50	¥8.50
三尺五	七尺	¥3.00	¥4.50	¥7.50	¥11.50
四尺	八尺	¥3.30	¥4.50	¥7.50	¥11.50

◎檜 柾目（一分五厘又ハ二分）

三枚合 片面 一平方尺ニ付

巾	長			
二尺	六尺	¥30	¥50	¥70
二尺五	同	¥50	¥70	¥90
三尺	同	¥70	¥90	¥1.10

◎製圖版 桐

七分厚	三尺巾	四尺長	一枚 ¥3.00
同	二尺五巾	三尺五	同 ¥2.20

◎ベニヤドーア 檜 櫻 樫

◎鐵 材（其他）

大阪鐵管商會

フラン管 一呎ニ付

外徑	ゲージ	單價
1¼″	13	.32
1½″	13	.35
1¾″	12	.36
2″	11	.44
2½″	11	.48
3″	10	.55
3¼″	10	.67
3½″	9	.73
4″	9	.84
4½″	8	1.15
5″	8	1.35

瓦斯管

內徑	ナショナル	日本鋼管	大陸	アーモン鍍金
⅛″	.120			
¼″	.120			
⅜″	.130		.110	
½″	.130		.110	.035
¾″	.152		.135	.040
1″	.200		.180	.045
1¼″	.287	.254	.252	.060
1½″	.370	.320	.320	.070
1¾″	.490	.370		.090
2″	.485	.395	.390	.10
2¼″		.550		.13
2½″	.760	.540		.14
3″	.920	.640		.17
3½″	1.10	.760		.21
4″	1.22	.870		.25
4½″	1.60	1.200		.36
5″	1.70	1.18		.40
5½″		1.45		.52
6″	2.00	1.60		.60
7″	3.40			
8″	3.75			

ステー管（一呎ニ付テ）

外徑	厚サ	單價
2″	¼″	,80
	5/16″	,85
2½″	¼″	.95
	5/16″	1.10
3″	¼″	1,10
	5/16″	1.35
3¼″	¼″	1.25
	5/16″	1.45
3½″	¼″	1.40
	5/16″	2.50
4″	5/16″	2.60
	⅜″	3.30

ジョイスト

3″ ×	4″ × 9.5㎏	4.70
〃	5″ × 11	4.70
〃	6″ × 12	4.70
4½″ ×	5″ × 18	5.80
4½″ ×	6″ × 20	5.50
4″ ×	7″ × 16	4.60
〃	8″ × 18	4.70
〃	9″ × 21	4.70
5″	6″ × 25	4.90
〃	8″ × 28	4.90
〃	10″ × 30	4.70
〃	12″ × 32	4.70
〃	15″ × 42	5.00
5½″ ×	15″ × 42	5.00
6″ ×	8″ × 35	4.70
6″ ×	10″ × 42	4.80
〃 ×	12″ × 44	4.70
〃 ×	12″ × 54	4.80
〃 ×	15″ × 59	5.30
〃 ×	18″ × 55	5.00
6¼″ ×	20″ × 65	5.00
7″ ×	18″ × 75	4.90
〃 ×	24″ × 79.9	5.00
7½″ ×	20″ × 89	5.30
〃 ×	24″ × 100	5.00

チヤンネル

1½″ ×	3 ″ × 5.2㎏	6.00
2″ ×	3½″ × 6.8	6.00
〃 ×	4 ″ × 8	4.60
2½″ ×	5 ″ × 11	4.70
〃 ×	6 ″ × 12	5.00
〃 ×	8 ″ × 15	5.30
3 ″ ×	6 ″ × 14.5	4.60
〃 ×	6 ″ × 16.3	4.70
〃 ×	7 ″ × 17.5	4.80
〃 ×	8 ″ × 19.3	4,80
4 ″ ×	8 ″ × 25	5.50
3 ″ ×	9 ″ × 19.3	5.20

$3\frac{1}{2}''\times 6''$	5.00
$''\times 7''\times 20.$	4 00
$''\times 8''\times 22.7$	4.90
$3\frac{1}{2}''\times 9''\times 22.3$	4.900
$''\times 10''\times 23.5$	5.00
$''\times 12''\times 26.1$	5.50
$''\times 12''\times 32.9$	5.20
$4''\times 12''\times 36.7$	5.10
$''\times 15''\times 41.9$	5.20

T 型

$\frac{1}{4}''\times 2''\times 2''$	5.00
$\frac{1}{4}''\times 2\frac{1}{2}''\times 2\frac{1}{2}''$	5.20
$\frac{3}{8}''\times 3''\times 3''$	5 20
$\frac{1}{2}''\times 4''\times 4''$	5 50
$\frac{3}{8}''\times 4''\times 3''$	5.50
$\frac{5}{23}''\times 6''\times 3''$	5.50
$\frac{1}{2}''\times 4''\times 5''$	5.50
$\frac{1}{2}''\times 4''\times 3''$	5.20

等邊アングル

$\frac{1}{8}''\times \frac{3}{4}''\times \frac{3}{4}''$	6.00
$''\times 1''\times 1''$	4.50
$''\times 1\frac{1}{4}''\times 1\frac{1}{4}''$	4.50
$''\times 1\frac{1}{2}''\times 1\frac{1}{2}''$	4.50
$\frac{3}{16}\times 1\frac{1}{4}''\times 1\frac{1}{4}''$	4 80
$''\times 1\frac{1}{2}''\times 1\frac{1}{2}''$	4.50
$1\frac{3}{4}''\times 1\frac{3}{4}''\times 1\frac{3}{4}''$	4.80
$''\times 2''\times 2''$	4.50
$''\times 2\frac{1}{2}''\times 2\frac{1}{2}''$	5.20
$1\frac{1}{4}''\times 1\frac{1}{4}''\times 1\frac{1}{4}''$	5.00
$''\times 1\frac{1}{2}''\times 1\frac{1}{2}''$	4.80
$''\times 1\frac{3}{4}''\times 1\frac{3}{4}''$	4,80
$''\times 2''\times 2''$	4.30
$''\quad 2\frac{1}{2}''\times 2\frac{1}{2}''$	4.30
$''\quad 3''\times 3''$	4.30
$''\quad 3\frac{1}{2}''\times 3\frac{1}{2}''$	4.60
$''\quad 4''\times 4''$	4.60
$\frac{5}{16}''\times 2''\times 2''$	4.40
$''\quad 2\frac{1}{2}''\times 2\frac{1}{2}''$	4.30
$''\quad 3''\times 3''$	4.30
$''\quad 3\frac{1}{2}''\times 3\frac{1}{2}''$	4.60
$''\quad 4''\times 4''$	4.90
$''\frac{3}{8}\times 2''\times 2''$	5.00
$''\quad 2\frac{1}{2}''\times 2\frac{1}{2}''$	4.30
$''\quad 3''\times 3''$	4.40
$''\quad 3\frac{1}{2}''\times 3\frac{1}{2}''$	4.50
$\frac{3}{8}\times 4''\times 4''$	4.40
$''\quad 4\frac{1}{2}''\times 4\frac{1}{2}''$	4.80
$''\times 5''\times 5''$	5.00
$''\quad 6''\times 6''$	5.50
$\frac{7}{16}''\times 3''\times 3''$	4.80
$''\quad 3\frac{1}{2}''\times 3\frac{1}{2}''$	4.80
$''\quad 4''\times 4''$	4.80
$''\quad 4\frac{1}{2}''\times 4\frac{1}{2}''$	4.80
$''\quad 5''\times 5''$	5.10
$''\quad 6''\times 6''$	4.80
$\frac{1}{2}''\times 3''\times 3''$	4.40
$''\quad 3\frac{1}{2}''\times 3\frac{1}{2}''$	4.40
$''\quad 4''\times 4''$	4.40
$''\quad 4\frac{1}{2}''\times 4\frac{1}{2}''$	4.40
$''\quad 5''\times 5''$	4.70
$''\quad 6''\times 6''$	4.80
$\frac{5}{8}''\quad 3\frac{1}{2}''\times 3\frac{1}{2}''$	5.00
$''\quad 4''\times 4''$	5.00
$''\quad 5''\times 5''$	4.90
$''\quad 6''\times 6''$	5.00
$\frac{3}{4}''\times 4''\times 4''$	5.50
$''\quad 5''\times 5''$	5.00
$6''\quad 6''\times 6''$	5.00
$\frac{1}{2}''\quad 8''\times$	5.80
$\frac{5}{8}''\quad 8''\times$	5.80
$\frac{3}{4}''\quad 8''\times$	5.80
$\frac{7}{8}''\quad 8''\times$	5.80
$1''\quad 8''\times$	5.80

不等邊アングル

$\frac{3}{16}''\quad 1\frac{1}{2}''\times 2''$	5.00
$\frac{1}{4}''\quad''$	5.20
$\frac{3}{16}''\times 2''\times 2\frac{1}{2}''$	5.80
$\frac{1}{4}''\quad''$	5.00
$\frac{5}{16}''\quad''$	4.90
$\frac{1}{4}''\times 2''\times 3''$	4.80
$\frac{5}{16}''\times\quad''$	4.80
$\frac{3}{8}''\times\quad''$	4.80
$\frac{1}{4}''\times 2\frac{1}{2}''\times 3''$	4.80
$\frac{5}{16}''\times\quad''$	4.80
$\frac{3}{8}''\quad''$	4.80
$\frac{1}{4}''\times 2\frac{1}{2}''\times 3\frac{1}{2}''$	5.20
$\frac{5}{16}''\quad''$	5.20
$\frac{3}{8}''\quad''$	5.20
$\frac{1}{4}''\times 3''\times 3\frac{1}{2}''$	5.00
$\frac{5}{16}''\quad''$	4.80
$\frac{3}{8}''\quad''$	4·70
$\frac{7}{16}''\quad''$	4.80
$\frac{1}{2}''\quad''$	4.80
$\frac{5}{16}''\times 3''\times 4''$	4.90
$\frac{3}{8}''\quad''$	4.80
$\frac{7}{16}''\quad''$	4.90
$\frac{1}{2}''\quad''$	4.80
$\frac{5}{16}''\times 3''\times 5''$	4.90
$\frac{3}{8}''\times\quad''$	4.90
$\frac{7}{16}'\times\quad''$	4.80
$\frac{1}{2}''\times\quad''$	4.80
$\frac{3}{8}''\times 3''\times 6''$	5.20
$\frac{1}{2}''\quad''$	5.20
$\frac{3}{8}''\times 3\frac{1}{2}''\times 4''$	4.90
$\frac{7}{16}''\quad''$	4.90
$\frac{1}{2}''\quad''$	4·90
$\frac{5}{16}''\times 3\frac{1}{2}''\times 5''$	5.00
$\frac{3}{8}''\quad''$	5.00
$\frac{7}{16}''\quad''$	4.70
$\frac{1}{2}''\quad''$	4.90
$\frac{3}{8}''\times 3\frac{1}{2}''\times 6''$	4.80
$\frac{7}{16}''\quad''$	4.80
$\frac{1}{2}''\quad''$	4.80
$\frac{3}{8}''\times 4''\times 5''$	5.00
$\frac{1}{2}''\quad''$	4.90
$\frac{3}{8}''\times 4''\times 6''$	4.80

7/16″	〃	4.80
1/2″	〃	4.90
5/8″	〃	5.30

鋼板

厚	3′×6′	4′×8′	5′×10′
1/16″ 6.00	4.95	5.20	9.00
3/32″	5.50	5.20	6.50
1/8″	4.75	4,75	5.20
3/16″	47·0	4.70	4·70
1/4″	4.50	4.40	4,40
5/16″	4.40	4.40	4.50
3/8″	4·30	4.50	4.50
7/16″	4.50	4.40	4:40
1/2″	4.70	4.80	
5/8″	4.90		
3/4″			

縞鋼板

厚	3′×6′	4′×8′	5′×10′
3/16″ 8.00	7.00	8.00	
1/4″	7.50	7.00	8.00
5/16″		6.80	7.50
3/8″			

銅線鉛管其他

井筒政藏商店

ゲージ BWG	一尺重量	細増値	單價和百斤ニ付
#0 至 #16	四十二匁 一匁五分	建値	五八、〇〇
#17	一匁二分	〇、三〇	五八、三〇
#18	九分	〇、三〇	五八、五〇
#19	六分五厘	一、〇〇	五九、〇〇
#20	四分五厘	二、〇〇	六〇、〇〇
#21	四分	三、〇〇	六一、〇〇
#22	三分	四、〇〇	六二、〇〇
#23	二分五厘	六、〇〇	六四、〇〇
#24	二分	八、〇〇	六六、〇〇
#25	一分五厘	一〇、〇〇	六八、〇〇
#26	一分二厘	一二、五〇	七〇、五〇
#27	一分	一四、〇〇	七一、〇〇
#28	八厘	一五、五〇	七二、五〇
#29	七厘	一七、〇〇	七四、〇〇
#30	六厘	一九、五〇	七六、五〇
#31	五厘	二二、〇〇	七九、〇〇
#32	四厘五毛	二二、五〇	七九、五〇

眞鍮線

ゲージ BWG	一尺ノ重量	細増値	單價和百斤ニ付
#0 至 #11	四十二匁 五匁	建値	五四、〇〇
#12	四匁	〇、一〇	五四、一〇
#13	三匁	〇、三〇	五四、三〇
#14	二匁五分	〇、五〇	五四、五〇
#15	二匁	一、〇〇	五五、〇〇
#16	一匁五分	一、五〇	五五、五〇
#17	一匁二分	二、〇〇	五六、〇〇
#18	九分	三、五〇	五七、五〇
#19	六分五厘	五、〇〇	五九、〇〇
#20	四分五厘	六、五〇	六〇、五〇
#21	四分	八、〇〇	六二、〇〇
#22	三分	九、〇〇	六三、〇〇
#23	二分五厘	一一、〇〇	六五、〇〇
#24	二分	一二、〇〇	六六、〇〇
#25	一分五厘	一四、〇〇	六八、〇〇
#26	一分二厘	一五、五〇	六九、五〇

#27	一分	一四、〇〇	七一、〇〇	
#28	八厘	一五、五〇	七二、五〇	
#29	七厘	一七、〇〇	七四、〇〇	
#30	六厘	一九、五〇	七六、五〇	
瓦斯用鉛管	内徑 自1 1/4 至1 1/2	薄口	一、九〇	
雜用鉛管	内徑 自3/8 至6″	普通	一、八五	
水道用鉛管	内徑 自3/8 至2″	厚口	一、八五	

◎避雷針用撚線（一尺ニ付）

#12	拾三本撚	二拾三錢
#17	七本撚	九錢

鉛板	巾七尺 長卅尺	三厘一尺角三〇〇匁付
	四厘	三六〇〇匁付
	五厘	四八〇〇匁付
	一歩	九六〇〇匁付
	一歩五厘	一、四四〇匁付
	二歩	一、九二〇匁付

表に掲げざる材料値段は次號へ掲載

役員及職員

副會頭　理事長　岸岡　安
理事長　理事　池田　實
主記　理事　中澤誠一郎
同　理事　今林彦太郎
主計　理事　松本禹象
編輯　理事　佐藤彰美
同　理事　本多二郎
同　理事　伊藤正文
同　理事　田中綱
同　理事　谷口廉兒

大正十三年十二月十七日選擧に依り當選
（理事半數改選）

會頭　片岡　安
副會頭　宗兵藏
理事　古塚正治
理事　園部文雄
理事　和田貞治郎
理事　光安梶之助
理事　澁谷三郎
理事　吉井長七

編輯係
江村郊邨
薦田夏次郎

庶務係
四谷節
鷲取陽

會計係
田村春松
大和榮衛

會員	三六七	會員（地方）	一五三
名譽賛助員	七八	終身賛助員	五四
特別賛助員	三〇	普通賛助員	五一三
合計（十二月二十日現在）		一一九五	

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	七拾五錢	貳錢
	十二册	九圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓

特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ

大正十三年十二月廿八日印刷
大正十四年一月一日發行　（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一

大阪市東區內淡路町一丁目卅一番地
印刷所　大阪活版所

大阪市北區堂島濱通一丁目一番地
堂島ビルヂング
發行所　日本建築協會
電話北四一二九一一番
振替口座大阪三九九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座一（八四番

●第八集 第一号 掲載広告一覧（掲載順）

ミドリ商会
日本エレベーター製造
飾磨化学工業
大野正営業所
大塚鉄工所
日米板硝子
中央セメント
桜興業
浅野スレート販売
政正
カールツアイス
二和商会
南満鉱業
原田商会
福田製作所
石綿スレート
日本セメント防水剤製造所
浅野物産
ベニア商会
田村商会
建築金物商会
山本東作商店

浅野スレート販売大阪出張所
金剛商会
HANKEN SEISAKUSYO
横河橋梁製作所
大平工業所
岩住金庫鉄工所
大林組
日本ホロタイル
駒崎化学建材研究所
日本ペイント製造
湯浅蓄電池製造
共益社
今崎製作所
中村グラニット商会
野沢幸三郎商店
森川組
田中昌司商店
大福海上火災保険
日本建築協会
別府スティンド硝子製作所
奥村重兵衛商店
浅海商店

出浦建築事務所
新海建築工務所
大阪建築相談所
小笠原建築事務所
岡部顯則建築事務所
大阪建築所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
野村橋本建築事務所
国枝工務所
安井武雄建築事務所
柳下建築事務所
増田清建築事務所
前田松本建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所

西原衛生工業所大阪支店
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯工務所
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
藤木工務店
正木工務店
岡本工務店
鴻池組営業所
有山組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社

清水組大阪支店
銭高組
油脂化工社
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
須賀商会
大理石工業
栄進社
松尾
山本窯業商店
境川文庫
新田ベニヤ製造所
大阪青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
品川白煉瓦
日本本材工芸
高島屋呉服店
城口汚水処理研究所大阪支店
サカイブン建築鉄工所
ベニス工房
浜口商店
岩崎商業
小野田セメント製造
日本建築紙工大阪出張所

高田商会
セール・フレザー
星製薬
山本藤助商店
阿部鉄工所
東京建鉄
大阪耐火リノリウム工業
日本工剤
内外土木建築材料
大阪ビトロライト工事
河村青写真調製所
長田商店
山中商会
中松組
木下商店
桐田商会
川崎工場
裳華房
日本耐火スレート
金属建材工作所
淡陶
旭家具装飾
井上幸三商店
長山施工店

東洋コルク工業
塩路塗料工業所
大東塗料